資料２

R5.8.22 令和 5 年度 羽咋市まち･ひと･しごと創生総合戦略会議資料

がんばる羽咋創生総合戦略

全 80 施策　効果検証・評価シート
（各委員の意見集約版）

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

1	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(1)広域的な就労支援の推進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①合同企業就職面談会を通じて市内に就職した人数	25人(R2～R6年度累計)	11人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5人	10人(累計)	15人(累計)	20人(累計)	25人(累計)
実績値	0人	6人(累計)	16人(累計)	－	－
事業費予算額	545千円	545千円	607千円	－	－
事業費決算額	521千円	383千円	445千円	－	－
年度目標に対する達成率	0.0%	60.0%	106.7%	－	－
基準値に対する増減率	−100.0%	−45.5%	45.5%	－	－
担当課評価	△	○	◎		

評価の理由	一定程度の市内就職者の確保につながっている。
PLAN R4年度の 取組内容	周辺自治体等との広域連携による合同企業就職説明会・面接会の開催。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	【経緯】 R1.7に石川労働局と雇用対策協定を締結し、共同で雇用対策に取り組む事業の一つとして、同じく石川労働局と雇用対策協定を締結している志賀町と合同で企業就職面談会を実施することとなった。 【R2実績】 1回実施(12月5日志賀町文化ホール)し、参加企業はのべ20社、参加者数はのべ65人、就職者数はのべ22人(うち市内就職者は0人)であった。 【R3実績】 1回実施(12月4日コスモアイル羽咋)し、参加企業はのべ24社、参加者数はのべ59人、就職者数はのべ16人(うち市内就職者は6人)であった。 【R4予定】 昨年同様に2回実施を予定している。6月に参加企業を募集し、ハローワーク・志賀町と協議していく。また広報掲載等の情報の周知。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	R4は参加企業数30社(羽咋から13社)、参加者数は83人という結果になった。R3までは新型コロナウイルス感染症の影響により、当初は年2回開催予定としていたところ年1回の開催となっていたが、R4は計画どおり年2回開催することができた。市内企業への就職者が10人となり一定程度の地元企業への就労につながった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	R5も例年同様に2回の開催を予定し、雇用促進を図っていく。また、「面接会参加のべ企業数」については、今後の雇用情勢を踏まえるとともに、志賀町と合同開催による会場の収容企業数等を考慮していきたい。その他、求人情報の公開においても、継続して地元企業の周知を図っていきたい。

有識者会議による検証評価

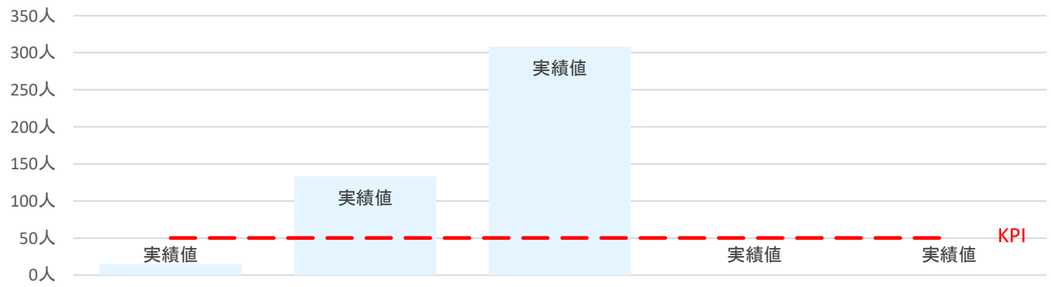
評価	総数	意見
◎	19	①羽咋市の企業を知ってもらう良い機会。採用実績もあり効果が認められます。企業側や求職者のニーズを適時把握し取り組みを発展させていくと良い。 ②周辺自治体との広域連携であれば、労働局との協定が必須かどうかわからないが、隣接する宝達志水町や中能登町とも連携を広げれば更に効果が期待できるのでは？ ③コロナ禍明けで企業の人手不足感は増しており事業の継続は必要である。 ④コロナ後になり更なる成果も期待できる。事業継続が必要。 ⑤志賀町以外の自治体との取組はないのか。 ⑥就職に結び付いているのは良い。ただ、参加人数の5分の4は就職につながっていないともいえる。なぜミスマッチが起きているのかも調べてほしい。 ⑦年々参加企業の数も増加していて、良い流れになっていると感じます。 ⑧就職面談会を通じた就職が効果があるなら、回数を増やしてみてはどうか。 ⑨効果を感じる。市内企業への就職者10名から就職の決め手を聞き、就職者のニーズを分析したらよいと思う。また、合同企業説明会に参加する羽咋市内の企業の数も増やせたらよいなと思う。 ⑩面接会の様子を発信して参加企業を増やす工夫をしてほしい。
○	2	①のべの意味は？R4はコロナの沈静化で増えた可能性がありR5が正念場。市内参加企業をもっと増やせないか。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

2	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(1)広域的な就労支援の推進	地域振興室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②仕事紹介ツアー参加者数	50人(R2～R6年度累計)	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	10人	20人(累計)	30人(累計)	40人(累計)	50人(累計)
実績値	15人	133人(累計)	308人(累計)	－	－
事業費予算額	2,000千円	2,000千円	9,000千円	－	－
事業費決算額	10千円	1,738千円	7,675千円	－	－
年度目標に対する達成率	150.0%	665.0%	1026.7%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	◎	◎		
評価の理由	想定したツアーは実施できなかったものの、オンラインを含む広域的体験プログラムを実施し新たな人の流れの創出につなげたため。				

PLAN R4年度の 取組内容	就職氷河期時代を含む都市圏の若年層向けに仕事紹介ツアーを実施し、市内企業の「しごと」とのマッチングによる移住へつなげる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①広域連携による仕事や住まいの情報共有、都市圏イベントの合同出展(夏頃から6カ月ほどの期間で実施予定) ②企業向けワーケーションを核とする新しい人の流れの創出 ③3市町の空き家紹介などを横断的に行い移住アドバイザーとしての「移住プランナー」の業務支援、管理 ④共同HP運営などの情報発信の強化及びしごとをテーマとする広域的移住体験ツアーの開催(10月頃実施予定)
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和3年度から本市単独ではなく、七尾市や中能登町と連携し広域的に移住や関係人口拡大に向けて取り組んでいる。 ①「しごと」の観点においてはワーケーションを推進し、9月に日本航空株式会社の社員5人が能登千里浜レストハウスでテレワークするなどのモニターツアーを実施。官民連携により新たな人の流れの創出を図った。 ②、③、④また、コロナ禍であったことから、当初予定していた「しごと紹介ツアー」ではなく、首都圏において、オンラインも活用して3市町の移住プランナーにより能登地域の暮らしのリアルや就農・就業に係るセミナーを開催。参加者に専用LINEへ登録を促し、関係人口拡大につなげている(LINE登録者数は約1，500人増加)。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①引き続き、首都圏イベントへの参加、企画を行い、広域的なスケールメリットを生かしてLINE登録者への誘導を行う。 ②ワーケーションについては、官民連携による企業向けワーケーションと保育園留学ワーケーションのそれぞれを実施を見据え、企業、個人向けニーズの双方をカバーする。 ※副業人材マッチング事業については、昨年度に実績のあった企業からの手応えや感想を盛り込んだPR動画を作成し、令和5年度の早い段階から募集告知して参加企業を募ることとする。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	19	①仕事よりもプライベートの充実を望む風潮なので、羽咋で過ごせるプライベート時間の充実をアピールするとよいと思う。 ②オンラインやSNSの活用は参加者拡大に効果がある。他の地域と差別化した魅力的な発信を継続し参加者の増加につなげるとよい。KPIまたは目標値を見直してはどうか。 ③体験ツアーを実施し、移住者との交流の場を設けることで移住への後押しを行う。 ④保育園留学ワーケーションは子育て世代にとっては魅力のある取組であると思います。 ⑤取組みの成果がある。羽咋市の魅力発信を継続して欲しい。 ⑥実績値は高いが今後の採用等に結びついているのか。 ⑦参加者を目標値に設定するのではなく、308人が参加してどれくらいの移住につながったかどうかが重要ではないか。 ⑧神子原や柴垣のような場所をロールモデルとして紹介し、「移住者と仕事」「移住者と生活」のイメージを仕事紹介ツアーやオンラインセミナーの中で掴んでもらうのはいかがでしょうか？ ⑨事業費は約700万円と大きいが、約300人のツアー代かな？オンラインツアーもツアー代かかるの？ ⑩実際にその場で見て、聞いて感じた事が将来の就労につながるはずです。今後も継続した取り組みを期待しています。 ⑪羽咋市といえば、千里浜や広い土地での農作業できる(？)など他の自治体と差別化できるところでアピールをしてほしい。
○	2	①若者だけでなく、定年後や定年前の人を呼び込むことを考えては。専門知識を必要としている企業を専門知識をいかしたい人のマッチングも検討しては。 ②移住者の人数が資料から分かるとより評価判断がしやすいのではないでしょうか。前年度の実績値に対する決算額と4年度のデータを比較しますと、決算額が増大していると感じました。内容が決算額にともなっているものなのか多少疑問を感じました。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

3	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(2)起業支援・事業引継ぎ支援の強化	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①新規起業支援者数	30人(R2～R6年度累計)	3人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	6人	12人(累計)	18人(累計)	24人(累計)	30人(累計)
実績値	5人	10人(累計)	25人(累計)	－	－
事業費予算額	5,800千円	3,600千円	19,600千円	－	－
事業費決算額	4,479千円	2,700千円	16,231千円	－	－
年度目標に対する達成率	83.3%	83.3%	138.9%	－	－
基準値に対する増減率	66.7%	233.3%	733.3%	－	－
担当課評価	○	○	◎		
評価の理由	第二創業も支援する補助制度内容としたことで、申請件数が増加した。				

PLAN R4年度の 取組内容	①市内で起業を目指す者に対して、初期投資経費等の一部助成で、起業の支援を図る。 ・起業家支援事業 (基本90+中心商店会30+女性又は若者30+転入30＝180万円)
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①市商工会等の創業支援機関との連携による産業支援体制の強化。 ②起業後のフォローアップや交流会等を開催する。 ③県外転入者の小規模事業者拠点開業に係る支援。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度の決定件数は15件、うち第二創業は7件。 第二創業と認める条件を「日本標準産業分類の小分類が異なる場合」としていたが、現在営んでいる事業と新たに始める事業にあまり差異がない第二創業の申請や、内製化(屋根工事業を営む者が板金業を開始する場合)といった判断が難しい事例があった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	要綱を改正し、第二創業の基準を日本標準産業分類の小分類から中分類に変更し、現在営んでいる事業と比較して明らかに新分野と判断できる場合及び内製化を対象とする。

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	19	①起業を応援してあげるのは、大事！羽咋市で起業するとメリットがある事をPRできるともっとよいと思う。 ②起業後のフォローアップも充実させ総合的な施策を講じていくことが必要。フォローアップの実績と今後のアクションはどうか。 ③起業後の事業継続(割合)はどうか。フォローをしっかりと行っていくことが重要。 ④起業か成功するための継続的なサポートをきめ細かに行ってほしい。(相談会、交流会等) ⑤起業後も長続きするには、地元とのつながりが欠かせない。フォローアップや交流会など、つながりを重視した取組を工夫、充実してほしい。 ⑥起業後1年目、3年目など継続する支援があれば良い。 ⑦羽咋市としての課題や市民のニーズなどを市がまとめ、公開することで、その課題を解決できるような新たな事業を起こす新規起業者が現れるかもしれない。そういう新規事業者を支援する方がWIN-WINな関係を築けるような気がする。(今までの支援策にプラスしてそういう支援の枠をつくってもよいのではないかという話です。)
○	2	①起業後のフォローが大事。商店会の意識改革も必要。 ②起業後の支援体制の確立が大切。(行政、地域で)
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

4	Ⅰ　魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(2)起業支援・事業引継ぎ支援の強化	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②女性起業支援者数	10人(R2～R6年度累計)	2人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	2人	4人(累計)	6人(累計)	8人(累計)	10人(累計)
実績値	2人	3人(累計)	10人(累計)	－	－
事業費予算額	5,800千円	3,600千円	19,600千円	－	－
事業費決算額	2,160千円	296千円	4,076千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	75.0%	166.7%	－	－
基準値に対する増減率	0.0%	50.0%	400.0%	－	－
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由	女性が起業しやすい環境を整え、目標よりも多くの女性を支援した。
PLAN R4年度の 取組内容	①市内で起業を目指す者に対して、初期投資経費等の一部助成で、起業の支援を図る。 ・起業家支援事業 （基本90+中心商店会30+女性又は若者30+転入30＝180万円）
DO 事業 スケジュール 課題など （具体例： いつ、誰が、 どこで、何を …）	①市商工会等の創業支援機関との連携による産業支援体制の強化。 ②起業後のフォローアップや交流会等を開催する。 ③県外転入者の小規模事業者拠点開業に係る支援。
CHECK 3月末時点 （1年間の 振り返り及び 効果検証）	飲食業、菓子製造業、士業、組紐製造業を開始する女性を支援し、市内の事業者数の増加につながった。 ただし、女性起業家であれば年齢に関係なく加算される制度となっており、本来の意義と異なる。
ACTION 対応方向 （上記を踏まえての今後の方向性）	要綱を改正し、女性というだけで加算するのではなく、市内に住民票がある又は転入予定の45歳未満の男女及び15歳未満の子供を持つ男女を支援する制度を立ち上げたい。

有識者会議による検証評価

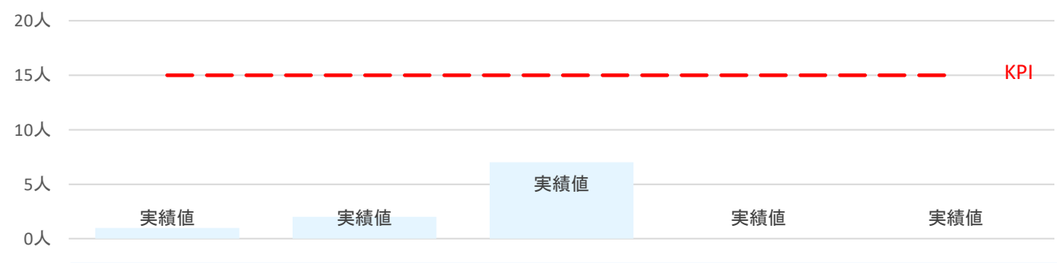
評価	総数	意見
◎	19	①起業したい女性は案外多いのでもっとPRすべき。 ②起業してがんばっている様子を広報等で伝えて市民にアピールすることで事業者を増やしていく。 ③3と4を連動してPRに努め、長続できるよう工夫・改善していってほしい。 ④助成金をもらって起業した業種、内容は？その後の考査は。 ⑤起業後の動向、フォローが気になる。起業して終わりではダメ。 ⑥対応方向については、概ねよいと思います。(細かい年齢については、議論の余地があると思います。) ⑦女性の起業は経済的な効果のみではなく、住民パワーや弱者支援のPR効果もある。女性起業支援を継続した方が良い。 ⑧女性が活躍できる環境づくりと場づくりが必要。 ⑨今後の方向性はよいと思う。起業したい若者(特に、子育て中の女性を想定)が共同で事業を起こせるように、羽咋市からそういう人をつなげるような働きかけがあったらいいと思う。例えば、商工会の起業のセミナーなどで仲間などをマッチングできたらよいと思う。メンバーの調整などが難しいと思うが、グループで事業案を一つ仕上げるなどの課題に取り組ませるなど。
○	2	①フォローが大切。定年後のばあちゃん起業でもいいのではないか。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

5	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(2)起業支援・事業引継ぎ支援の強化	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
③事業承継支援人数	15人(R2～R6年度累計)	3人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3人	6人(累計)	9人(累計)	12人(累計)	15人(累計)
実績値	1人	2人(累計)	7人(累計)	－	－
事業費予算額	5,800千円	2,400千円	19,600千円	－	－
事業費決算額	736千円	300千円	3,900千円	－	－
年度目標に対する達成率	33.3%	33.3%	77.8%	－	－
基準値に対する増減率	−66.7%	−33.3%	133.3%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	市内事業者のスムーズな事業承継を支援することができた。
PLAN R4年度の 取組内容	①中小企業の後継者育成を支援し、設備の更新等の経費の一部を助成。 ②地域の若返りと地域活力の増進を図る。 ・事業承継事業 (基本90+中心商店会30+女性又は若者30+転入30＝180万円)
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①中小企業者の事業継承や第二創業に関する経費等(店舗、工場等の改修や設備更新、賃借料、広告宣伝費等)の一部を助成。 ②円滑に後継者に引き継ぐことを支援する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	事業承継に伴う設備や施設を支援することができた。5件中2件が飲食業であり、近年課題となっている市内飲食店の減少を抑える役割を担った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	飲食業の承継を推進できるような新たな施策を検討していく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	①事業承継は重要。助成するだけでなく相談できる取組も必要。
○	18	①大型店が増えているなか、どのように承継するのか。 ②飲食店承継の新施策とは何か。支援の前に事業承継の大切さを啓発することから始めないといけないのでは。 ③働く場所やにぎわい作りの継続のためしっかりと支援をしてほしい。 ④起業を志す当事者へのアドバイスや将来設計、行政の支援事業とのコンサルタントする機関との連携の強化。 ⑤羽咋市にとって必要な事業に絞り、起業したい人たちや移住者に周知させていくことが必要だと思う。サーチファンドというものもある。
△	1	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

6	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(3)シニア世代保有技術の活用・就労支援	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①シルバー人材センター会員の登録者数	400人	300人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	320人	340人	360人	380人	400人
実績値	274人	256人	242人	－	－
事業費予算額	9,569千円	9,569千円	9,569千円	－	－
事業費決算額	9,569千円	9,569千円	9,569千円	－	－
年度目標に対する達成率	85.6%	75.3%	67.2%	－	－
基準値に対する増減率	−8.7%	−14.7%	−19.3%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	概ね事業スケジュールを達成できたと考えるため。
PLAN R4年度の 取組内容	①独自事業(「シルバーeco農園」・自然米・メロン等の栽培・販売)等を活用した会員増加を図る。 ・シルバー人材センター活動運営支援事業
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①委員会活動の支援(普及啓発委員会/就業開拓委員会/安全適正就業委員会/広報委員会) ②年間普及啓発活動の支援(入会者説明会・県下のシルバーフェスタの開催) ③10月の全国普及啓発促進月間に広報活動の実施 ④ボランティア活動の実施 ⑤普及啓発チラシ発行(新聞折込1回/年、市内回覧2回) ⑥ホームページによる事業内容のPR ⑦普及啓発スローガンの募集 ⑧労働力を発信する仕組みづくり。 ⑨農作物栽培等の独自事業への支援。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・北信越シルバー人材センター連絡協議会、公益社団法人全国シルバー人材センター連合会を除いては主要な委員会とは開催された。普及啓発委員会は年3回開催され入会者説明会についてなどに取り組み21人もの新規会員が入会したが35人が退会したため会員数は減少した。 ・会員募集以外にも就業拡大PR活動やセンター1階ロビーにて活動紹介コーナーで情報提供を行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	就業分野において就業率の改善やミスマッチ防止に取り組むことによる会員数の拡大を試みる。また、ホームページやシルバーだよりによる普及啓発を継続的に行っていくなど多岐にわたる方法で普及啓発活動を行う。

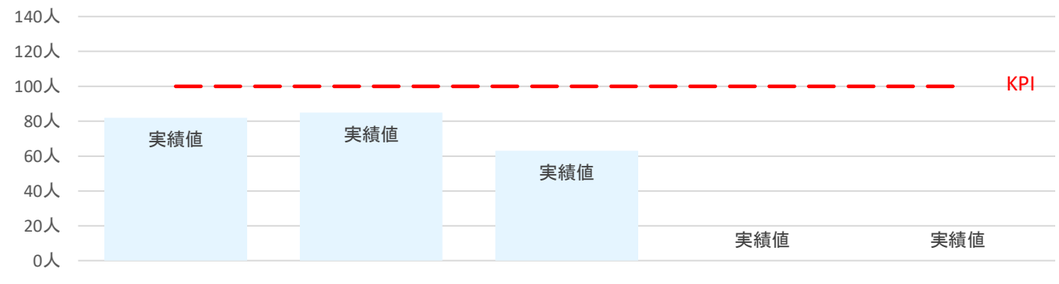
有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	19	①健康寿命が延びており職を求めているシルバー人材はいるはず。現会員や新たに職を求めている方たちの意見を聴き、職種を広げることも必要ではないか。 ②農作物の収穫で人手が足りず廃棄されている事例が増加しており、サポート体制を整備できないか。 ③高齢者割合が増加している中、高齢者の就業形態も多様化している。また、地域の活性化のためにもシルバー人材センターのPRを積極的に行うことが必要。 ④シルバー人材センターの職種としてどんなことがあるのか示して募集してはどうか。 ⑤シルバー人材センターの活動が見えにくい。どこで広報しているのか？ ⑥空き家の管理や庭の草かりなどの仕事を取り入れてみては。シルバー経験者には引退後にシルバーを使うと割引するなどのメリットをつければ。 ⑦令和3年度の意見にもあるが、「元気な」高齢者ではなかなかいないということだろうか。逆に、元気でいつづけるためにシルバー人材センターに入会というPRもできるのではないか。 ⑧今後60才台減少し、定年後も延長されていく中で、シルバー登録者は70才台が中心になると思う。70才台の高齢者はどんな仕事を望んでいるか調査してほしい。 ⑨退職後の就職先として枠の中に入りたくないと考える人が多くなったのでは…？ ⑩まだ働くことができるシニア世代の方々が第二の人生として、シルバー人材センターに登録して、どんなメリットがあるのかをもっと広報誌などで周知すればよいと思う。イノシシ駆除するための狩猟免許の案内をシルバー人材センターに登録している人へすることで、高齢者のイノシシ駆除部隊ができたら話題にもなりそう。
△	2	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

7	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	1 多様な就労支援、就労環境の整備	担当課
	(4)新規就農者等に対する総合的な支援	農林水産課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①自然栽培・有機・エコ栽培者数	100人	79人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	83人	87人	91人	95人	100人
実績値	82人	85人	63人	－	－
事業費予算額	3,320千円	3,500千円	5,000千円	－	－
事業費決算額	2,420千円	3,116千円	4,858千円	－	－
年度目標に対する達成率	98.8%	97.7%	69.2%	－	－
基準値に対する増減率	3.8%	7.6%	−20.3%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	新規に台湾への販促事業を行い、自然栽培の普及推進と消費拡大を図った。
PLAN R4年度の 取組内容	自然栽培農産物のブランド化を推進し、就農に関する情報提供、助成を行うことで新規就農者を増加させる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①自然栽培作物を利用した加工品開発を行う自然栽培農業者等への支援を行う。 ②小中学校、保育所、幼稚園の給食への自然栽培農作物の提供など、自然栽培に関するPRを行い、自然栽培作物の普及を推進する。 ③自然栽培農業者に対して、自立化に向けた指導を行う。 ④農業参入センターやJAによる営農指導を引き続き行う。 ⑤就農を希望する人への情報提供や相談を行う。 ⑥ウィズコロナを見越したイベントの企画を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	販売への支援として、台湾での販促イベントを行った。 学校給食へ自然栽培作物の提供を行うとともに、7月から11月にかけて、邑知保育園をモデルと位置づけ、収穫した自然栽培野菜等の提供を行い、自然栽培の普及に取組んだ。県内外の人へ自然栽培マニュアルを28件送付し、自然栽培のPRを行うことが出来た。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	イベント等を通じて羽咋市の情報や就農支援施策について伝えるよう取り組んでいく。 国内外へ自然栽培農産物の販促を行うことで消費拡大を図り、自然栽培の規模拡大と普及推進に努める。

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	3	①栽培者が減った理由を聞きたい。羽咋の魅力の1つなので支援の充実を継続してほしい。 ②ふるさと納税やイベントなどで「羽咋市と言えば自然栽培農業」というくらいまでPRを進めていってほしい。移住者やシルバー人材センターの登録者への自然栽培などに従事してもらうように働きかけてもよいと思う。
○	18	①自然栽培の作物は、おいしいし、体にもよいが価格が高いので買いにくい面がある。価格を抑えられる方法を指導できるとよいと思う。 ②マーケットの開拓や需要の喚起につながるPR、支援を要望します。 ③農業大学校等へのPRはできないか？ ④農業で生活していけるかどうか、不安材料である。故に生産物の販路についても手助けが必要である。 ⑤コウノトリの故郷、豊岡市が生産している「コウノトリ育むお米」のような取組を「トキ」放鳥に合わせて取り組んでみたらどうか。 ⑥休耕地が増加している。その実態をつかんでいるのか。 ⑦半農半○をすすめることが一時的には必要では。 ⑧前年度の実績値から22人も減少していますが、この点の言及がないのは残念です。減少した原因について、どのようなことがあったのでしょうか。 ⑨就農者の減少が一時的なものか分析が必要。成功している方の情報をSNS等で広めてほしい。 ⑩自然栽培ありきではどうか？まずは、農業に携わる人への営農指導が必要では？
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

8	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	2 地域資源を活用したしごとの創出	担当課
	（1）羽咋ブランドを活用したしごとの創出	商工観光課

重要業績評価指標（KPI）	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①羽咋まちづくり㈱の売上額	450,000千円	377,000千円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	310,000千円	350,000千円	390,000千円	420,000千円	450,000千円
実績値	320,000千円	340,145千円	439,969千円	－	－
事業費予算額	9,592千円	3,142千円	3,745千円	－	－
事業費決算額	8,164千円	3,038千円	3,745千円	－	－
年度目標に対する達成率	103.2%	97.2%	112.8%	－	－
基準値に対する増減率	−15.1%	−9.8%	16.7%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	商品開発及び販路拡大を行い、売上・利益を確保することができた。
PLAN R4年度の 取組内容	①利益率の高い自社商品開発の推進及び既存商品のリニューアルによる魅力向上を目指す。 ②市内事業者との連携をさらに強化し、ふるさと納税返礼品やネット販売での販売数を拡大、店舗外収益の増収につなげる。 ③市県外への販路拡大と生産量増加、品質向上。
DO 事業 スケジュール 課題など （具体例： いつ、誰が、 どこで、何を …）	①地域商社事業部を中心とした市内産品の発掘と商品開発、生産を進める。 ②道の駅自社通販サイトの販促力の強化。ふるさと納税出品事業者の商品をラインナップに加えるなど、市内産品紹介媒体を増やし、全国の消費者へ情報発信を行う。 ③県内小売業への卸販売を足掛かりに、県外へも販路拡大を進める。
CHECK 3月末時点 （1年間の 振り返り及び 効果検証）	①カジマート、DAIWA、エムザ等の外商に加え、徳光サービスエリアや県外の道の駅やランプの宿等のホテル・旅館への売り込みを進めた。 ②肉フェスや千里浜かき祭りなど新たなイベントを企画・実施し、誘客を推進した。 ③地元企業と連携した企画を行い、地域内で連携した観光戦略を推進した。 ④氷見番屋街や京都南山城、高知四万十の道の駅などと相互に商品開発し、連携販売を行った。また、東京のアンテナショップ、大阪駅羽咋フェアなどで出品を行い、店舗外での収益確保を図った。 ⑤より自主自立した経営、民間ノウハウをフルに生かした運用を行うため、市の出資株式を売却し、持ち株比率を減少させた。
ACTION 対応方向 （上記を踏まえての今後の方向性）	①利益率の高い自社商品開発の推進及び既存商品のリニューアルによる魅力向上を目指す。 ②市内事業者との連携をさらに強化し、ふるさと納税返礼品やネット販売での販売数を拡大、店舗外収益の増収につなげる。

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	19	①羽咋まちづくり(株)は、売場の雰囲気や配列の仕方がよい意味で変わってきたと思う。イベントもいろいろ考えていて頑張っている。更なるブランドを立ちあげて欲しい。 ②順調に売り上げが伸長しており、コロナが落ち着いたことで今後も客足の増加が見込める。民間のノウハウを生かし、自然栽培とコラボした新たな特産品や土産など、魅力的な商品開発を期待する。 ③域経済への波及効果を期待しています。 ④知恵を出して、PRを続けてほしい。 ⑤千里浜ヒルズ開発の核であり、さらなる商品開発と市内外の事業者と連携を深めるべき。 ⑥売上額が着実に増加しているので、今後も期待しています。 ⑦肉フェスやかき祭りなど積極的なイベント展開は市民としてもワクワクさせられる。市民も観光客も一体となって楽しめるイベントが今後もあればよい。 ⑧着実に売上を伸ばし、羽咋市をPRしていることは評価できる。今後の活動が来客数の増加に結びつくことを期待したい。 ⑨色々な手だてを講じた取り組み評価できる。行列のできる太巻き、玉子ごはんなど身近な産物の発掘を期待する。 ⑩羽咋色を強めた商品の開発・PRを今後も頑張っていただきたい。
○	2	①羽咋の特色を生かして今後もマンネリ化しないで進んでいってほしい。 ②自主経営はいいと思う。羽咋以外の商品も増えているので、ザ・羽咋の商品がもっと目立つようにしてほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

9	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	2 地域資源を活用したしごとの創出	担当課
	(1)羽咋ブランドを活用したしごとの創出	農林水産課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②のとしし販売額	35,000千円	20,900千円

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	22,000千円	25,000千円	28,000千円	31,000千円	35,000千円
実績値	9,424千円	2,571千円	4,606千円	－	－
事業費予算額	4,690千円	3,360千円	3,062千円	－	－
事業費決算額	1,800千円	738千円	1,031千円	－	－
年度目標に対する達成率	42.8%	10.3%	16.5%	－	－
基準値に対する増減率	−54.9%	−87.7%	−78.0%	－	－
担当課評価	△	○	○		
評価の理由	豚熱による捕獲減、新型コロナウイルス感染症による需要減があったが、今後も継続して取り組む必要がある。				

PLAN R4年度の 取組内容	有害鳥獣から農産物被害を防止するため、イノシシ等を捕獲し、ジビエ等の普及に向けた取り組みにより販売促進へつなげる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①感染区域内のイノシシについても捕獲、回収し、食肉加工販売の準備を進める。 ②衛生管理活動を継続的安定的に進め、安心・安全を提供に努める。 ③コロナ禍でも今後の状況に対応できる販路開拓や普及促進について検討する。 ④獣害対策についても引き続き取り組み、農作物被害を抑える。 ⑤ウィズコロナを見越したイベントの企画を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	豚熱の影響により、令和4年度の市内での捕獲頭数は220頭であった。(最盛期はH30年度の606頭) また、のとしし団においての食肉処理頭数は66頭であった。(最盛期はH30年度の367頭) さらに、新型コロナウイルス感染症による影響で飲食店からの注文も急減した。 捕獲頭数は増加傾向にあり、今後は多少の回復が見込まれる。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえ ての今後の方 向性)	イベント等を通じてのとししの更なる情報発信に努める。 猟師の方々に対し、より一層の捕獲への取り組みを依頼し食肉の確保に努める。

評 価 項 目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	16	①まだまだ認知度が低いと感じている。レシピ等を付加したイノシシ肉の活用など市民が関心を持てる施策が必要ではないか。 ②住民に食べたことがあるかのアンケートをしてみてはどうか。 ③コロナや豚熱の影響を考えると現状仕方ない面は否めないが、鳥獣害対策の一環で必要な事業。レシピの公募や飲食店との共通メニューの開発といったイベントにより盛り上げることはできないか。 ④回復傾向ということで、改めて「羽咋のジビエ」「のとしし団」のPRを。 ⑤豚熱、コロナのダブルパンチは販売額に大きく響いた。今後の動向を見極めながら情報発信を続ける必要がある。
△	3	①実績値にある販売数では、仕事として成り立たないと思います。捕獲したイノシシを産業廃棄物として処理するだけでなく、販売するという方向性は良いと思うのですが、現在業務に従事している方が今後も継続して業務を行えるのか、また、新規に業務に従事できる方がいるのか、今後の継続性に疑問を感じます。そちらへの支援のことについて、検討されているのでしょうか。 ②KPIの見直しが必要のなのでは？羽咋市の特色になり得ることができる可能性があるので、「のとしし団」にはより一層頑張っていただき、羽咋市全体で支えていく必要があるように感じる。 ③取り組みの継続とPRの拡大を。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

10	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	2 地域資源を活用したしごとの創出	担当課
	（1）羽咋ブランドを活用したしごとの創出	農林水産課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標（KPI）	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
③羽咋米の生産量	50t	26t

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30t	34t	38t	42t	50t
実績値	27t	30t	44t	－	－
事業費予算額	19,726千円	19,017千円	20,139千円	－	－
事業費決算額	11,013千円	14,692千円	16,365千円	－	－
年度目標に対する達成率	90.0%	88.2%	115.8%	－	－
基準値に対する増減率	3.8%	15.4%	69.2%	－	－
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由	目標値の達成。
PLAN R4年度の 取組内容	自然栽培米の耕作面積、面積当たりの収穫量を増加させる。
DO 事業 スケジュール 課題など （具体例： いつ、誰が、 どこで、何を …）	①自然栽培農業の収量増加に向けた栽培方法に取り組む。 ②はくい式自然栽培実行委員会主導の生産・販売計画の共有を図る。 ③農地中間管理機構を通した農地のあっせんによる自然栽培米の耕作地の拡大につなげる。 ④スマート農業の導入による省力化を行い、生産効率を上げる。 ⑤土壌の分析・改良を行い、収量の増加に取組む。
CHECK 3月末時点 （1年間の 振り返り及び 効果検証）	反収、合計収量ともに前年を上回り、目標値を達成した。 令和4年度の事業により、JAはくいがアイガモロボを5台導入し、部会員へ貸し出すことができることとなった。
ACTION 対応方向 （上記を踏まえての今後の方向性）	はくい式自然栽培実行委員会と連携し、栽培面積・生産農家の拡大、収量の増加の取り組みを実施。 アイガモロボの活用やカバークロップの実施などにより、収量向上に努める。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	18	①せっかく自然栽培のノウハウがあるので体にも良いしきちんと利益が出る仕組みを考えて進めて欲しい。 ②資材等の価格が高騰する中、もう少し収穫を増加させる技術が確立されれば、慣行栽培と並行して生産する人も増えると考える。 ③収入増加につながれば生産者も増加する。その為に自然栽培米のよさを消費者にアピールすることも必要である。 ④経営として自然栽培をみたとき、低反収と作業負荷が大きいことに見合った価格設定ができるかが、やはり重要。消費者との交流等を通じ、羽咋米の魅力をアピールし、（「多少、価格が高くても、美味しいから買いたい」といった）ファン拡大の取り組みが必要と考える。 ⑤さらに増やす努力を。 ⑥自然栽培、有機、エコ栽培者数(進捗管理シート7)が前年度から22人も減少している中で、反収、合計収量とも前年を上回り、これは効率よく作業を行われたと考えてよろしいでしょうか。従事者あたりの反収、収量も気になるところです。いずれにしましても、従事者が生活できるような内容であれば良いことかと思います。 ⑦継続した上で作業負荷やコスト面でどうか等検証しよりブラッシュアップしていってほしい。 ⑧順調に生産量が増加している。羽咋のPRに大いに効果がある。 ⑨自然栽培の米作りをする生産者への支援を手厚くすればよいと思う。市外からお金を呼び込む、大きな手段になり得ると思う。羽咋市の外からアイガモロボは、現場では実際に使われているのか。その効果を現場は感じているのか。
○	3	
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

11	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	3 学生の就職と地元企業の雇用におけるマッチングを強化	担当課
	(1)地元高校生の市内企業就職を後押し	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①地元高校生の地元企業就職者数	40人	22人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	40人	40人	40人	40人	40人
実績値	31人	29人	39人	－	－
事業費予算額	－	7千円	7千円	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	77.5%	72.5%	97.5%	－	－
基準値に対する増減率	40.9%	31.8%	77.3%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	一定程度の地元企業就職者を確保できている。
PLAN R4年度の 取組内容	地元高校生(七尾市・羽咋市・志賀町・宝達志水町・中能登町)の市内企業への新規就業者数の増加を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①高等教育機関と連携した市内企業・産業への職場体験、若者の地元就職の促進。 ②羽咋工業・羽松高校を対象とした地元企業体験会を行う。 ③学生への魅力ある就職先の創出と就職機会の提供。 ④若者サポートステーション石川、ジョブカフェ石川との連携。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	R5.3.22に羽咋工業高校生26名を対象に「地元企業見学会」を実施した。市内企業を訪問するとともに、進路指導担当教諭と意見交換をすることにより、各校生徒の状況の把握と、市内企業の概要PRを行った。また、若者サポートステーションと連携し、就職に対する出張相談会を開催(9月、11月、3月の計4回)。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	高校生に対して実際に働くイメージを持たせることや地元企業への理解を深めることで地元企業への就職につなげる。また企業に対しては今後の羽咋市をけん引する若い人材育成や労働力の確保のため、より多くの企業に参加推奨を図る。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	①どこの企業も人手不足に悩まされているが、地元採用が一番の願望だと思う。地元に定着してもらう要素が見えにくいので、明確化してもらえれば対策も取りやすくなる。 ②羽咋市内の良い企業を高校生のうちに知れることは将来的にも意味があると思う。羽咋工業の生徒だけでなく広く羽咋市内外の若者がそういった知る機会を得られるようにするべきだと思う。
○	18	①羽咋市で働く人が魅力的にならないと地元ラブ意識が薄れていく！地元で働く素敵な人を取材したりしてケーブルテレビや広報にのせてはどうか？ ②高校生に地元企業を知ってもらう良い機会。ハローワークや雇用対策協議会でも類似の活動を行っており連携し進めていくと良い。進学率が高まっているので進学後を見据えた施策も必要。 ③対象の高校を拡大し、多くの高校生に地元企業の認知度を高め、高卒就職者のみならず進学後の就職やUターン転職を考える際にも影響が見込まれる。 ④少しずつ成果が出てきている。今後もまわりの市町と協力した取組に期待する。 ⑤ミスマッチ解消の取り組みが重要と考える。そのために、インターンシップ制度のようなものも有効ではないか。 ⑥大学進学等で市外へ行った人を将来帰る様に先を見た対策。 ⑦市内企業をもっと知ってもらうことが必要。親や先生にも。 ⑧羽咋工業と地元企業とのこれまでの信頼関係によるところも多い事業かなと感じました。決算額が0なので、市の事業とする意義はいかなることがあるのでしょうか。反対する趣旨ではありません。 ⑨地元で生き生きと働く先輩の声を聞かせるのはやはり効果的ではないか。役所、企業、フリーランス様々な形態で働く20代後半～30代くらいの話を聞かせて「羽咋で働く」イメージをふくらませてもらうのが必要に思う。 ⑩市内企業への就職も大切だが、県内の企業に就職して住所を羽咋に残す方が現実的ではないか。 ⑪高校生が求め、持てる力を活かせる企業があれば。
△	0	
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

12	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	3 学生の就職と地元企業の雇用におけるマッチングを強化	担当課
	(2)大学生と市内企業とのつながりを強化	地域振興室

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①課題解決型インターンシップ受入人数	6人	1人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	2人	3人	4人	5人	6人
実績値	2人	3人	3人	－	－
事業費予算額	1,320千円	1,320千円	1,320千円	－	－
事業費決算額	450千円	675千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	100.0%	75.0%	－	－
基準値に対する増減率	100.0%	200.0%	200.0%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	目標値には達することができなかったが、学生と社会人インターンシップ生、ふるさと兼業人材という様々な形態の人材とのつながりを築くことができたため。				

PLAN R4年度の取組内容	令和4年度についても学生だけでなく社会人に対しても課題解決型のインターンシップを受入れを行うことで、市内企業や地域の活性化を図り、関係人口の拡大を目指す。また、令和3年度に受け入れた神子の里の人材2名については、神子原地区や神子の里が持続可能な地域や企業となるように将来ビジョンの構築や事業戦略を行うために継続して受け入れを行う。
DO 事業スケジュール 課題など (具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	①令和4年度末まで、神子原地区のふるさと兼業人においては、神子原地区の新たなビジョンの具体化について神子原地区関係者とともに具体化するために協力してもらう予定。 ②課題解決型インターンシップ生においては、募集、マッチング、成果報告の流れにつながるよう支援していく。
CHECK 3月末時点 (1年間の振り返り及び効果検証)	①神子原地区では、ふるさと兼業人からの知見を生かし、新たにサウナを取り入れた民泊群を形成する構想が始動した(R5年 2軒開業)。引き続き、神子の里では、ふるさと兼業人材と連携しながら地域活性化につなげていくことを検討する。 ②能登千里浜レストハウスにおいては、金沢大学2年生を課題解決型インターンシップ生として受け入れ、令和2年度に整備した2階部分「コワーキングベース千里浜」の専用ライン開設や、独自企画イベントのカキ祭りを開催。能登千里浜レストハウスのPRや魅力向上に努めている。また、市でも金沢大学と連携し、デジタル人材を6カ月間受け入れており、スマートシティ推進を図った。 ※②では、人材の長期滞在先として移住体験住宅を利用(市として間接的支援)。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和5年度は、課題解決型インターンシップ生と受入事業者をスムーズなマッチングを図るため、制度内容を紹介する事業者説明会を開催予定。また、社会人と地元事業者の関わりについては広域的に副業人材マッチング支援事業を実施し、大学生や社会人と地元事業者のつながり(オンラインによるつながりも含む)を引き続き築いていくことを予定している。

有識者会議による検証評価

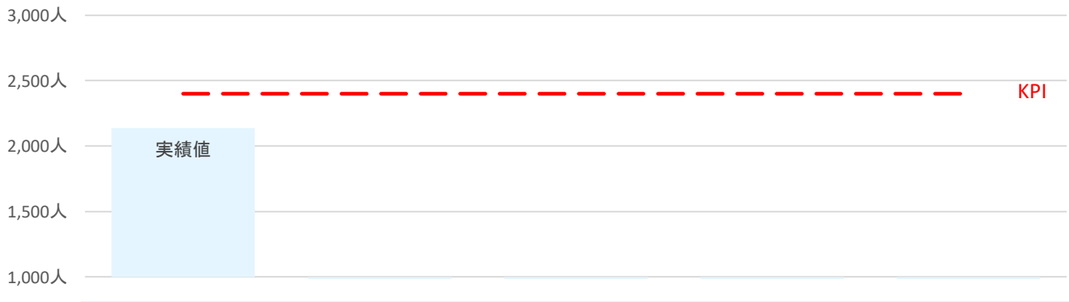
評価	総数	意見
◎	16	①神子原、千里浜それぞれ魅力のある場所でインターシップから定住していける様に努力はおしまないで欲しい。羽咋市は、住みやすい町！海も山もある！ ②能登千里浜レストハウス以外の事業者を増やしていくことが必要である。そのための事業者説明会は期待する取組である。 ③金大全ての取組は話題になり効果があった。他大学との連携も進めてほしい。 ④ミスマッチ解消の取り組みが重要。そのために、インターンシップ制度が有効と考える。 ⑤受け入れ先が固定しないように取り組み拡大を。 ⑥羽咋市を盛り上げようとする熱量のある人を、羽咋市もできる限り支援すべきだと思う。PRをより一層頑張っていただきたい。 ⑦企業と積極的に連携を図り、受入企業数を拡大を進めてほしい。
○	5	①神子原もレストハウスも自分の努力でやっているところが大切。市は何をしているのかよく分からない。 ②大学生の単位取得のみならず、当地でしか体験できなことを通じて、大学生自らが行きたくなる羽咋であってほしいと思います。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

13	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	4 基幹産業の育成と支援、企業進出を推進	担当課
	(1)成長分野における製造業・次世代産業の育成・支援	商工観光課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①製造業の従業員数	2,400人	2,275人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	2300人	2325人	2350人	2375人	2400人
実績値	2139人	－	－	－	－
事業費予算額	21,645千円	613千円	0千円	－	－
事業費決算額	21,339千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	93.0%	－	－	－	－
基準値に対する増減率	−6.0%	－	－	－	－
担当課評価	△	○	○		

評価の理由	企業への支援を継続し、雇用の確保につなげるため。
PLAN R4年度の 取組内容	製造業等の工場棟の新・増設を支援し、雇用人数に応じた助成を行うことにより、雇用人数の増加を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	新規企業誘致や事業拡張計画を有する既存企業を側面(用地取得・助成制度適用など)から支援することなどにより、企業の資本投資の実現につなげ、雇用者数の増加を図る。 ＜羽咋市商工業振興条例助成金＞ ①助成対象　製造業などの新設・増設(投資総額5,000万円以上) ②助成率等　投資額の20%以内　※雇用人数で助成率変動 ③雇用助成　市民雇用:50万円／人、既存雇用転入:25万円／人
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	羽咋市商工業振興条例助成について、令和4年度は完了届が2件、新規申請が2件あった。新型コロナの影響で景気が停滞していたが、落ち着きつつある経済状況が上回いてきていることから工場を増設企業が増えてきている。一方で、各企業において事業拡大に向けて取り組んでいるが、人手不足が深刻な問題となっている。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き、新規企業誘致や事業拡張計画する既存企業を側面(用地取得・助成制度適用など)から支援し、企業の資本投資の実現につなげ、雇用者数の増加に図っていく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	19	①大手の企業は、半導体の工場を日本で建設する土地を探している。その様な企業を誘致する為に広大な工業団地を開発してはどうか。 ②雇用の増加は市人口増加にも結びつく可能性がある。少しでも助成率アップはできないか。(まわりと比較して？) ③誘致に際し、更なるメリット(税制優遇等)を検討できないか。 ④地元企業人支援は賛成です。実績値が出せないのであれば、KPI自体の見直しを検討されてはいかがでしょうか。 ⑤地元雇用や移転従業員など、着実に成果が出ている取り組みのように思う。HP以外でも広くPRを。 ⑥人が働きたいと思えるホワイトな企業をもっと優遇し、誘致してほしい。
△	2	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

14	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	4 基幹産業の育成と支援、企業進出を推進	担当課
	(1)成長分野における製造業・次世代産業の育成・支援	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②先端設備等導入計画の認定件数	15件(R2～R6年度累計)	8件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3件	6件(累計)	9件(累計)	12件(累計)	15件(累計)
実績値	4件	5件(累計)	9件(累計)	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	133.3%	83.3%	100.0%	－	－
基準値に対する増減率	−50.0%	−37.5%	12.5%	－	－
担当課評価	○	△	○		

評価の理由	生産性向上に向けた設備導入に基づく認定件数が増加したため。
PLAN R4年度の 取組内容	少子高齢化や人手不足、働き方改革等へ対応するため、老朽化が進む設備を生産性の高い設備へ一新させ、事業者の労働生産性の向上を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①事業者の設備投資において、事前に「先端設備等導入計画」を作成し、市が認定することで、固定資産税の軽減や金融支援などの支援措置を活用することが可能となり、労働生産性の向上につなげる。 ②商工会等とも連携しながら、対象事業者への制度の周知を図っていく。 事業予算は該当なし。(実績の翌年度以降の税収に反映)
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度末実績で先端設備等導入計画認定件数は、新規:3件　変更(追加):1件となった。 本制度の主な対象は、中小企業であり、新型コロナの影響で景気が停滞していたが、落ち着きつつあり経済状況が上向いてきていることから企業による設備投資が行われてきている。 各企業において人手不足が深刻な問題となっていることから、設備投資により生産性向上に努めている。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き、当該制度の周知を図るとともに、有識者会議による事業者の経営支援と労働生産性の向上を図っていく。

有識者会議による検証評価

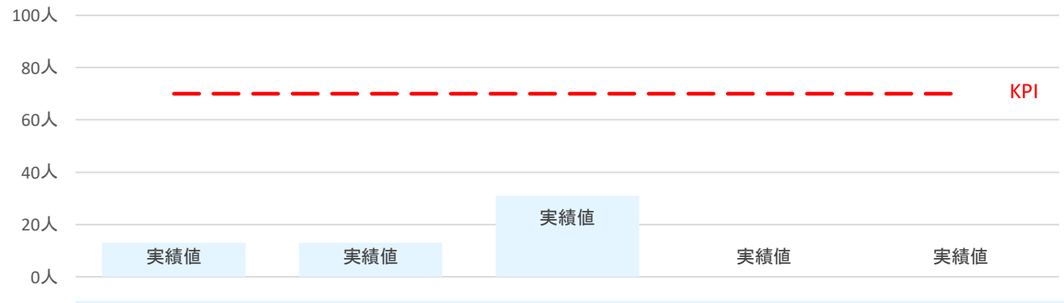
評価	総数	意見
◎	0	
○	21	①良い企画なので周知が大事！ ②制度の周知とともに、生産性改善の具体的施策も紹介していってはどうか。 ③企業への一層の周知と、より有利な税制優遇と補助金とのセットを期待。 ④サテライトオフィスの誘致はやり方を考えないと難しいのではないか。 ⑤成長分野のみならず、これまで市の基幹産業として地域を支えてきた業種などにも税の軽減などを検討してみてはどうでしょうか？コロナ後の全融機関への借入金返済が本格化する中で、地域の企業が消滅していくことを心配します。 ⑥希望する事業者の把握とセールス、更に制度の周知を拡大する必要がある。 ⑦効果が出そうなところに必要な設備投資ができるようにしてほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

15	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	4 基幹産業の育成と支援、企業進出を推進	担当課
	(2)企業立地・誘致の推進	商工観光課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①誘致企業の新規雇用者数	70人(R2～R6年度累計)	56人(H26～H30年度累計)



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	15人	30人(累計)	45人(累計)	60人(累計)	70人(累計)
実績値	13人	13人(累計)	31人(累計)	－	－
事業費予算額	21,645千円	613千円	10,575千円	－	－
事業費決算額	21,339千円	0千円	10,575千円	－	－
年度目標に対する達成率	86.7%	43.3%	62.2%	－	－
基準値に対する増減率	−76.8%	−76.8%	−50.0%	－	－
担当課評価	○	△	○		

評価の理由	社会情勢等を踏まえながら工場等の新・増設を支援し、雇用人数の増加を図る。
PLAN R4年度の 取組内容	製造業等の工場棟の新・増設を支援し、雇用人数に応じた助成を行うことにより、雇用人数の増加を図る。 令和2年度に創設したサテライトオフィス立地支援制度の周知を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	新規企業誘致や事業拡張計画を有する既存企業を側面(用地取得・助成制度適用など)から支援することなどにより、企業の資本投資の実現につなげ、雇用者数の増加を図る。 女性雇用の優遇など、商工業振興条例等による企業への助成拡充を検討する。 事業予算は、実績に応じて補正予算で対応予定
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度は、商工業振興条例に基づく増設計画等の適用認定申請が2件、事業完了届が2件であった。事業完了届のあった企業については雇用人数がそれぞれ7人及び8人となっており合計で15人の新規雇用があった。うち地元雇用は6人及び2人＋移転従業員1人であった。また、F補助金に基づく新規企業が1件あり、新たに3人の雇用が生まれている。サテライトオフィスの誘致制度について、市HPなどで周知を図った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	新規企業進出や工場増設等により、雇用の拡大が図られるよう市内の企業や石川県と連絡を密にしてい く。女性雇用の優遇など、引き続き助成拡充の対象・方法を検討していく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	21	①　⑬―⑮総合すべき。 ②企業誘致や設備投資への支援は継続して行ったことが重要であり引き続き積極的に進めてほしい。 ③働き方の多様化は世の中の流れ。サテライトオフィス誘致の支援制度の一層のPRを望む。 ④立地支援の周知が市HPだけでは物足りない。宝達志水のように手紙作戦などを考えてみては。 ⑤14に同じ。サテライトオフィスの誘致はやり方を考えないと難しいのではないか。 ⑥人が働きたいと思えるホワイトな企業をもっと優遇し、誘致してほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

16	Ⅰ 魅力あるしごとを創出	
	4 基幹産業の育成と支援、企業進出を推進	担当課
	(2)企業立地・誘致の推進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②寺家工業団地の新設分売却(R6年度まで)	売却完了	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	－	－	－	売却完了
実績値	－	－	－	－	－
事業費予算額	－	－	0千円	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	引き続き寺家工業団地の未利用地への新規企業の立地を図り、企業誘致を推進する。
PLAN R4年度の 取組内容	市土地開発公社保有の寺家工業団地の未利用地への新規企業の立地を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	石川県との情報共有を緊密にし、新規企業立地を図る。 本市の強みを生かした積極的なPR活動やWEB上の専門サイトなども活用した用地情報の拡散を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	羽咋北部工業団地(寺家)に所有する工業用地を(財)日本立地センターのHPに掲載を依頼し、産業用地情報に掲載されている。 石川県へ企業進出の情報提供を継続して依頼しているが、当該用地への誘致には至っていない。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き、新規企業進出や工場増設等の情報収集を行うとともに、当該工業団地の利便性(立地条件や助成制度など)を積極的に発信し、未利用地への企業立地を図っていく。

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

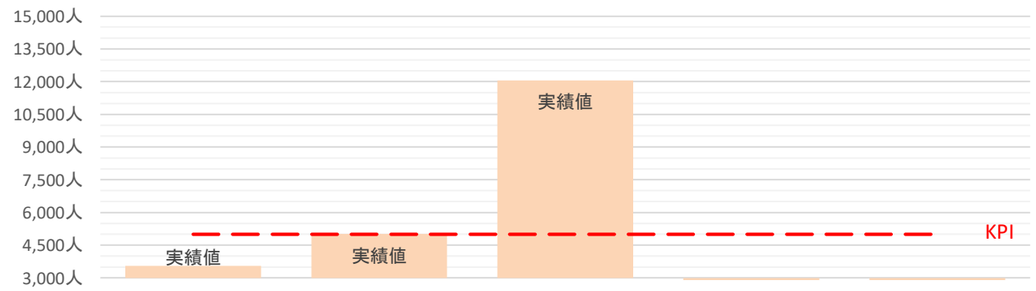
有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	19	①誘致に至っていない理由をさぐってみる必要があるのではないか。 ②他の施策にも関連するので、引き続き幅広い産業分野への企業誘致の働きかけに期待。 ③予算、決算額がない事業について評価することは困難です。 ④企業にとって魅力がある土地なら新設はたやすい事と考える。何が不足しているのか？分析しながら、取り組みを継続してほしい。 ⑤人が働きたいと思えるホワイトな企業をもっと優遇し、誘致してほしい。
△	2	①新しい工夫をしないと難しいのではないか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

17	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	（1）観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	商工観光課

重要業績評価指標（KPI）	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①千里浜、柴垣海岸でのイベント参加者数	5,000人	3,977人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	4,200人	4,400人	4,600人	4,800人	5,000人
実績値	3,549人	5,025人	12,058人	－	－
事業費予算額	2,777千円	3,100千円	7,400千円	－	－
事業費決算額	2,515千円	3,015千円	5,565千円	－	－
年度目標に対する達成率	84.5%	114.2%	262.1%	－	－
基準値に対する増減率	−10.8%	26.4%	203.2%	－	－
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由	大幅に人数の増加を果たせたため。
PLAN R4年度の 取組内容	①体験型・滞在型観光メニューの開発・開発支援・情報発信を行う。 ②ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、開催支援方法を見直しつつ羽咋市の魅力発信イベントを実施し交流人口の拡大、市内経済活性化を図る。（SSTR開催支援事業）
DO 事業 スケジュール 課題など （具体例： いつ、誰が、 どこで、何を …）	①市内施設、提携している日本旅行、関係各課と連携し、より魅力と集客力のある体験型・滞在型観光コンテンツを開発・開発支援する。また、需要度の高いエリアや年齢層などターゲットを見定め効果的な情報発信と営業活動を行う。 ②開催規模拡大による開催方法の変化や感染症の発生状況に合わせ、おもてなし方法及び運営支援方法を検討。イベント期間中にとどまらない、参加者や関係者の市内回遊による経済効果を高める企画を行う。
CHECK 3月末時点 （1年間の 振り返り及び 効果検証）	①SSTRを5月21日～29日と10月1日～2日の計2回10日間開催。羽咋市SSTR応援事業実行委員会としてライダーに対するおもてなし活動を行った。 ②おもてなし協力店利用者にステッカーを配布するなど今回からの新たな試みを取り入れよりよいライダーをおもてなしする環境を整え開催を支援した。
ACTION 対応方向 （上記を踏まえての今後の方向性）	①体験型・滞在型観光メニューの開発支援・情報発信を行う。 ②コロナウイルスによる行動規制などで減少した観光客数を、開催支援方法を見直しつつ羽咋市の魅力発信イベントを実施していくことで観光客数の回復、交流人口の拡大、市内経済活性化を図る。（SSTR開催支援事業）

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

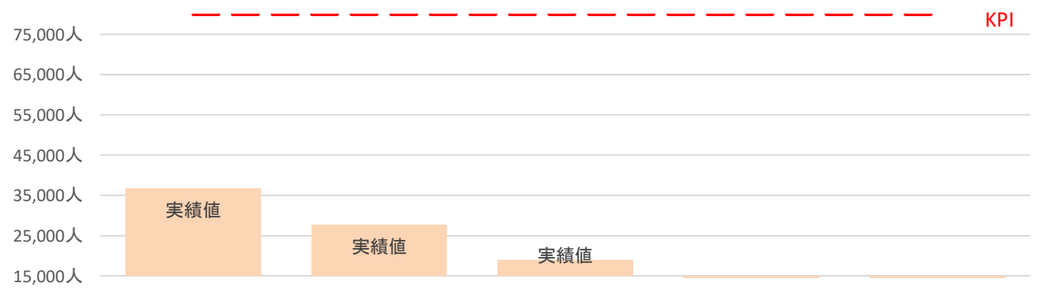
評価	総数	意見
◎	19	①SSTR以外にも千里浜の魅力を生かせるイベントは必要。 ②観光協会との連携。 ③知名度の高い千里浜の四季を通じたイベント等の開催に向けて毎年進化するよう幅を広げて下さい。 ④市民向けイベントを行っている団体への協力・補助はあるのか？年々深刻化している海岸減少に対しての考え方は？県や国に対しての養浜状況がわからない。このまま何もしないと消滅してしまう。 ⑤SSTRの開催期間はにぎわっていると感じる。それ以外でのにぎわいの創出として新たな企画はできないか(冬の時期) ⑥引き続き羽咋市の魅力発信イベントを実施し、交流人口の拡大、経済活性化に取り組んでもらいたい。 ⑦SSTRのイベント価値をさらに高め全国にPRし関連行事も充実させていてほしい。 ⑧千里浜は羽咋の武器特にSSTRは大きなイベントになった。ポストSSTRも考えてほしい。 ⑨海岸でのイベントPRは多いに賛成です。ただし、世界的な視点から見て、自然環境へ自動車等の排気する車等が乗入れることについては一度検討してみる時期に来ている気がします。私の考えは、乗入れ禁止するのではなく、貴重な自然に対する保全のために乗入れする前に通行料をとってはどうか？という意見です。(バス1台1,000円、バイク100円地元民無料)羽咋市はもっと強気で自信をもってPRしていけば良いと思います。 ⑩たくさん来てくれるライダーが市内の観光地を周遊し、滞在時間が長くなるとよりよいと思う。地元の方による出店ブースなどを設けているようだが、おもてなしのカレーや汁物でいっぱいになってブースでは食べ物系は売れないとの声を聞いた。おもてなし自体は非常によいことだが、地元出店者にも利益が出るようにほどほどの量(おなかいっぱいにならない程度の・・・)にはできないものでしょうか。 ⑪柴垣海岸は景勝地長手島を中心にサーフィン、サップ、釣り等のマリンレジャーで若者が集っています。さらに長手島を恋人の聖地とする為に力を入れて頂きたいと思います。 ⑫着実に成果を上げており今後も一層の支援、発信を期待したい。 ⑬素通りの町から一服して楽しむ町にしてほしい。 ⑭SSTR以外でも毎年恒例となるような千里浜をうまく活用したイベントを企画してほしい。千里浜インターのところに新しいホテルができるなら、夜のイベント（野外ライブ等）も考えてみてはどうか。
○	1	①コロナの行動制限が緩和されたことに伴うもので、どこまで取り組みの成果か分からない。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

18−1	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(1)観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	商工観光課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②妙成寺来訪者数	80,000人	65,267人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	68,000人	71,000人	74,000人	77,000人	80,000人
実績値	36,730人	27,751人	19,058人	−	−
事業費予算額	−	−	−	−	−
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	−	−
年度目標に対する達成率	54.0%	39.1%	25.8%	−	−
基準値に対する増減率	−43.7%	−57.5%	−70.8%	−	−
担当課評価	△	△	○		

評価の理由	昨年に比べて来訪者数が減少しているが、広報・情報発信を強化し取り組む必要がある。
PLAN R4年度の取組内容	①観光パンフレット等によるPR ②妙成寺来訪者数(観光客入込調査)の増加を図る。
DO 事業スケジュール課題など(具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	①観光庁等の実施する事業へ応募・チャレンジし、地元の観光情報を発信。 パンフレットの提供継続や地域教育事業等との連携。 ②歴史文化財の保護と、観光振興の連動 環境整備と市民意識の醸成。 ③広域連携による市内周遊型観光の促進 イベント等による観光地周辺のイメージアップ。
CHECK 3月末時点(1年間の振り返り及び効果検証)	市内おすすめの観光施設取材にて妙成寺を取り上げていただくなどによって広報・イメージアップなどに努めた。結果として、来訪者数は減少したが情報発信はできていると考える。
ACTION 対応方向(上記を踏まえての今後の方向性)	①引き続き羽咋市のみでなく、他の機会の活用を視野に入れて情報発信を行っていく。 ②歴史文化財の保護と観光振興の連動 ③他の市内施設・観光地と連動し、滞在時間の長時間化を図る。

有識者会議による検証評価

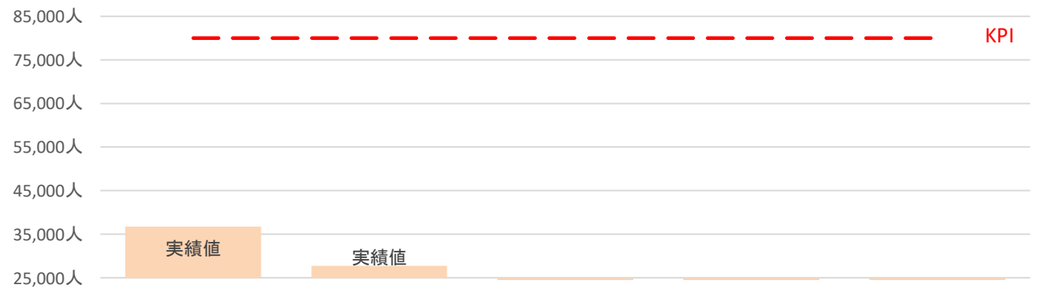
評価	総数	意見
◎	2	①妙成寺のPRイベント開催を。
○	16	①今年も同じ意見です。アプリ！ ②妙成寺の国宝化が一番。国宝に指定されることで観光客も増えると考える。 ③「妙成寺を国宝へ！」のイベント、PRを継続しどんどん盛り上げていってほしい。 ④コロナの影響で実績値が低調なのはやむを得ない。歴史的資源は地域の宝。妙成寺の国宝指定に向けた取組をPRと周辺の環境整備の予算確保を望む。 ⑤羽咋市の町会や各種団体への妙成寺の国宝化への意識付けが必要。その為の団扇、五重塔シール等を作っては？ ⑥観光パンフレットも良いがSNSでの発信も積極的に行うと良い。 ⑦妙成寺の国宝指定の継続と羽咋市の観光施設のPRの強化が必要、
△	3	①国宝化の取り組みは一部でだけ盛り上がっていると思う。外からだけでなく、市民が訪れる機会をつくるべきでは。 ②予算を付けてください。予算なしで何をする事業なのでしょうか。 ③KPIを見直した方がいいのでは？国宝化すればすべて解決するというわけでもないと思う。交通の便が悪いように感じる。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

18−2	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(1)観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	文化財課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②妙成寺来訪者数	80,000人	65,267人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	68,000人	71,000人	74,000人	77,000人	80,000人
実績値	36,730人	27,751人	19,058人	−	−
事業費予算額	4,150千円	4,700千円	1,000千円	−	−
事業費決算額	4,144千円	4,455千円	990千円	−	−
年度目標に対する達成率	54.0%	39.1%	25.8%	−	−
基準値に対する増減率	−43.7%	−57.5%	−70.8%	−	−
担当課評価	△	△	○		
評価の理由	新型コロナによる来訪者数の減のなか、文化財の価値の普及と情報発信は可能な限り工夫し、積極的に実施できた。				

PLAN R4年度の 取組内容	妙成寺の国宝指定を目指し、文化的、学術的価値を高める調査研究を進め、価値を周知することが重要。 1　妙成寺の価値を周知し、文化財愛護の機運を高めるため、広報や出前講座・報告会等、市民への啓発活動を行う。 2　移住定住促進や交流人口増加の一助とするため、歴史と文化豊かな郷土づくりを目指し、羽咋市内の文化財の適切な保存管理や活用を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	妙成寺の国宝指定を目指し、一昨年の文化庁の指導を踏まえ、専門有識者による文化的、学術的価値の調査研究を進めていく。また、今後も新型コロナウイルスの感染拡大が考えられるので、公開講座の開催方法等を検討し、これまでの調査研究事業の成果を基盤に公開講座を実施し、より多くの市民や県民への周知を図っていく。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	㈱ラジオ金沢に委託してラジオ番組「羽咋市歴史物語妙成寺編」の制作および放送を行い、直接視聴者に向けて妙成寺の歴史と地域文化、魅力を発信した。放送後には、ラジオ番組にイラスト・写真等を加えた動画コンテンツも制作した。市公式HPで広く公開するほか、市内小中学校・公民館等にも配布し、価値の発信・周知のほか、郷土教育・生涯学習に活用する計画である。制作された番組は、プロの俳優や噺家が出演するラジオドラマで、イラストもストーリーに合わせて工夫されており、クオリティが非常に高い。視聴する機会を積極的に増やすことにより、妙成寺の歴史的価値の周知が見込まれ、本市の歴史と文化の魅力発信、妙成寺の来訪者数の増加、交流人口増加が期待される。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	市内公式HP・youtubeでの動画コンテンツ公開、SNSを活用した情報発信、学校教育、生涯学習で活用する。これにより市民・県民のほか、県外にも情報提供が可能となり、交流人口増加をめざす。妙成寺のほかにも、本市の歴史と文化を紹介する文化財コンテンツを充実させるように取り組む。

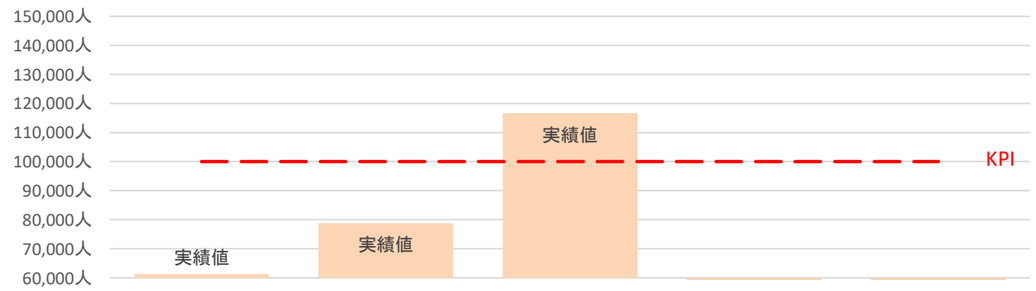
有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	①継続してほしい。
○	16	①妙成寺だけでなくその他の文化財もセットで考えるとよいと思う。 ②コロナの影響で実績値が低調なのはやむを得ない。歴史的資源は地域の宝。妙成寺の国宝指定に向けた取組をPRと周辺の環境整備の予算確保を望む。 ③妙成寺の中でイベントを開催することはできないか(音楽会等) ④妙成寺の歴史的価値の高さをさらに理解してもらえるようPRしていってほしい。 ⑤文化財課に集客を求めるのは酷ではないでしょうか。国宝になれば、放っておいても客は来ると思います。文化財課には、歴史的価値の探求に集中していただき、商工観光課などで、門前町の活用を検討してみてはいかがでしょうか。(毎月の「市」や露店など)リピーターを増やすことも課題と感じます。 ⑥動画コンテンツを初めて拝見したが、確かにわかりやすく親しみのもてる内容になっていると思う。この記述で初めて知ったので、SNS等を通じて市内外に積極的に情報発信に努めてほしい。 ⑦更に積極的な周知活動の継続を期待する。
△	3	①国宝になった年1年間だけ観光客が増加する。国宝後のことも考える。 ②18−1に同じ。 ③KPIを見直した方がいいのでは？国宝化すればすべて解決するというわけでもないと思う。交通の便が悪いように感じる。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

19	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(1)観光資源の魅力を活用した官民・広域連携による誘客の促進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
③市内宿泊者数	100,000人	83,245人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	60,000人	70,000人	80,000人	90,000人	100,000人
実績値	61,308人	78,825人	116,631人	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	102.2%	112.6%	145.8%	－	－
基準値に対する増減率	−26.4%	−5.3%	40.1%	－	－
担当課評価	○	◎	◎		

評価の理由	行動規制が明けたことにより宿泊数が回復したため。
PLAN R4年度の 取組内容	①旅行等による宿泊者数の増加を図る。 ②さまざまな旅行に対応した周遊滞在型の観光を推進。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①ICT等を活用した観光・旅行客に向けた情報発信機能の整備とその積極的な活用。 ②天然温泉や地元料理のPR及びブランド化を目標としたイベントや施策の実施、、広域連携による魅力発信。 ③観光設備への投資による環境整備。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	イベントや情報発信により集客力を高める取り組みができる環境が整備されている。各イベント等における情報発信の効果もあり、宿泊者数が増加した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き継続した情報発信を行う。周遊滞在型の観光資源を開発する。

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	19	①実績値は確実に増えているので継続して取組んでいくことが必要である。山側の活用も視野に入れられないか(永光寺等) ②キャンプ場、オートキャンプ場等の整備を進めていってほしい。 ③コロナ禍での工夫を行った経験を活かし、引き続き観光資源を磨き上げ、PRしてほしい。 ④来春、本格OPENする眉丈台地キャンプ周知に力を入れてほしい。 ⑤予算がないのに、どのように事業を行っているのでしょうか？観光協会が代わりに何かしらの事業を行っているのでしょうか？市内宿泊者が増加していることは喜ばしいことと思います。 ⑥F補助金とは何ですか？ ⑦リピーターが増え、そのリピーターが仲間をつくれば！「また行って食べたいなあ」と思える食べ物があってもいいと思う。 ⑧千里浜からまず盛り上げていってほしい。需要があるなら、千里浜にもグランピング施設を作ればよいと思う。
○	2	宿泊者が増えたのはコロナの規制緩和によるもので、取り組みの成果が分からない。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

20	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(2)千里浜IC周辺の賑わいづくり	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①道の駅のと千里浜のレジ通過者数	30万人	26.7万人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	25万人	28万人	29万人	29万人	30万人
実績値	18万人	19万人	24万人	－	－
事業費予算額	47,544千円	3,831千円	3,745千円	－	－
事業費決算額	47,544千円	3,795千円	3,745千円	－	－
年度目標に対する達成率	72.0%	69.5%	84.2%	－	－
基準値に対する増減率	−32.6%	−28.5%	−10.1%	－	－
担当課評価	△	○	○		

評価の理由	アフターコロナに向けた集客を積極的に行った。
PLAN R4年度の 取組内容	①地元町会や千里浜温泉郷の各施設と連携し、一体となった集客イベントを実施する。 ②市内産品のPR、観光や産業情報の発信など観光交流施設として総合的な情報発信を行う。 ③シーズンごとの恒例イベントを実施し、市内外での認知度を高める。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①軒下を活用し、シーズンごとや夏期・冬期のイベント時に地元町会・市内施設とのコラボ企画を実施する。 ②市内の観光や特産品の情報収集を強化し、HP・インスタグラムなどSNSの更新頻度を上げ、きめ細やかな情報発信を行う。 ③夏期、冬期の恒例イベントを実施し、観光客だけでなく市民への認知度も高める。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①地元の他企業と連携し、千里浜かき祭りを実施。 ②周年祭等で氷見番屋街と相互に出店するなど観光交流拠点どうしでのつながりを構築し相互集客につなげた。 ③軒下を活用した、キッチンカーフェスやビアガーデン等を定期的に実施し、観光客だけでなく地元住民の集客を実施した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	① スイーツ商品のバリエーション拡大やカフェタイムを新設し自社運営かテナント誘致でランチタイム以外の売上獲得を図る。 ② 新規取引先開発と協業を進めて、クラフトビール、グラノーラ、ドライフルーツ等自社商品の開発に繋げる。また、さつまいも、米、麦、りんご、柿、イチジク、すいか、メロン等の羽咋の生産物で新商品を開発する。 ③ 石川県はもとより隣県の富山県・福井県へ自社商品の販路拡大する。 ④ 月一回のペースでイベント計画＆マスコミとの連携強化で賑わい創出する。 ⑤ イベントや新商品紹介などを活用し、マスコミ各社との連携を推進する。ホームページの刷新とタイムリーな情報提供他のSNSとの連携強化と専任スタッフの育成する。

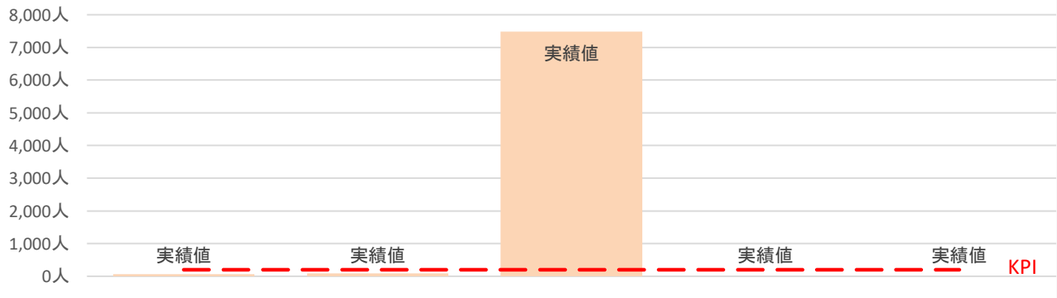
有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	①積極的なイベント展開で観光客のみならず市民も足を運びたくなる場所になっていると感じる。この調子で攻めの姿勢でがんばってほしい。
○	18	①道の駅と地元の温泉郷とコラボで何かイベントがあると楽しい！ ②道の駅のにぎわいは予想以上であり、店内が少しせまい気がする。広くして地元の物を少し並べられないか(地元の展示品等) ③月1回のイベント企画を工夫を加えながら継続してほしい。 ④コロナ禍での工夫を行った経験を活かし、引き続き観光資源を磨き上げ、PRしてほしい。期待しています。 ⑤目標、実績値の人数は何の数字か不明。 ⑥忘れらた存在になっている。駐車場に止まれず帰ってしまう事がある。道路向かいの駐車場も目立つようにすべきでは。 ⑦羽咋市内で市外の人が来る場所として最も人が多い場所と考えていますので、この条件を活用して積極的に攻めていただけるとうれしいです。 ⑧集客に向けた努力を実施している。これからその成果が現れると思います。 ⑨色々工夫された企画が行われる。今後も継続して欲しい。 ⑩平日限定のお得なランチで地元の人も呼び込めたらいいと思う。
△	2	①リニューアルする必要がある。 ②道の駅は土日はもちろん平日でも車がかなりたくさん来ていて、ほぼ満車なのに、目標値に届かないというのが不思議です。来る人は多いけど買い物をする人が少ないということでしょうか？それならば品物を見直す必要があると思います。原因を調べてほしいです。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

21	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(3)新たな人の流れを創出する体験型観光等の推進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①体験型観光利用者数	200人	120人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	120人	140人	160人	180人	200人
実績値	70人	90人	7,478人	－	－
事業費予算額	600千円	879千円	1,095千円	－	－
事業費決算額	600千円	640千円	882千円	－	－
年度目標に対する達成率	58.3%	64.3%	4673.8%	－	－
基準値に対する増減率	−41.7%	−25.0%	6131.7%	－	－
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由	体験型イベントが功を奏して多くの方が参加した結果
PLAN R4年度の 取組内容	①砂像展示及び砂像制作を体験型観光とした千里浜海岸の魅力発信。 ②SSTR及びその他千里浜海岸や道の駅イベントとコラボした砂像制作を企画。情報発信による観光客誘致を図る。 ③地域おこし協力隊の情報発信支援。体験型観光コンテンツの利用者拡大による市内経済活性化を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を	①4月～道の駅イベント、SSTRとコラボしイベントにちなんだPR砂像を製作。 ②8月～自衛隊とのコラボイベントにおいて砂像制作。砂像制作体験を企画し体験型観光のスキーム作りを検討する。 ③5月～10月サーフィン・SUPなど地域おこし協力によるマリンスポーツに関する情報発信量を増やし、シーズンの誘客増を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	コロナ対策を行いながら、千里浜砂像協会と連携し砂像の体験型イベントを実施。道の駅のと千里浜にて、砂像と自衛隊コラボイベントを開催し、市内外から多くの方が来場。また、新たな文化観光資源の体験イベントとして、NTT西日本をはじめとした、県内の多くの企業と連携し、コスモアイル羽咋にて「羽咋eスポーツフェスタ」を開催した。また、会場の外には市内で営業しているキッチンカーも多くの親子連れが参加した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	従来の観光振興策の継続と体験型観光の磨き上げを行うとともに、本市の文化的観光資源を活かしながら、コロナから回復した観光客及びインバウンド消費を呼び込む取り組みを行う。 また、今年度開催する国民文化祭を一過性のものに終わらせず、生涯学習課や文化財課と横断的に取り組み、県や観光協会、旅行会社などと連携し、文化と観光を融合させた商品の企画や体験型観光イベントを開催し定着を図る。

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

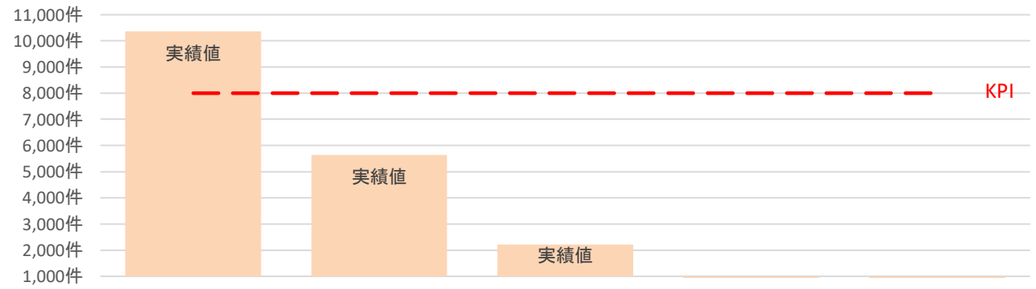
評価	総数	意見
◎	17	①体験型観光として神子原でのオーナー型田植え、稲刈り、永光寺での宿坊体験等を計画してはどうか。 ②国立能登青少年交流の家で行われている砂像作りと連携を図ってみたらどうか。 ③柴垣の地域おこし協力隊は何をしているの？金を払っているだけに見える。失敗。砂像コンテストの継続を考えてほしい。今のままでは後継者がいない。 ④実績値の基準を変更されては比較ができません。 ⑤体験型観光と宿泊施設と連携があると羽咋市内の周遊につながってなおよいのではないか。 ⑥羽咋の魅力を大いにPRできるイベントが成功している。この波を生かしてほしい。 ⑦砂像制作の体験型観光やSSTRなどのイベントが定着し、リピーターの増加や人が人を呼び、利用者数が増加する事を期待します。PRの更なる継続を。 ⑧様々なイベントの企画、ありがとうございます。効果のあったものを実施回数を増やすなどすればよいと思う。
○	3	①砂像体験を重視するなら、砂像協会の作り手支援にも力を入れるべきでは。自転車で千里浜や寺、神社を回るツアーとかをしてみては。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

22	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(4) 多様なツール、人材による情報発信	秘書課

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市フェイスブック「いいね」件数	8,000件	6,525件



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	7,000件	7,000件	7,500件	7,500件	8,000件
実績値	10,360件	5,638件	2,219件	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	148.0%	80.5%	29.6%	－	－
基準値に対する増減率	58.8%	−13.6%	−66.0%	－	－
担当課評価	◎	○	○		

評価の理由	新たな情報発信の方法として、LINEやインスタグラムを開設したことにより、閲覧が分散されたと考えられる。
PLAN R4年度の 取組内容	フェイスブックを始めとしたSNS等を活用し、市内外へ羽咋の魅力を発信、またリアルタイムな行政情報について情報発信力の強化を図るため、羽咋市のLINE公式アカウントの開設を行う。複数のSNSを活用し、情報提供の多角化を行っていく。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	各課と連携して、SNSのリアルタイム性を生かし、市内行事等の告知や制度紹介、できごとを随時発信する。 ただし、フェイスブックについてはユーザー数最多のSNSではあるものの、フェイスブックの若者利用は減少傾向にあり、ユーザーのボリューム層は年々高齢化しているため、「いいね」の件数は今後も減少していくと見込まれる。 (羽咋市フェイスブックのフォロワー属性R4.3実績…18～24歳:1%、25～34歳:11%、35～44歳:22%、45～54歳:32%、55～64歳:24%、65歳以上:11%、) そのため、幅広い年代で利用者が多いインスタグラムでの情報発信を令和3年度から引き続き行っていくほか、令和4年度は全世代から高い利用率があるLINEを活用し、市公式LINEの開設を行う。 複数のSNSを活用し、情報発信ジャンルの使い分けを行い、LINEについては、防災情報等緊急性の高い行政情報を中心として提供を行っていく。 市公式LINE導入スケジュール 5月-8月:市公式LINEの導入に向けた提供内容の検証、開発　9月:提供開始予定
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び	令和4年11月に羽咋市LINE公式アカウントを開設し、イベント等を発信している。登録者数も順調に伸びており、令和5年4月24日現在で1,618人となっている。またフェイスブックのフォロワー数は1,353人であり、今後も引き続き、登録者数の増加を目指すとともに、効果的な情報発信に努めていく。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	フェイスブックのほかLINEやインスタグラムを開設し多様なツールによる、情報発信を行っている。新たな情報発信ツールを含めた評価指標を検討する。

有識者会議による検証評価

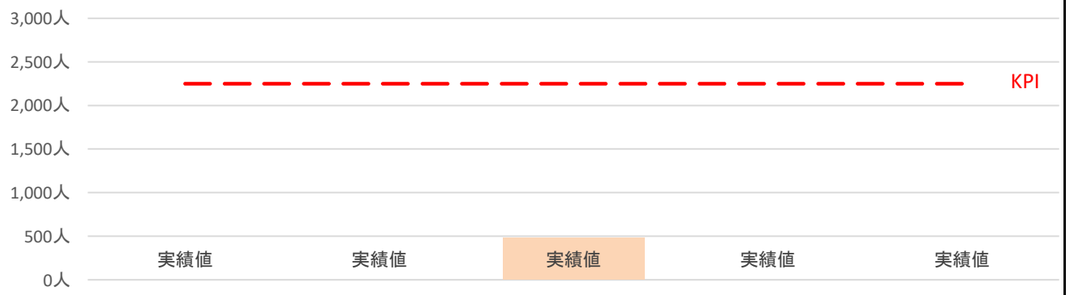
評価	総数	意見
◎	0	
○	15	①フェイスブックだけでなく、LINEを活用するのは良いと思う。SNSは大事！ ②SNSツールの多様化に応じたKPIの設定を検討すべき。フェイスブックの「いいね」件数だけでは、せっかくの市の取組が評価されない恐れも。 ③弱年層の登録に力を入れてほしい。発信が少なすぎ。 ④KPIの見直しが必要に思う。ライン、フェイスブック、インスタグラム等複数の媒体をそれぞれの特性に合わせて情報発信するのはとても良い。
△	6	①ツイッター、ユーチューブの利用。 ②フェイスブックだけの指標でいいのか疑問。 ③予算が付かない事業ということに対して理解が及ばないのです。職員の方は、業務外で事業を行っている(ボランティア)ということでしょうか？ちなみに、ツイッターでは、奇をもらった投稿なら一夜にして1万いいねが付くようです。 ④どんな媒体であれ情報発信は大事だと思う。KPIの見直しはすればよいと思う。 ⑤重要業績評価指標を「市フェイスブック「いいね」件数」だけにせず、他のSNSでの登録の数も入れるべき。フェイスブックは利用者の年代が高いので、フェイスブックの登録者数だけでは参考にならないし、フェイスブックの登録者数がもし多いとしても、若い世代には情報が届いていない可能性があるから。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

23	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(5)歴史・文化や伝統とスポーツ・武道を結び付けた交流人口の拡大	生涯学習課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①峨山道トレイルラン参加申込者数	2,250人(R2～R6年度累計)	402人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	450人	900人(累計)	1,350人(累計)	1,800人(累計)	2,250人(累計)
実績値	0人	0人(累計)	481人(累計)	－	－
事業費予算額	3,500千円	3,500千円	2,500千円	－	－
事業費決算額	1,900千円	1,350千円	2,500千円	－	－
年度目標に対する達成率	0.0%	0.0%	35.6%	－	－
基準値に対する増減率	−100.0%	−100.0%	19.7%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	コロナの影響で中止されていた大会を再開させ、基準値を上回る参加者があった。
PLAN R4年度の 取組内容	・トレイルランニングを通して、羽咋市の魅力を発信し、羽咋市へのリピーターを増やす。 ・「禅」文化を中心とした輪島市との連携協力体制の構築する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	・第7回峨山道トレイルラン大会は10月15日(土)に開催する。 ・今回は、73kmコースに加え、25kmのミドルコースを新設し、コロナ対策を講じたうえで開催する。 ・運営の主たる業務を㈱ドリームガレージに委託し、民間のノウハウを活用し、ランナーニーズに応じた企画運営を行う。 ・大会は、「峨山道」として今に伝えられており、トレイルランニングを通して、歴史とストーリーに溢れた古道と能登に育まれた禅文化、そして豊かな里山里海の自然を全国の皆様に発信したい。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	新型コロナウイルス感染症の影響で中止になった大会を、感染症対策を講じたうえで再開できた。 新たにミドルコースを設けたことで、基準値の年度より参加者が増えた。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	翌年度のR5大会では、羽咋市がスタート地点となることから、地元地域の協力を得て大会を盛り上げる。

有識者会議による検証評価

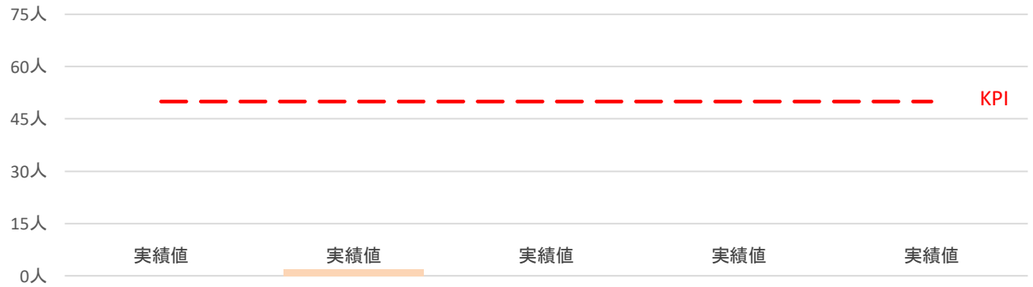
評価	総数	意見
◎	4	①ランニングコストは増加しており、羽咋市のPRにもなるため大会の認知度をアップしてほしい。 ②参加のハードルを下げて、より多くの人に参加していただきたいと思う。
○	15	①峨山道をトレイルランだけでなくウォーキング古道としての使い方はないか。 ②ミドルコースを設定したことは参加者のハードルが低くなったと思う。今後も続けてほしい。 ③コースの整備をさらに進め、ビギナーズコース(5～10km)を設けてはどうか。 ④羽咋市の魅力発信に繋がるイベントとして育ててもらいたい。 ⑤時流に沿った形のイベントだと思います。いっそのこと、史実(?)に忠実にかつ1日の往復コースを決定してみてはいかがでしょうか？未明、読経(羽咋)→早朝、門前(読経)→羽咋←1日で行うタフなコース決定を喜ぶ者も一定数います。 ⑥よい企画なのでぜひ今後も継続を。 ⑦ミドルコース増設で参加者の増加につながっている。今後も地域への応援参加などへのPRに取り組む必要がある。
△	1	①走って終わりでなく、スタート、ゴール地点の出店とか翌日、前日の催しも充実させては。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

24	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	1 羽咋の自然・歴史・文化の活用とスポーツを通じた魅力発信	担当課
	(6)インバウンドツーリズムの推進	商工観光課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①体験型観光利用外国人数	50人	24人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30人	35人	40人	45人	50人
実績値	0人	2人	0人	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	0.0%	5.7%	0.0%	－	－
基準値に対する増減率	−100.0%	−91.7%	−100.0%	－	－
担当課評価	△	○	△		

評価の理由	コロナの影響により事業ができなかったため。
PLAN R4年度の 取組内容	①外国人観光客のニーズに合わせた新たな体験型コンテンツの開発。 ②多言語観光情報の発信と体験型観光に興味のある観光客への情報周知。 ③外国人向け通訳・翻訳サービスの周知の継続。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①市内観光施設の体験型観光利用者数(入込客数)の増加を図る。 ②歴史や文化に重点をおいた新たなコンテンツを作成し、外国人観光客の誘客を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	コロナの影響で外国人観光客が減少したことにより、積極的なインバウンド消費に対応した旅行商品の企画や販売を実施できなかった。令和5年度は、外国人観光客向けの旅行サイトに本市の情報を積極的に掲載するとともに、民間事業者と連携し外国語に対応できるよう、観光サイトの整備やツアーガイドの育成と確保を図る。また、公募型プロポーザル方式により、千里浜インター周辺にインバウンドの取り込みを得意とする事業者を選定し、市の観光情報を継続して発信していく。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	従来の観光振興策の継続と体験型観光の磨き上げを行うとともに、本市の文化的観光資源を活かしながら、コロナから回復した観光客及びインバウンド消費を呼び込む取り組みを行う。 また、今年度開催する国民文化祭を一過性のものに終わらせず、生涯学習課や文化財課と横断的に取り組み、県や観光協会、旅行会社などと連携し、文化と観光を融合させた商品の企画や体験型観光イベントを開催し定着を図る。

有識者会議による検証評価

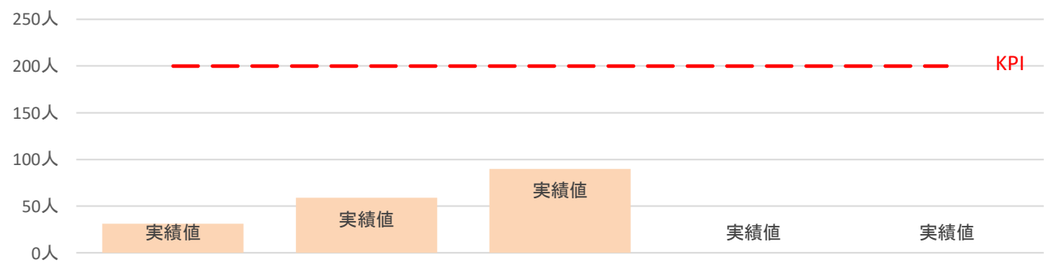
評価	総数	意見
◎	1	
○	5	①寺社仏閣や里山、里海、砂像づくりやそば打ち体験など外国人が好むコンテンツはたくさんあるので発信次第だと思う。(頻度や方法) ②コロナ禍明けで外国人旅行者の増加が見込まれることからSNS等による情報発信を積極的に実施してほしい。 ③旅行会社との連携が大事である。コロナが5類になったことにより神社仏閣ツアー、海の幸ツアー、収穫体験ツアー等積極的アクションを起こしてはどうか。 ④神社仏閣観光のアピールを。 ⑤イベント・企画の内容やSNSでの発信の仕方次第で一気に参加する外国人旅行者は増えると思う。
△	15	①地道な魅力発信は継続してほしい。 ②コロナ後自然回復を待つのではなく、積極的な情報発信を。 ③予算がない事業について、行政はどのように対応しているのでしょうか。観光協会と協同していれば、それでいいです。 ④R4の実績に関しては致し方ない。インバウンド消費の回復の見込みによりR5は積極的な施策と受け入れ体制を整えておくことを期待します。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

25	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(1)移住総合相談窓口による移住推進	地域振興室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市の移住相談窓口で対応した移住者数	200人(R2～R6年度累計)	33人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	40人	80人(累計)	120人(累計)	160人(累計)	200人(累計)
実績値	31人	59人(累計)	90人(累計)	－	－
事業費予算額	18,654千円	24,435千円	25,640千円	－	－
事業費決算額	14,462千円	16,708千円	21,198千円	－	－
年度目標に対する達成率	77.5%	73.8%	75.0%	－	－
基準値に対する増減率	−6.1%	78.8%	172.7%	－	－
担当課評価	△	○	○		
評価の理由	コロナ禍のため、目標値と比較して移住者数の増加にはつながっていないが、広域連携によるスケールメリットを生かし、新たな事業展開につながっているため。				

PLAN R4年度の 取組内容	移住ワンストップ窓口による総合的な移住支援を行うとともに、3市町が連携し広域的な魅力発信に取組み、関係人口拡大に結び付ける。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①移住ワンストップ窓口対応、空き家情報バンクによる情報発信、移住体験住宅の活用 ②3市町連携による独自の首都圏イベント開催、専用ラインによる情報発信の強化 ③成果型報酬制度に基づく移住プランナー主体の移住希望者の受入、魅力発信 ④官民連携による企業対象型ワーケーションの実施
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①移住プランナーの協力を得て、移住希望者の就農体験や移住体験住宅への誘導を行い、行政とプランナーが連携することで移住希望者に寄り添ったフォローアップを行う。 ②独自イベントの中で専用ラインの登録を呼びかけ、年間で東京圏や大阪圏に住む約1,500人の登録につなげ、関係人口の誘導を図った。 ③移住プランナーの活動実績に応じ、報酬を支払うことでブログ発信など情報発信や移住希望者の受入体制を強化し、移住相談対応や新たな特産品の開発などを行った。 ④日本航空株式会社と連携し、企業連携型ワーケーションを実施し5名が実証的にワーケーションを体験。 コロナ禍の中、①～④の事業を実施したが、本市と継続的なつながりを持つ関係人口や移住にはなかなかつながっていない。令和5年度は、そういった課題を踏まえ、新規事業の展開を図る。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	市の移住総合相談窓口や移住体験住宅の運営を行うとともに、3年目となる能登移住交流協議会の広域連携事業において、令和4年度までの成果や課題を踏まえ、新たに首都圏における情報発信拠点の開拓や保育園留学、移住応援隊の創設などを行い、関係人口拡大、移住推進を図る。 併せて、空き家登録の拡充を行い、移住者の受入環境を整える。

有識者会議による検証評価

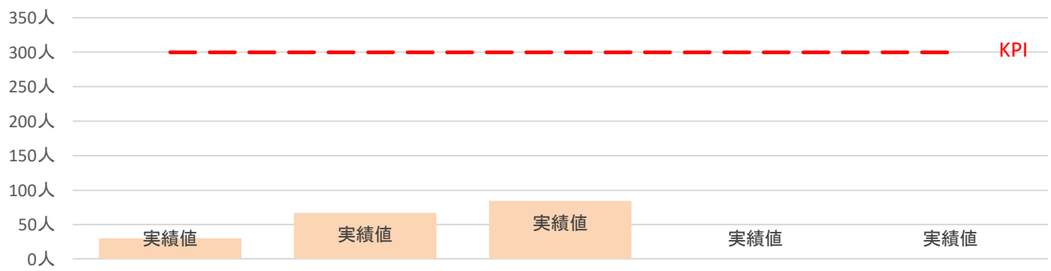
評価	総数	意見
◎	1	
○	17	①HPの空家は、増えていない。 ②移住において仕事と住居が大きなウェートをしめると考えるのでそれらをセットにした情報発信をしていく必要がある。 ③一定の実績は確保できている。今後に期待します。 ④移住者が移住決定を行う条件を整えることが大切。条件の洗い出しと整備。 ⑤住居を整備し、移住者を多く受け入れられたらいいと思う。移住者にはどんなパターンがあるのかを想定して、広くニーズをカバーできる住宅の整備が必要だと思う。
△	3	①自然栽培千里浜など海に関わる仕事で呼び込むべきでは。フォローの厚さをうりにできるといい。 ②予算・決算ともに大きく感じるが、どのうような使途なのかが気になりました。(助成金の支出があるのならば納得いたします。) ③移住してくれること自体は嬉しいが、これだけの手間と予算をかけて、令和4年度の新規移住者数は40人(累積120人一令和3年度の累積80人)ならば、市内在住者が転出しない方や、または進学で転出した人を呼び戻す方に手間と予算をかける方が効率がいいのではないだろうか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

26	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(2)若者や女性転入者へ手厚い支援	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①定住家賃補助による定住者数	300人(R2～R6年度累計)	39人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	60人	120人(累計)	180人(累計)	240人(累計)	300人(累計)
実績値	30人	67人(累計)	84人(累計)	－	－
事業費予算額	2,382千円	2,758千円	3,978千円	－	－
事業費決算額	1,703千円	2,732千円	3,698千円	－	－
年度目標に対する達成率	50.0%	55.8%	46.7%	－	－
基準値に対する増減率	−23.1%	71.8%	115.4%	－	－
担当課評価	△	△	△		

評価の理由	一定数の申請はあったが、目標値に達していないため。
PLAN R4年度の 取組内容	市外から羽咋市へ転入し、民間賃貸住宅に入居する新婚世帯、子育て世帯、働く女性世帯及び空き家情報バンクに登録されている空き家(賃貸)に入居した世帯に対し、家賃の一部を補助(地域商品券の支給)を行う。また、市外に通勤している方がいる世帯に対し、加算して支給する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	新婚世帯、子育て世帯、市内に勤務する独身女性の単身世帯及び空き家情報バンク物件入居世帯に対して月額1万円の家賃補助を行い、定住者の増加を図る。市HP、広報等を活用し制度のPRを行い、制度の周知を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和5年3月末までに17件の申請があった。うち、令和3年4月から新たに創設した市内に勤務する独身女性の単身世帯に対する支援制度(家賃補助:月額1万円)に3件の申請があった。目標値を下回ったため、引き続き周知をする必要がある。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	本市の魅力として移住定住等と連携して、引き続き助成事業を継続し、事業の周知に努め、転入者の増加を図る。

有識者会議による検証評価

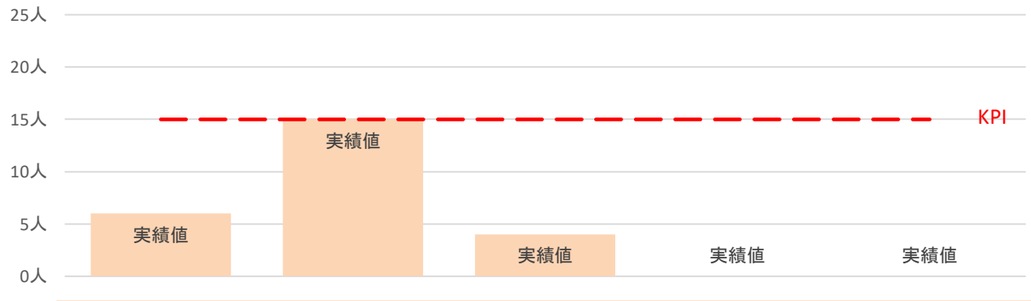
評価	総数	意見
◎	0	
○	2	
△	19	①移住において仕事と住居が大きなウェートをしめると考えるのでそれらをセットにした情報発信をしていく必要がある。 ②子どもの教育が充実した市、子育ての女性に優しい市としてさらにPRしてほしい。 ③羽咋市の魅力を発信しつつ、PRに取組んでもらいたい。 ④お金をもらっても住もうと思わないのは。周知が足りないのか、そもそも町に魅力がないからか。やり方を工夫しないといけない。 ⑤市内の事業所に勤務していることに限定してみてはどうでしょうか。市外の事業所に勤務している場合、市の税収としては、住民税以外にあるのでしょうか。(軽自税除く) ⑥取り組み自体は良いと思うが、周知不足、PR不足に思う。ただ、目標値を実現するには予算が足りないのでは？ ⑦助成金の増額が必要。また、KPIの見直しが必要ではないか。 ⑧住宅手当を出している市内の企業に助成をするということは可能なのか。可能であれば、制度を利用する人が会社にも市にも申請をするのは手間なので、企業の方を窓口にした方がスッキリするのでは。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

27	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(2)若者や女性転入者へ手厚い支援	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②定住家賃補助を利用した40歳未満の新婚女性定住者数	15人	10人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	11人	12人	13人	14人	15人
実績値	6人	15人	4人	－	－
事業費予算額	2,382千円	1,492千円	3,978千円	－	－
事業費決算額	1,703千円	1,520千円	3,698千円	－	－
年度目標に対する達成率	54.5%	125.0%	30.8%	－	－
基準値に対する増減率	−40.0%	50.0%	−60.0%	－	－
担当課評価	△	○	△		
評価の理由	一定数の実績はあるが、目標値に達していないため。				

PLAN R4年度の 取組内容	市外から羽咋市へ転入し、民間賃貸住宅に入居する新婚世帯(40歳未満世帯)に対し、家賃の一部を補助(地域商品券の支給)する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	新婚世帯(40歳未満世帯)に対して月額1万円の家賃補助を実施し、定住者の増加を図る。市HP、広報等を活用し制度のPRを行い、制度の周知を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和5年3月末までに家賃補助を活用した新婚女性(40歳未満)の定住者は4人であった。昨年に比べ実績値が低下しているため、事業の周知に努める必要がある。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	本市の魅力として移住定住等と連携して、引き続き助成事業を継続し、事業の周知に努め、転入者の増加を図る。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	3	①若者はにぎわいのある町に魅力を感じると思うので駅前の新施設の活用に期待する。 ②1万円の補助だけで定住したいと思う女性はあまりいないと思うので、他の取組も必要。転入者の方は友達や情報がほしいそうなので、そのような交流の場も作ってみては。
△	18	①定促住宅への勧奨はしないのですか？ ②子育てに魅力的な市として、さらにPRしたらどうか。 ③羽咋市の魅力を発信しつつ、PRに取組んでもらいたい。 ④市の魅力UPに力を入れた方がいい。 ⑤家賃補助があるから住むというものではない。 ⑥R3の意見の新婚女性の出産、育児、子育てその全体のフォローが必要。という声に賛同する。ラクナはくいに相談室をというアイディアも今から可能であれば実現できたらいいと思う。目標値に達していないのは、施策26と同様にPR不足ではないか。 ⑦補助金の増額と子育てをふくめ、安定した生活が確保できる環境づくりが必要。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

28	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(3)空き家・空き地バンクを活用した移住支援	地域振興室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①空き家・空き地バンク成約件数	125件(R2～R6年度累計)	19件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	25件	50件(累計)	75件(累計)	100件(累計)	125件(累計)
実績値	11件	27件(累計)	40件(累計)	－	－
事業費予算額	4,500千円	500千円	500千円	－	－
事業費決算額	3,858千円	240千円	180千円	－	－
年度目標に対する達成率	44.0%	54.0%	53.3%	－	－
基準値に対する増減率	−42.1%	42.1%	110.5%	－	－
担当課評価	○	○	○		
評価の理由	目標値に達していないものの、一定数の移住希望者と空き家のマッチングにつなげることができ、今後も重要な取り組みとなるため。				

PLAN R4年度の 取組内容	・羽咋市空き家情報バンク(HP)や広域連携による共同HPによる空き家・空き地の情報発信
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	人口減少に伴い、空き家の増加が地域として最も解決したい課題の一つとなっている。 これまでと同様に利活用可能な空き家を空き家情報バンクに掲載し、移住希望者とのマッチングを図っていくとともに、年間を通じて、広報やホームページなどにおける空き家情報バンク制度の周知、町会対象の空き家登録助成の活用を促す。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	移住ワンストップ経由の移住者のうち、約3分の1程度が空き家に入居している。 一方で、令和4年度の移住相談は約160件あったが、その中で移住希望者と空き家をマッチングさせることができたのは、13件にとどまっており、移住希望者と空き家のマッチングが成立しないケースが多々見られる。　移住希望者が求める空き家が少ないことが要因となっており、特に、空き家情報バンクで発信する良質な空き家をいかに増やしていくかが重要である。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	・令和5年度の町会長連合会における町会対象の空き家登録助成の活用の周知。 ・広報における空き家情報バンク利活用の継続的周知。 ・不動産事業者との新たな協力体制を築き、空き家情報に係る官民連携による共有体制を確立してマッチング体制の多様化を図る。 ・HP改修を行い、利用者がさらに利用しやすい空き家情報バンクにするとともに、空き家情報バンクに登録した空き家について、広域的な情報発信を行い(七尾市、中能登町と連携)、県外移住者の呼び込みにつなげる。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	
○	17	①魅力的な空き家が少ない。町会等から情報をもらい、件数を増やした方がよいと思う。 ②リフォーム、リノベーションが必要。そのままの空き家には魅力があるのか微妙。 ③13/160件の分子を増やすためにニーズの内容を分析しリノベーションできないか。 ④羽咋市の魅力を発信しつつ、PRに取組んでもらいたい。 ⑤建築資材の高騰により、中古市場が注目されているように感じます。比較的築浅物件か古民家といった二極化した物件が金沢近郊の者から好まれているように思料いたします。今後、成約件数の増加が見込まれる一方で、民業圧迫とならないよう、市が相応の平線手続の手数料を民受希望者から徴収することも検討してはいかがでしょうか？ ⑥今後も周知の継続が必要。
△	2	①家主が亡くなった際に、バンクへの登録をすすめるべきものでは。1年以内の登録にボーナスをつけるなど工夫しては。 ②KPIを達成するために、もう一手が必要に感じる。町ごとに空き家情報を集め、良さげな空き家を羽咋市から持ち主に働きかけ、空き家バンクに登録してもらうなどしてもらってはどうか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

29	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(4)地域おこし協力隊の活用と支援	地域振興室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①地域おこし協力隊登用数	15人(R2～R6年度累計)	1人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3人	6人(累計)	9人(累計)	12人(累計)	15人(累計)
実績値	2人	3人(累計)	5人(累計)	－	－
事業費予算額	38,647千円	46,993千円	19,339千円	－	－
事業費決算額	25,341千円	13,875千円	11,558千円	－	－
年度目標に対する達成率	66.7%	50.0%	55.6%	－	－
基準値に対する増減率	100.0%	200.0%	400.0%	－	－
担当課評価	○	○	◎		

評価の理由	累計の目標値には届いていないものの、2名の協力隊員の委嘱につなげ、地域と連携した活動をスタートしたため。
PLAN R4年度の 取組内容	・自然栽培など、本市ならではのしごとと協力隊のマッチングを推進 ・協働の地域づくりを進めていく協力隊と受入地区とのマッチングを支援 ・地域おこし協力隊と地域住民とのつながりのフォローアップ ・地域おこし協力隊の取組支援
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	令和4年度は地域づくりを進める協力隊を1名、自然栽培に従事する協力隊を1名登用予定。 【協働の地域づくりを進める隊員】 令和4年4月　隊員を受入れる地区と募集要項を作成 令和4年5月　募集開始 令和4年6月　隊員を受入れる地区と共に面接、お試しで隊員を受け入れる 令和4年7月　委嘱、お試しでマッチングしなかった場合、再度募集 【自然栽培に従事する隊員】 令和4年4月　農林水産課で募集要項を作成 令和4年5月　募集開始 令和4年6月　面接、お試しで自然栽培に従事する 令和4年7月　委嘱、お試しでマッチングしなかった場合、再度募集
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	【協働の地域づくりを進める隊員】 鹿島路地区に協力隊員1名を委嘱。同隊員は、地域のアンケート結果に基づきコミュニティビジネスを起点とした地域活性化に取り組んでいる。地域住民と協働し、情報発信や新たな特産品の開発などにも精力的に活動しているところである。 【農業と伝統技能習得による産業活性化を進める隊員】 夏季は神子原米や酒米の栽培を行い、冬季は蔵人として技能を習得し、里山の保全を行いながら農業の産業を組み合わせて持続可能な地域づくりにつなげる隊員1名が体験活動をスタートしている。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和4年度、2名の委嘱に結び付いたことを踏まえ、令和5年度も地域おこし協力隊の委嘱を行い、外部の熱意ある人材を登用したい。なお、令和5年度は、より地域団体や地元事業者と連携することで、地域活性化を進める人材を委嘱したいと考えており、市内の団体や事業者からの提案を踏まえて募集をかけることにする。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	16	①成果につながっているので継続し地域も広げていってほしい。(鹿島路以外へ) ②この事業や協力隊員のことを市民にもっと知ってもらう必要がある。 ③地道な活動の継続に期待したい。 ④地域おこし協力隊の具体的な活動が市民に見えていないのではないか。地域おこし協力隊は自分のやっていることをアピールしてほしい。 ⑤現在活動している地域おこし協力隊の取り組みを広報はくいにワンコーナーつくるなどして、市民向けにPRしてはどうか。そうしたら、地域住民も顔を見て「がんばって」とか「応援してるよ」とかコミュニケーションが生まれる、なじめるキッカケになるのではないか。 ⑥職員の増は喜ばしいこと。一人でも多く定住してくれることを望む。 ⑦地域おこし協力隊と住民とのつながりが大切。今後も協力隊との連携により町の活性化が図られることを期待する。取り組みの継続を！！
○	4	①トマト王子さんは、ずっと羽咋市にいるのだろうか？任期が終わっても定住してくれる方が増える様、長期戦で考えて欲しい。 ②やる気のある隊員には自由度を広げるべきでは。隊員の活動をHPとかで紹介しては。 ③明確なミッションを設定した上で、その分野においての地域おこし協力隊を登用してはどうか。
△	1	①国の予算に頼る制度は見直す時期に来ていると思います。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

30	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	2 移住希望者及び移住者の支援	担当課
	(5)外国人と市民間の交流促進	生涯学習課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①交流会参加者数	50人	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	10人	20人	30人	40人	50人
実績値	7人	0人	25人	－	－
事業費予算額	70千円	60千円	80千円	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	13千円	－	－
年度目標に対する達成率	70.0%	0.0%	83.3%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	△	△	○		

評価の理由	積極的な受け入れ、計画的な教室運営により参加者を増加させることができた。
PLAN R4年度の 取組内容	やさしい日本語を基に外国人との交流を行う「ふれあいにほんごひろば」と共に、コロナに対応した、イベントを企画、運営し、外国人住民の文化交流を通じて、多文化共生を推進していく。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	「ふれあいにほんごひろば」に参加している、外国人住民とサポートスタッフを中心に、花見や茶道体験、座禅体験のほか、多国籍料理教室などのイベントを季節に応じて開催し、交流を深め、多文化共生を推進する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①石川県国際交流協会と連携し、外国人コミュニティリーダー研修を開催した。外国人リーダー候補者2名及び日本語サポーター3名が参加し、多文化共生学習を修了した。 ②毎月2回(計15回)の日本語教室を開催した。 ③参加者(累計):日本語サポーター101人、外国人学習者61人
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	県国際交流課、国際交流協会の企画と連携し日本語サポーターの教育力の向上を図る。 教室開催案内の周知を支援し、参加者の増加を図る。

有識者会議による検証評価

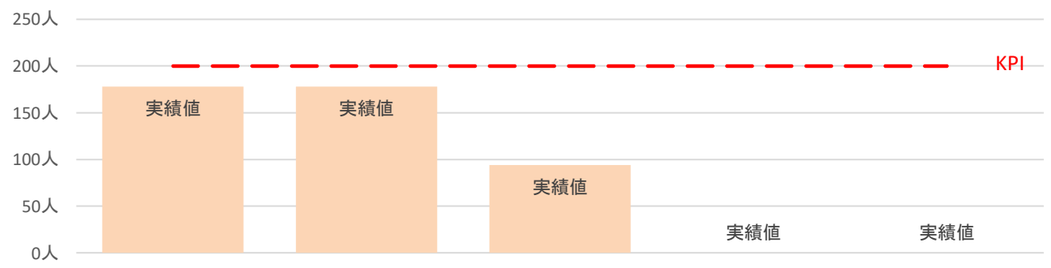
評価	総数	意見
◎	1	
○	17	①外国人の周知はいきわたっているのかより企画なので認知度を高めていただきたい。 ②広報「はくい」を通じて「ふれあいにほんごひろば」や交流会の様子を発信し関わる人を増やしていく。 ③地道な活動の継続に期待したい。 ④外国人への周知を進めて、国定化されて広がりがない。 ⑤日本語講座に加え日本文化体験ができて、とてもよい取り組みだと思う。外国人住民と交流したい一般市民も参加できるのですか？ ⑥外国人への開催周知の更なる実施が必要。 ⑦ボードゲームでもテレビゲームでも何か活動を通して、気楽に交流する機会があればよいと思う。参加のハードルをできるだけ下げることと活動の周知が必要に感じる。
△	2	①外国人のネットワークを活用して必要な人に情報が届くよう工夫しては。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

31	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	3 都市部との交流と共創	担当課
	(1)首都圏等における本市の魅力発信	秘書課

評価項目
◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①ふるさと応援団会員数	200人	178人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	183人	188人	192人	196人	200人
実績値	178人	178人	94人	－	－
事業費予算額	999千円	1,001千円	1,001千円	－	－
事業費決算額	300千円	0千円	663千円	－	－
年度目標に対する達成率	97.3%	94.7%	49.0%	－	－
基準値に対する増減率	0.0%	0.0%	−47.2%	－	－
担当課評価	○	○	△		

評価の理由	中京羽咋会がコロナで活動できず、実績値が伸びなかったため。
PLAN R4年度の取組内容	今年度はコロナの状況を踏まえつつ、各羽咋会とも総会の開催に意欲的であり、関西羽咋会は7月16日に、ふるさと関東羽咋会も総会の開催を予定している。中京羽咋会にも総会の開催を働きかけていく。ウィズコロナを踏まえた新しい羽咋会の活動を促進するとともに、新規加入者の増加を図る。
DO 事業スケジュール課題など (具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	本市に3つあるふるさと応援団(羽咋会)は平成27年度に設立され、ふるさと関東羽咋会、関西羽咋会、中京羽咋会がある。ふるさと関東羽咋会は例年6月、関西羽咋会は9月、中京羽咋会は1月頃に総会を開催し、会員相互の交流をはじめ、市と情報交換や意見交換を行うとともに、ふるさと納税などを通して市の発展に寄与していただいている。 今年度も商工観光課を始め、地域振興室等とも連携し、羽咋市のイベント、移住定住や観光、特産品のほか、ふるさと納税について、効果的なPR方法を検討する。 総会についても、事務局や会員と顔を合わせる貴重な機会であり、市長をはじめ、各担当が参加し、羽咋市のPRを行う予定。 羽咋会の会員の高齢化が進んでいるため、今年10月に開催される羽咋高校100周年記念事業に合わせて、同窓会と協力し、会員の新規加入を促進する。
CHECK 3月末時点 (1年間の振り返り及び効果検証)	ふるさと関東羽咋会については、各種イベントに出店し羽咋市のPRに努めていただいているほか、関西羽咋会も関西方面で開催した羽咋市のイベントに出席するなど、協力してもらっている。中京羽咋会もコロナで総会が開催できなかったが、令和5年度の開催を予定しており、活動については前向きであるが、会員の高齢化と新規加入がほとんどないことから、市としても対応していく必要がある。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	市内の高校の同窓会に協力を仰ぐなど、会員募集に協力していく。

有識者会議による検証評価

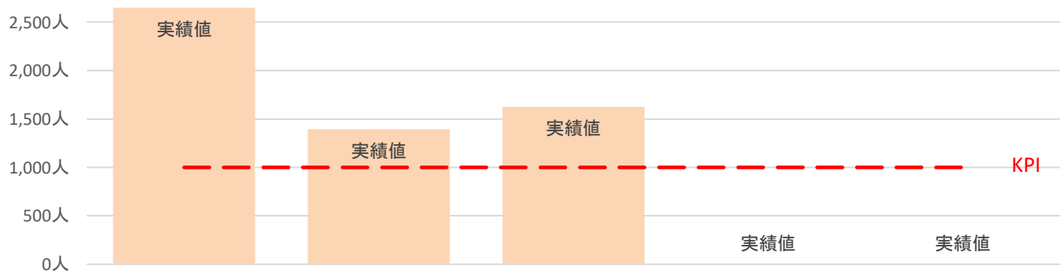
評価	総数	意見
◎	0	
○	4	①ふるさとを出て行ってしまった人より羽咋市を知らない人を対象にしてはどうか。 ②若者の加入を進めてほしい。高齢者ばかりで入りにくいかも。
△	17	①よくわかりません。会員が増加するとどのような成果が得られるのでしょうか？ ②市内の生徒の進学高校を調べ高校を通じて羽咋会のPR紙を配布できないか。 ③ふるさと応援団の人たちにSSTRの参加を呼びかけてみてはどうか。 ④地道な活動の継続に期待したい。 ⑤成人式で加入を働きかけてはどうか。 ⑥親睦会への参加は良いと思いますが、予算を付けて行う事業なのかについては検討が必要かと思いました。 ⑦地元の祭りへの参加の呼びかけやつながれる機会があることの情報提供が必要だと思う。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

32	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	3 都市部との交流と共創	担当課
	(1)首都圏等における本市の魅力発信	地域振興室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②羽咋フェア利用者数	1,000人	2,000人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人
実績値	2,649人	1,395人	1,626人	－	－
事業費予算額	6,038千円	3,404千円	6,188千円	－	－
事業費決算額	5,970千円	3,404千円	6,188千円	－	－
年度目標に対する達成率	264.9%	139.5%	162.6%	－	－
基準値に対する増減率	32.5%	−30.3%	−18.7%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	目標値をクリアし、羽咋ファンの定着化や関係人口創出を目指す、さまざまな取り組みを実証的に行う場として機能しているため。
PLAN R4年度の 取組内容	民間企業と連携し、都市圏PRイベント「羽咋フェア」を開催。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	継続的な本市の魅力発信につなげるため、本市独自のイベント「羽咋フェア」を開催する。 場所は、多くの人々の通行を見込むことができる大阪駅構内「ディアモール大阪」を予定。 羽咋フェアについては、4年目となり、一定の羽咋ファンの獲得につながっていると考えているが、今年度は、物販で人の呼び込みを行いながら、官民連携による新たなPRや効果的な移住相談ができないかを模索する。 なお、令和4年度は、累計2回の実施を行う予定。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①11月28日～30日の3日間、大阪駅構内「ディアモール大阪」で羽咋フェアを開催。観光PRや移住定住促進を目的とした専用ブースを設置し、自然栽培・ジビエなどのPRを実施。市商工会も同行し、連携しながら特産品のPRを行っているほか、前回同様、来場者のエスコート役をJAL(ジャル)のキャビンアテンダントが担い、デジタルサイネージの活用や移住プランナーが本市の魅力発信を行った。【累計823人が来場、売上額は約119万円】②2月28日～3月2日の3日間、大阪駅構内「ディアモール大阪」で羽咋フェアを開催。砂像が花を添えるとともに、前回に引き続き、日本航空株式会社のキャビンアテンダントが、来場者のエスコート役を務めた。本市と包括連携協定を結んでいる株式会社日本旅行にも、集客などの情報発信で協力いただいており、官民連携の強みを生かしたイベントとして実施。七尾市や中能登町との広域的なファン獲得の視点から、広域的に開設した専用ラインの登録者数の増加にもつながった。【累計803人が来場、売上額は約95万円】
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	・大阪圏では一定数の羽咋ファンの創出につながったことを踏まえ、首都圏での開催を検討。 ・官民連携や広域連携の視点を強化予定。 ・オリジナリティのある企画を盛り込み、注目度・話題性のアップを図る。 ・本市の他の目玉事業やイベントを発信することで、新たな人の呼び込みに関して相乗効果を狙う。

有識者会議による検証評価

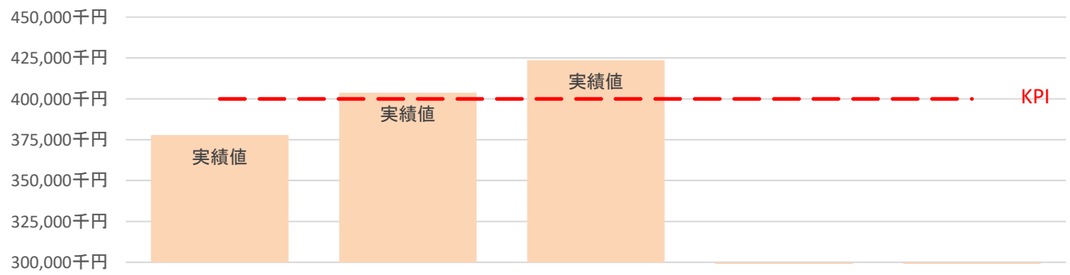
評価	総数	意見
◎	19	①魅力発信は大事！キャビンアテンダントは？地元の方がよいのでは？ ②大阪だけでなく東京・名古屋等いろいろな場所でフェアを開催して羽咋をPRしてはどうか。 ③SSTRの市、羽咋としてPRをしてみてはどうか。 ④地道な活動の継続に期待したい。 ⑤PRは大切です。PR活動を継続して下さい。 ⑥羽咋市の特色(千里浜海岸、自然栽培米、のとしし、UFO等)を前面に出してアピールしてほしい。
○	1	①フェアの開催はいいと思うが、何を一番PRするのか焦点を絞るべきでは。
△	1	①3日間での予算・決算額について、費用対効果がいかほどなのか疑問に感じました。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

33	Ⅱ 羽咋への新たなひとの流れを創出	
	3 都市部との交流と共創	担当課
	(2)ふるさと納税の推進	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①ふるさと納税額	400,000千円	532,266千円



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	250,000千円	250,000千円	300,000千円	350,000千円	400,000千円
実績値	377,835千円	403,725千円	423,622千円	－	－
事業費予算額	195,322千円	150,803千円	150,903千円	－	－
事業費決算額	186,579千円	182,854千円	199,588千円	－	－
年度目標に対する達成率	151.1%	161.5%	141.2%	－	－
基準値に対する増減率	−29.0%	−24.1%	−20.4%	－	－
担当課評価	◎	○	○		

評価の理由	前年度を上回る寄付を獲得できた。
PLAN R4年度の 取組内容	①ふるさと納税業務を委託。民間ノウハウを活用した効率的・効果的な事業を推進する。 ②民間企業と連携した新たな返礼品開発及び大都市圏寄附者へのPR拡大。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①引き続き羽咋まちづくり株式会社に運営業務を委託。ノウハウの蓄積と活用により効率的な事業運用を図る。 ②新たな返礼品の発掘及び既存返礼品の組み合わせによる定期便商品の推進。 ③各運用サイト内の特集イベントやSNS、普及キャンペーンなどを通じた、関東・東海・関西など大都市圏寄附者への羽咋産品PRの拡大。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①約4億2,400万円の寄附金額を確保。(オクトスやのとししが増加した一方でおせちやかぶら寿司等が減少) ②運用サイト総数9。 ③返礼品新規参加事業者を10事業者追加し、合宿免許クーポン(千里浜なぎさドライビングスクール)、空き家サポート(辰巳不動産)、米(中橋商事)など返礼品掲載数拡大。R3＝400品　→R4＝470品 ④現地決済型ふるさと納税(ふるさとNOW)を導入し、新規寄附者の獲得を推進。 ⑤委託契約を見直し、受託者の取り組みを最大限に委託料に反映されるように修正。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①引き続きふるさと納税業務を委託、委託契約にインセンティブを大きく働かせる内容とし、民間ノウハウを最大限に活用した効率的・効果的な事業を推進する。 ②民間企業と連携した新たな返礼品開発及びSNSやキャンペーンを活用した大都市圏寄附者へのPR拡大。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	6	①「羽咋といえば、これ」というのが少ない。もっと定期便を増やしてほしい。 ②「今年も羽咋市にふるさと納税しよう」と思ってもらえるような普遍的で、あったら嬉しいものなどを返礼品にすればよいと思う。※自然栽培の米など。
○	15	①人気の返礼品の充実と羽咋へ来て楽しめる返礼品を検討してほしい。 ②地道な活動の継続に期待したい。 ③サイトの写真や紹介文の工夫をすべきでは。出品者向け講習会、出品希望者向け説明会を開いては。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

34	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	1 若者の婚活支援を強化	担当課
	(1)女性主体の婚活イベントの開催	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①出会いの場からのカップル成立件数	20件(累計)	3件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	2件	10件(累計)	15件(累計)	20件(累計)	20件(累計)
実績値	2件	8件(累計)	13件(累計)	－	－
事業費予算額	4,886千円	4,861千円	7,418千円	－	－
事業費決算額	1,853千円	2,573千円	3,210千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	80.0%	33.3%	－	－
基準値に対する増減率	−33.3%	166.7%	66.7%	－	－
担当課評価	○	○	△		

評価の理由	民間のイベントは取り組み内容について、これまでの結果を踏まえ見直しを行う。
PLAN R4年度の 取組内容	①結婚相談員による結婚個別支援　②民間委託による婚活イベント　③市内団体による婚活イベントを実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	8月～9月にかけて公募型プロポーザルで民間業者を確定し、婚活イベントを開催する。 新型コロナ感染状況を見ながら、オンラインでのイベントやセミナーを実施する。 近隣の市町とは、広域的なイベントが実施できるよう、情報共有を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①結婚相談員による結婚個別支援　活動相談員　24人/年　　マッチング件数10件　成婚数1組 ②民間委託による婚活イベント　2回計画するが参加者の辞退等があった為中止 ③市内団体による婚活イベントへの補助　4団体　カップル数4組
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	結婚相談員のスキルアップを図り、活動の強化につなげる。 民間のイベントは取り組み内容を見直しする。

有識者会議による検証評価

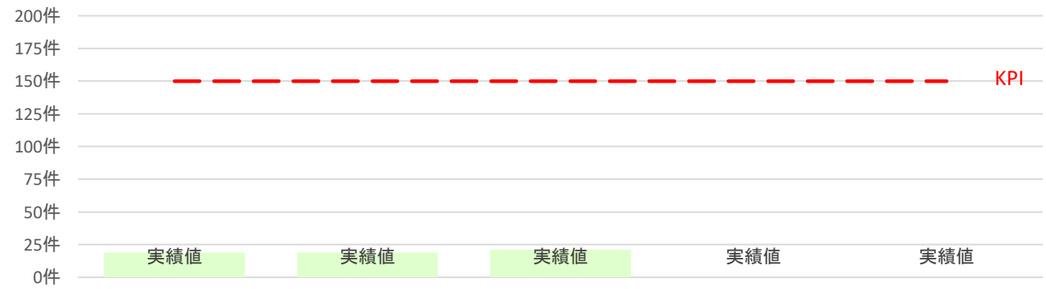
評価	総数	意見
◎	0	
○	6	①気軽に相談できる場所と人材を確保しそれをPRしていく。 ②一人でも参加しやすいイベントや企画を行えばよいと思う。もしくは、一人だけ友人(既婚者かつ自分推薦してくれる人)と参加可能にして、サポートを受けながら参加できるようなイベントがあっても良いと思う。人間付き合いを見れば、わかることもあると思うので。 ③恋愛はしたいけど「婚活」と明言すると嫌がって参加しない人もいるので、新しい出会いみたいな漠然としたイメージのイベントと、「がっつり婚活」と名言するイベントと、両方あるといいと思う。
△	15	①去年と同じです！「婚活」と言う言葉は、使わずに町コン！若い人が集まりやすくするとよいと思います。 ②エントリー数を増やす取組に期待したい。 ③イベントしてます？ ④婚活より、若者が自主的に行う活動やイベントを応援することで、カップルが自然に生まれるのではないか。 ⑤「婚活イベント」では、参加者の抵抗感がある気もするので、もう少し本気度の少ない若者等が集えるイベントを民間業者に考えてもらい継続してみてはいかがでしょうか。 ⑥女性に人気のオーシャンテラス柴垣で今年も婚活イベントを実施します。 ⑦R3の意見もあるが、男性は放っておくと自分磨きしない＝”清潔感” の時点でアウトなケースがままある。逆に言うと磨けば光るので、スキルアップセミナーは効果的だと思う。シャイな若者は、「婚活」色が強いイベントは照れがあって参加しづらいと聞く。前面に「婚活」と書かず、さりげなく「新しい出会いもあるかも」と記載する案はよいと思う。 ⑧出会いのない人にとっては大切なイベントになる。継続した取り組みが必要。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

35	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
	(1)子育て全般に係る経済的負担の軽減と支援	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①三世代住宅の新増築リフォーム件数	150件(R2～R6年度累計)	36件



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30件	60件(累計)	90件(累計)	120件(累計)	150件(累計)
実績値	19件	19件(累計)	21件(累計)	－	－
事業費予算額	10,400千円	900千円	500千円	－	－
事業費決算額	10,400千円	600千円	1,100千円	－	－
年度目標に対する達成率	63.3%	31.7%	23.3%	－	－
基準値に対する増減率	−47.2%	−47.2%	−41.7%	－	－
担当課評価	△	△	×		

評価の理由	申請件数が増えず、取組を終了するため。
PLAN R4年度の 取組内容	耐震基準の要件がネックとなり申請件数が減少しているため、安心して三世代で住み続けられよう、住まいの耐震化の重要性について周知の強化を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	三世代同居で暮らすための環境整備への支援について、市のホームページや広報において制度を周知する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和2年度から、三世代同居への支援を新耐震基準の建物であることを要件としたため、今年度においても申請件数が増えなかった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	耐震基準の要件がネックとなり申請件数が増えなかったと想定される。また当補助制度については今年度末で終了とし、省エネリフォームへの補助制度を新設する。新制度においては世帯構成を問わず補助対象であり、耐震基準についても要件としているので、引き続き住まいの耐震化の重要性について周知を強化する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	0	
△	3	①旧耐震基準の郊外の広くて大きな家こそ3世代同居に向いていると思います。核家族化により、旧家が取り壊され消滅していくことに危機感を覚えますが、これは、市における街づくりの哲学の有無にあるように感じます。
×	18	①良い企画だが、耐震基準がネックとなり活用できる人は少ないのでは？ ②三世代同居にこだわると取組が少なくなる。 ③メニューのリニューアルに伴う措置であり止むを得ない。新たな制度の周知に期待したい。 ④三世代同居にこだわる理由がわからない。 ⑤子育て支援が目的なら新増策に関係なし、同居世帯への支援を考えてはどうか。 ⑥「三世代住宅で」という声が余りないのでは。 ⑦省エネリフォームの補助制度はよいと思う。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

36	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
	(1)子育て全般に係る経済的負担の軽減と支援	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②子育て応援券支給対象となった2子以上世帯の割合	60%	69%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	58%	58%	59%	59%	60%
実績値	63%	52%	57%	－	－
事業費予算額	21,000千円	23,816千円	23,852千円	－	－
事業費決算額	20,173千円	23,816千円	18,644千円	－	－
年度目標に対する達成率	108.6%	89.7%	96.6%	－	－
基準値に対する増減率	−8.7%	−24.6%	−17.4%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	子育て世帯の重要な経済的支援であるため。
PLAN R4年度の 取組内容	子育て家庭に対する経済的な支援を行い子育てにかかる負担を軽減する。 ①出生祝金は、出生順により増額し、商品券や現金を支給する。 ②新規事業として、小学校新1年生に入学祝金3万円を支給する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①出生してはじめて羽咋市に住所を有する子どもに対して出生祝金として、第1子10,000円、第2子200,000円、第3子300,000円、第4子400,000円、第5子以降500,000円を支給する。 ②小学校入学式時に対象者に申請書を配布し、学校経由で提出してもらう。 5月中旬に、振込する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①出生数　97人(第1子:42人　第2子:34人　第3子:15人　第4子:5人　第5子:1人) 未入就学児転入者数　38人 ②入学祝金　131人
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	PLANに掲げる経済的支援が子育て世代にとっての手厚いフォローアップになっていると考えられるため、引き続き事業は継続。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	20	①市の人口減少の対策として重要な取組なので継続と周知の工夫をお願いする。 ②手厚い支援は人口増にも寄与するものと思われる。更なるPR活動を望む。 ③PRの徹底に加え、市の独自色をアピールできると他市町と差別化できて強みになるのでは。 ④今後も支援を継続することは必要です。 ⑤3人目が欲しくても子供部屋が2部屋しかないというパターンがあるので、若者かつ4LDK以上の新築や4LDK以上にリフォームする人を対象に金銭的な助成をしてはどうか。出生祝金は、本当にありがたいです。
○	1	①支援はいいことだが、お金だけがすべてなのか疑問。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

37	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
	(2)安心して子育てができる社会の構築	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①子育て世代包括支援センター相談件数	140件	121件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	125件	130件	135件	140件	140件
実績値	97件	156件	125件	－	－
事業費予算額	3,386千円	3,386千円	2,741千円	－	－
事業費決算額	1,277千円	1,696千円	1,709千円	－	－
年度目標に対する達成率	77.6%	120.0%	92.6%	－	－
基準値に対する増減率	−19.8%	28.9%	3.3%	－	－
担当課評価	△	◎	○		

評価の理由	相談しやすい体制づくりや関係機関との連携が今後も必要。
PLAN R4年度の 取組内容	子育て世代包括支援センターの運営の機能の充実。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	・子育て世代包括支援センター機能の充実のため、妊娠届出時や新生児訪問、乳幼児健診、各種母子の教室等で繰り返し周知を行う。 ・安心して相談ができる場所として、感染症対策を徹底した環境の整備を行う。 ・関係機関との連携を更に強化し、切れ目のない支援を提供できるような体制の充実を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・妊娠届出時や新生児訪問、乳幼児健診、各種母子の教室等で子育て世代包括支援センターの機能の周知を行った。 ・感染症対策を徹底し、いつでも安心して相談できる体制を整備した。 ・子育てに関する来所や電話による相談は来所が57件、電話が63件、訪問が5件だった。 ・相談に内容に応じて関係機関へつなぎ、切れ目のない支援を提供した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	子育てに関する多様なニーズに柔軟に対応できるように、関係機関との連携を図り、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない体制整備が必要である。

有識者会議による検証評価

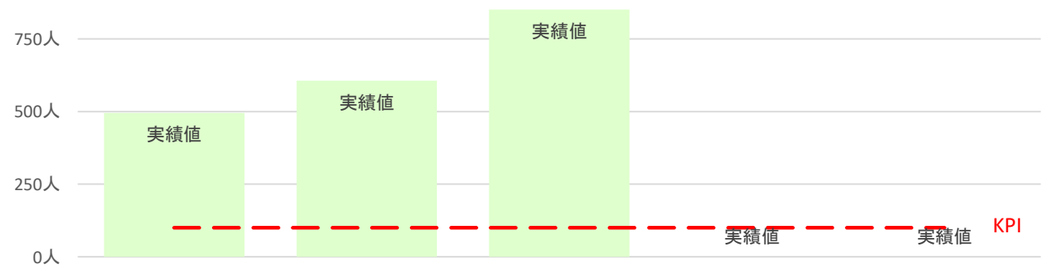
評価	総数	意見
◎	2	
○	18	①安心して子育てができるように支援する事業は今後も継続していってほしい。退職した高齢者の手助を活用する方向を考えてはどうか。 ②更なる相談体制の充実(例えば、来所、訪問、電話に加えメール等)を望む。 ③125件は多いのか。オンライン相談できる環境を。 ④目標値の設定の根拠は。 ⑤土日祝日、夜の相談体制も検討して下さい。 ⑥需要は引き続きあるだろう。SNSでの相談窓口もあると、さらに必要としている人の手に届きやすくなると思う。 ⑦不安解消につながる取り組みでえあり、今後も継続して欲しい。 ⑧羽咋市の子育てアプリに、最近話題のチャットでAIに相談できるような機能を備えさせることはできないのか。
△	1	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

38	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
	(2)安心して子育てができる社会の構築	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②子育てアプリの登録者数	100人	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	60人	70人	80人	90人	100人
実績値	495人	606人	851人	－	－
事業費予算額	176千円	396千円	1,386千円	－	－
事業費決算額	176千円	396千円	1,386千円	－	－
年度目標に対する達成率	825.0%	865.7%	1063.8%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	◎	◎	○		
評価の理由	機能内容を拡充し利便性を高めたことが登録者の増加につながっている。				

PLAN R4年度の 取組内容	母子手帳関連機能を主体としたアプリを活用して、子育て情報や保育所の情報をアップできる羽咋市版子育て情報アプリの登録者数を増やす。 (保護者や家族などを対象として、利用している保育所ごとに登録し、スマートフォン等で情報を受け取ることができる。)
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	登録者の増加につなげるため、市窓口や妊娠届の際にアプリの登録チラシを随時配布する。 保育所等10か所で、新規入所の保護者に登録チラシを配布する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度、子育てアプリにデジタル予診票と一時保育に係る予約システム機能を拡充したことで利便性が向上した結果、3月末での登録者は851人となった。 また、コロナ対応のための緊急連絡手段としても活用。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	情報の発信だけでなく、各種母子教室の予約や、妊婦さんの負担軽減・利便性向上を目的としたシステム上の機能拡充を図り、アプリ登録者数の増加につなげる。

有識者会議による検証評価

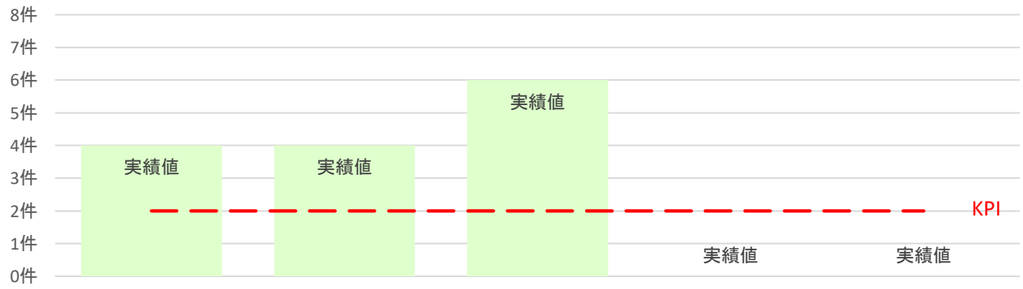
評価	総数	意見
◎	3	①子育ての不安を解消するため、気軽に相談できる手立てとして必要。
○	17	①アプリ等で情報を共有し安心して子育てができるシステムがあるとよい。 ②子育て情報をできるだけきめ細かにアップできるシステムを構築してほしい。 ③アプリは時代にマッチしているものと思われる。更なる内容の充実を図ってもらいたい。 ④お父さんにもすすめて下さい。 ⑤目標値の見直しが必要。男性の育児参加を進めるためにも、父母共に更なる充実した内容に利便性が向上していくことを望みます。 ⑥デジタル予診票はすごく便利です。
△	1	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

39	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	2 妊娠・出産・子育てまでの総合的支援の充実	担当課
	(3)子育て世帯に優しい環境の整備	地域整備課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①都市公園(計11公園)の再整備施設数	2件	1件



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1件	2件	2件	2件	2件
実績値	4件	4件	6件	－	－
事業費予算額	10,000千円	21,805千円	10,461千円	－	－
事業費決算額	9,933千円	21,182千円	10,461千円	－	－
年度目標に対する達成率	400.0%	200.0%	300.0%	－	－
基準値に対する増減率	300.0%	300.0%	500.0%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	年次計画通り整備が出来た。
PLAN R4年度の 取組内容	都市公園改修整備方針に基づき、都市基幹公園については機能拡充による重点整備を図り、近隣・街区公園については安全対策と長寿命化を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	都市基幹公園である羽咋運動公園の遊具整備を夏頃を目途に整備を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	都市基幹公園である羽咋運動公園において大型遊具を新設し、近隣公園である白鷺公園についても照明をLED化し、さらに利用しやすい公園となり、利用者数が増加している。 また、眉丈台地自然緑地公園において、サウンディング調査を基に新たな指定管理者制度と設置管理許可制度を用いた募集を行い、令和5年度以降の管理事業者が決定した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	眉丈台地自然緑地公園については、新たな管理事業者が決まり官民連携を進め魅力ある公園づくりを進めていく。 その他の都市公園についても、公園利用者を増やしていくため、遊具の更新やキッチンカーなどのイベントを企画し官民連携を進めていく。

有識者会議による検証評価

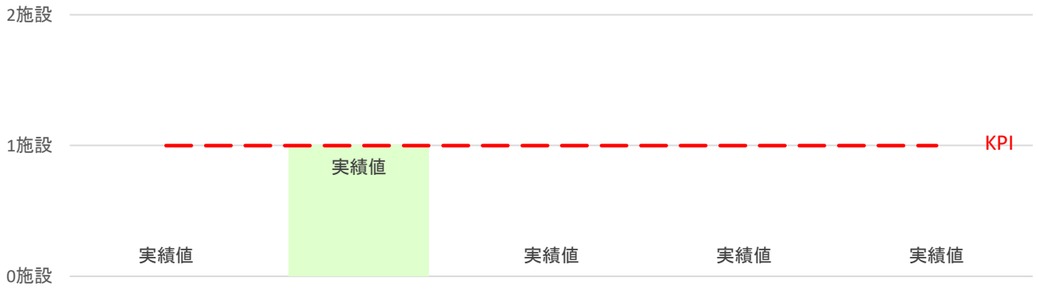
評価	総数	意見
◎	15	①羽咋運動公園は充実しつつあり活用者が増えているのはよいことであある。屋内での施設で活用できる所を作ってほしい。 ②移住者は過疎化で子供たちが少ない上に遊ぶ公園がないので作ってほしい。 ③住民の要望をより反映させる整備計画となることを望む。 ④羽咋運動公園は子どもでにぎわう公園になったし、ラクナはくいの屋内公園、眉丈台地自然緑地公園も魅力あるものになるのではないかと期待している。子どもや若い親世代が住みたいと思える羽咋市にするには、必要な施策の1つであると思う。 ⑤羽咋運動公園は整備を行い、しっかりと管理しているため利用者が大きく増加している。手をかければ、市民が喜び集うよい例である。 ⑥気軽に行けて思いきり遊べて楽しめ、又行きたくなる公園であればいいと思います。 ⑦眉丈台地自然公園の整備も楽しみである。キッチンカーやイベントの拠点となるような試みをしていただきたい。
○	5	①去年と同じ。 ②必要である。すぐすべきである。 ③施設整備はいいが、キッチンカーなどのイベント(ソフト対策)はもう一歩か。
△	1	①いろいろな公園で散歩しました。●島出児童公園、羽咋中央公園、あさひ公園:公園から車道・歩道への出入口のところ、車道までの距離も短く、柵もない部分もあり、車道へすぐに飛び出せてしまう。幼児は急に走って出てしまうので、危なくて遊ばせられない。飛び出しできないような柵(名前がわかりませんが写真のようなもの)が必要。●新保工業団地緑地公園:芝生が伸びまくり、子が足を取られて歩きにくそうでした。●邑知の郷公園:芝生は刈られていましたが、刈った芝生がたくさん残されており、どろどろになって積もっていました。子が足を取られて歩きにくそうでした。芝生がきれいに整備されていると毎日でも行こうと思えますが、整備されておらず歩きにくいと、もう行かないと思ってしまうので、芝生整備をお願いします。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

40	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	3 女性活躍の社会と交流の場の創出	担当課
	(1)子育てと仕事の両立及び社会参加の促進	こども課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①保育施設(計10施設)のうち延長保育時間を拡充した施設数	1施設	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	－	－	－	1施設
実績値	－	1施設	－	－	－
事業費予算額	3,210千円	2,865千円	0千円	－	－
事業費決算額	2,819千円	2,865千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	直接的な指標ではないが、サロンの休日保育が子育て支援として有効となっている。
PLAN R4年度の 取組内容	子育てと仕事の両立ができるよう夜間や休日に保育内容の充実する。 ①19時まで実施している保育園で1か所をさらに保育時間を1時間延長する。 ②子育てサロンでの休日保育の利用時間を延長する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①在園児の延長保育を20時までできるよう、実施できる保育園の意向調査をする。 ②休日保育を実施していない保育所を利用している保護者や未入所児を対象に、子育てサロンで保育を実施する。ファミリー・サポート・センターを経由し、提供会員に依頼して、休日保育を実施する。提供会員と検討し、時間延長を検討する。 ※KPIについては、係内協議により状況によって変更も有り
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①保育園の延長保育時間をする場合、人材の確保が難しい。②子育てサロンの空いている時間を利用し、休日保育(9時から17時)を実施した。実施件数:81件
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	サロンの休日保育(日曜日)は、ニーズもあり今後も継続する。

有識者会議による検証評価

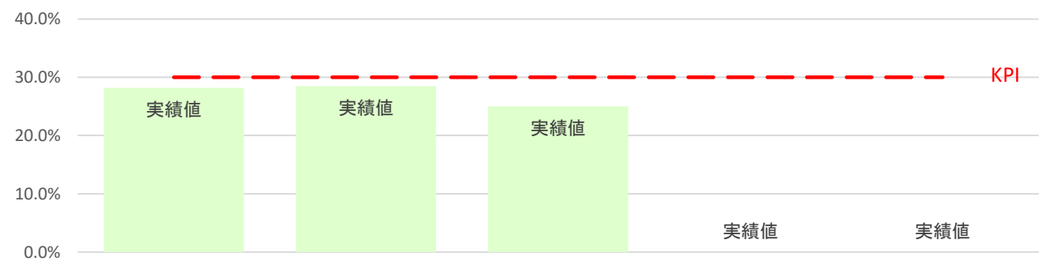
評価	総数	意見
◎	1	①退職した高齢者を活用できないか。
○	18	①去年と同じ。早く取組んで欲しい。 ②ぜひ継続してほしい。 ③休日保育の充実を望む。 ④サロンで夕方とかのニーズはまかなえるのか。 ⑤予算・決算がないので事業としての評価ができないと感じました。 ⑥共働き家庭にとっては、無くてはならないものです。取り組みの継続を。 ⑦子育てサロンである程度補完できているならよいと思う。休日保育、延長保育、小学生の休日保育(学童？)は、現代の子育て家庭の働き方から見ても、受け入れ制度が充実していると助かる家庭はあると思う。 ⑧吉崎町にある子供のひろば横に市営野球場は年間使用回数は。使われていない時は、子供達の広場として指標出来るようにするのはどうか。
△	1	①目標値も予算もないのをどう評価するのか。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

41	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	3 女性活躍の社会と交流の場の創出	担当課
	(1)子育てと仕事の両立及び社会参加の促進	生涯学習課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②審議会等における女性委員登用率	30.0%	26.1%



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	28.0%	29.0%	29.0%	29.0%	30.0%
実績値	28.2%	28.5%	25.0%	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.7%	98.3%	86.2%	－	－
基準値に対する増減率	8.0%	9.2%	−4.2%	－	－
担当課評価	◎	◎	△		

評価の理由	女性委員が5割近くであった少年育成センター運営委員会が廃止となったため。
PLAN R4年度の 取組内容	学校・家庭における男女共同参画意識づくりの推進
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	羽咋市男女が共に輝くまちづくりプラン(第4次)の成果について検証する。 男女共同参画の意識づくり推進のため、男女共同参画推進委員とともに、啓発事業を計画し、市民が男女共同参画への関心を持つきっかけとなるよう努める。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	羽咋市男女が共に輝くまちづくりプラン(第5次)の成果について、プランに基づく具体的施策の推進状況調査の結果をとりまとめ検証して、男女共同参画推進委員会にて報告した。 市全体での、女性が輝くまちづくりに関する事業を洗い出し女性学習会での研修材料とした。 男女共同参画週間とパープルリボンキャンペーンについて、図書館と連携して企画展を行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	啓発事業については、新型コロナウイルス感染症の状況に左右されるようなイベントに便乗して行うのではなく、地道に継続して行えるよう新たな方法を検討する。

有識者会議による検証評価

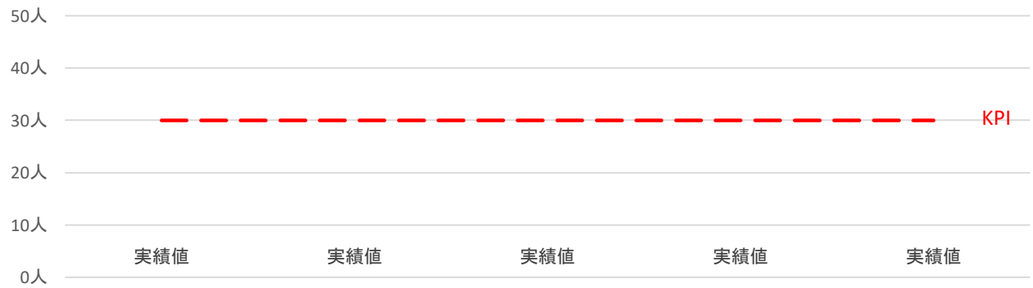
評価	総数	意見
◎	0	
○	3	①目標値が高まると目標値達成に向けて努力されるので50%を目指すことはよいことです。
△	17	①まだまだ男女不平等！女性を起用すればよいという問題では無く意識の隔たりを無くす事が大事。 ②女性活躍の場は重要。新たな方法に期待したい。 ③男の意識が変わらない限り進行しないと思う。 ④基準値より下がっている。50%を目指してほしいが、まず30%になるよう1人でも多く登用を。 ⑤予算と決算がないので事業としての評価ができないと感じました。 ⑥30%ではなく50%を目指すべきところであるが、むしろ目標値から遠ざかってしまっている。抜本的な見直し50%を目指した積極的な取り組みが必要なように思う。 ⑦女性が活躍できる環境づくりが必要。 ⑧様々な年代の女性の意見を反映させてほしい。そのためにも、子育て世代の女性が参加しやすいような取り組みが必要に感じる。子どもも連れてきてよい等。 ⑨過去にも何度も意見がでているが、世の中は男女半々で構成されているので、目標は30%ではなく50%であるべき。国や県の値を見ても、実際に50%に到達するのはかなり時間がかかるとは思うが、目標を妥協してはいけないと思う。ましてや市の取組なので、「目標は30%」とすることは、「女性は3割いれば十分なんだ」と公的に認めるようなもの。誤解させてしまうと思う。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

42	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	3 女性活躍の社会と交流の場の創出	担当課
	(2)男性の育児・家事参加の促進	こども課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①男性育児・家事参加の啓発セミナー参加者数	30人	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30人	30人	30人	30人	30人
実績値	中止	中止	中止	－	－
事業費予算額	500千円	－	－	－	－
事業費決算額	0千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	△	△	△		

評価の理由	コロナ禍の不安定な状況で開催できなかった。対象者に寄り添ったセミナーが開催できるように事業の見直しが必要。
PLAN R4年度の 取組内容	男性の育児、家事参加の啓発セミナーを実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	対象者は乳幼児を持つ父親で、家事や育児方法を10～11月くらいに開催予定。 オンライン対応も検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	コロナ禍により中止
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	コロナの感染状況を見ながら、事業について検討する。

有識者会議による検証評価

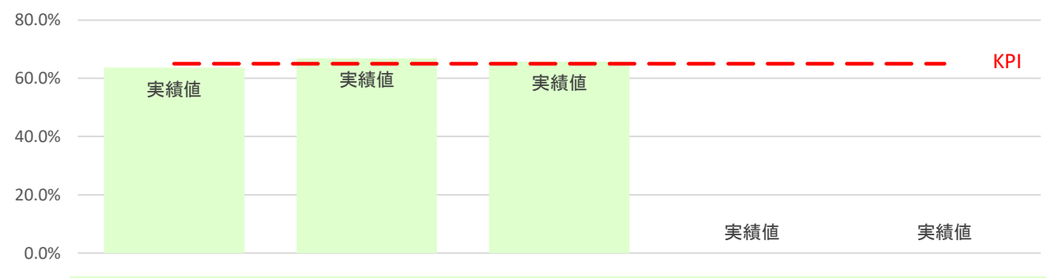
評価	総数	意見
◎	0	
○	1	
△	17	①育メンと言う言葉より育児・仕事でがんばっている女性を皆で支えよう！男性の思いやりが一番大切。 ②対象者を乳幼児を持つ父親だけでなくもっと年齢を下げて(中高大生)実施することを企画してはどうか。 ③男性の参画は重要。新たな方法に期待したい。 ④今年はぜひ開いてほしい。コロナも終わったので。 ⑤中止のため評価できません。 ⑥R3の意見の初孫セミナーはよいアイディア。昔の知識で今の育児の足を引っ張ることがあるというのは感じる。孫の役に立てるならというモチベーションで参加する気持ちにもなるのではないか。 ⑦子育て世代の人たちと交流できる機会はあったら嬉しい。男性の具体的な育児参加の例として、離乳食づくりや子どもとの簡単なレクリエーション遊びなどを挙げ、その方法を学んでもらい、各家庭で取り組んでもらえばよいと思う。家庭での育児の男性の明確な役割(離乳食づくり、遊び相手等)を示しての良いのでは。 ⑧「対象者は乳幼児を持つ父親」とのことですが、今までしなかった家事を乳幼児ができてからいきなりするようになる人はほぼいないと思うので、家事参加については対象者を「乳幼児を持つ父親」限定ではなく広げるべき。例えば婚活プログラムの中に取り入れて、家事ができることは女性から好まれる要素である等を伝えて、家事をやる意欲を持たせてはどうか。 乳幼児を持つ男性同志が交流を持てる場は少ないので、交流も目的の一つとして、交流により家事育児へのやる気を促すようにし、年4回くらい行ってはどうか。
×	3	①いらない。セミナーをしても参加するのは、意識が高い者だけ。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

43	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	3 女性活躍の社会と交流の場の創出	担当課
	(2)男性の育児・家事参加の促進	こども課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②乳幼児の父親の育児協力率	65.0%	63.3%



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	63.5%	63.5%	64.0%	64.5%	65.0%
実績値	63.7%	66.9%	65.7%	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	－	－	－	－	－
年度目標に対する達成率	100.3%	105.4%	102.7%	－	－
基準値に対する増減率	0.6%	5.7%	3.8%	－	－
担当課評価	○	◎	○		

評価の理由	事業や訪問を通じて男性への育児参加を継続的に伝える必要はある。
PLAN R4年度の 取組内容	妊娠期から子育て期の各種教室や乳幼児健診等で、父親の育児参加の重要性を周知する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	・両親学級に参加した父親に対して家事や育児参加の重要性を伝える。 ・妊娠届出や乳幼児健診、各種母子の教室で父親の育児参加を促すパンフレット等を配布する。 ・育児相談に来所した父親や訪問時に会った父親に対して、育児参加の重要性を伝えたり、育児方法を助言する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・乳幼児の父親の育児協力率(健診時アンケート277人中)65.7%。 ・育児休暇を取得する父親が増え、新生児訪問時に直接父親に母親の産後の心身の変化や育児手技について助言する機会が増えた。 ・妊娠期に開催される両親学級に父親も一緒に参加することで、育児参加の関心が高まる機会となった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	今後も、各種母子保健事業を通じて、父親への家事・育児参加への重要性を伝える必要がある。

有識者会議による検証評価

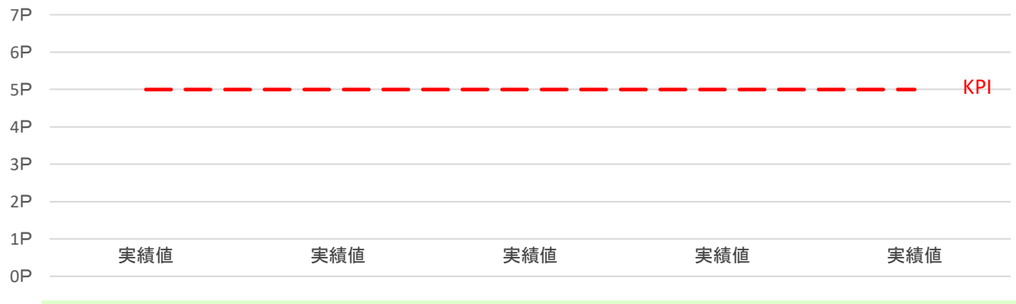
評価	総数	意見
◎	1	①乳幼児の父親へのアプローチだけでなく企業へのアプローチも同時に進めていく必要がある。
○	14	①㊷でも書いたが、女性への思いやりが一番大切！ただ参加を強ようしても無意味。 ②男性の参画は重要。引き続きの周知活動に期待したい。 ③どうしても男性は仕事優先になる。夫婦間で話し合いをし、互いに困った時は助け合える関係づくりを。また、それを助ける職場環境づくりが必要。 ④何を協力すればよいのかの例を示さないと動けない男性もいるのでは。女性にしかできない授乳など以外で男性が協力できそうなことをセミナーなどで学べると良いと思う。例えば、離乳食づくり等。
△	5	①目標値及び実績値の算定方法は？ ②目標値を超えているが、実績値は前年度より下がっている。より上がる工夫を。 ③育児協力率の目標を100%にすべき。女性の協力率は、アンケートを取れば100%近くになると思うので、「男性は65%でいい」というのはおかしい。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

44	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(1)総合的な学習能力の向上と支援	学校教育課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①小学校6年生の国語、算数の全国学力・学習状況調査	県平均5ポイント以上維持	5P



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5P	5P	5P	5P	5P
実績値	中止	国14P 算13P	国10P 算10P	－	－
事業費予算額	50千円	－	－	－	－
事業費決算額	50千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	◎	◎		
評価の理由	目標値を大きく超えて達成。				

PLAN R4年度の 取組内容	①指導力を維持するためのミドルリーダー教員の育成及び新時代に対応した人材を育む学習支援。 ②各学校における特色ある教育活動の推進。 ③「HAKUISM」の推進。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回　授業交流研修会3回)を開催し、指導力維持を図る。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を推進するため、「HAKUISM」などの校内研修を定期的に開催し、指導力向上、授業改善を目指していく。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、オンライン研修をはじめ市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回　授業交流研修3回　ICT活用研究会5回)を開催し、指導力維持に努めた。②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を更に推進するため、令和の学びのスタンダードである「HAKUISM」の推進に積極的に取り組み、効果的な基礎学力の定着に努めた。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①授業力と今日的な教育課題に対応する資質・能力を更に高めるため、引き続き効果的なけんしゅうを実施する。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた特色ある教育活動の推進。 ③R4年度に若手中堅のワーキンググループが作成した「ICT活用の指導指針」を教育現場の方針に加えると共に、今年度新規に導入する「AIドリル」を有効に活用する。

有識者会議による検証評価

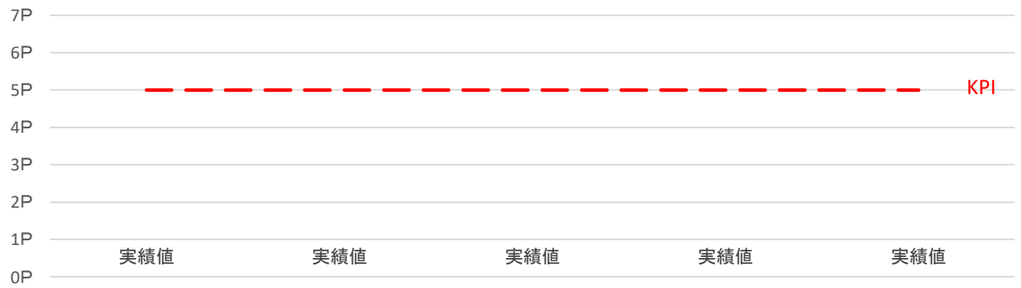
評価	総数	意見
◎	18	①今の時代が求めている教育が方向性を大事にするとともに人格形成の場であることも大切にしてほしい。 ②小学校、中学校で高めた学力を地域の高校にもつながるよう連携していってほしい。 ③長期的な視点での人材育成に貢献している。更なる取組の深化に期待したい。 ④予算と決算がないため事業としての評価が難しいと感じました。 ⑤移住・定住支援から、結婚、出産、子育て支援「学び」のサポートも手厚いとなると子どもを産み育てるなら羽咋でと思う若者が増えるのではないのではないのでしょうか。そんな切れ目のないサポート体制をわかりやすくどんどんPRしていったらいいと思う。 ⑥先生方の授業力の向上に向けた努力の結果が見える。今後も研修の充実を期待する。
○	2	①点数だけに執着しない方がいい。点数以外の能力を育てる試みはよいと思う。
△	1	①学力調査に対して過去問での過度な対策など、本来の目的とは違うように進められてはいないか。点数をノルマにすることで、現場が点数に執着するのは当たり前なので、このKPIを見直し、羽咋市が独自で取り組んでいる「HAKUIZUM」の活用状況や満足度などを指標にしてはどうか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

45	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(1)総合的な学習能力の向上と支援	学校教育課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②中学校3年生の国語、数学の全国学力・学習状況調査	県平均5ポイント以上維持	5P



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5P	5P	5P	5P	5P
実績値	中止	国10p、算14P	国8p、算12P	－	－
事業費予算額	50千円	－	－	－	－
事業費決算額	50千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	◎	◎		

評価の理由	目標値を大きく超えて達成。
PLAN R4年度の 取組内容	①指導力を維持するためのミドルリーダー教員の育成及び新時代に対応した人材を育む学習支援。 ②各学校における特色ある教育活動の推進。 ③「HAKUISU」の推進。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回　授業交流研修会3回)を開催し、指導力維持を図る。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を推進するため、「HAKUISU」などの校内研修を定期的に開催し、指導力向上、授業改善を目指していく。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、オンライン研修をはじめ市教育委員会主催の研修会(若手教員2回、中堅教員2回、各主任教員2回　授業交流研修3回　ICT活用研究会5回)を開催し、指導力維持に努めた。 ②各学校の教育目標並びに教育方針に基づいた教育活動を更に推進するため、令和の学びのスタンダードである「HAKUISM」の推進に積極的に取り組み、効果的な基礎学力の定着に努めた。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①授業力と今日的な教育課題に対応する資質・能力を更に高めるため、引き続き効果的な研修を実施する。 ②R4年度に若手中堅のワーキンググループが作成した「ICT活用の指導指針」を教育現場の方針に加えると共に、今年度新規に導入する「AIドリル」を有効に活用する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	17	①長期的な視点での人材育成に貢献している。更なる取組の深化に期待したい。 ②予算と決算がないため事業としての評価が難しいと感じました。 ③教育の「教」:指導法の充実は確実に成果があがっている。「育」:「生徒一人ひとりをどう育てていくか」についても研修を深めてほしい。
○	3	①教員の働き方改革が言われているが研修の時間も引き続き大事にしていってほしい。 ②44に同じ。
△	1	①GIGAスクール構想で一人一台のタブレット端末が導入されているので、そういったICT技術によって、一人一人に合った進度にあった学習ができるようになるのは良いことだと思う。「AIドリル」の現場での評判はどうか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

46	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(2)グローバル社会に対応した英語教育の推進	学校教育課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①中学3年生の英検3級以上取得率	70.0%	40.7%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	45.0%	55.0%	60.0%	65.0%	70.0%
実績値	55.9%	62.2%	56.1%	－	－
事業費予算額	1,920千円	1,920千円	2,350千円	－	－
事業費決算額	747千円	1,031千円	1,001千円	－	－
年度目標に対する達成率	124.2%	113.1%	93.5%	－	－
基準値に対する増減率	37.3%	52.8%	37.8%	－	－
担当課評価	◎	◎	○		

評価の理由	中3の3級以上の取得率は、目標を下回ったが、中学生の3級以上は、42.9%で、昨年度より4.2pアップしたため。
PLAN R4年度の 取組内容	①外国語指導助手(ALT)を配置し、全小中学校と連携した外国語教育の推進。 ②小学生や中学生の英検受験費用を助成。 ③コロナ禍により中学生のアメリカ派遣研修の実施は難しいが、国内での代替案を検討する。 ④国立能登青少年交流の家と連携した英語教育の実施。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①外国語指導助手を(ALT)を配置し、引き続き小学校からの外国語教育の充実、能力アップを図る。 ②英語検定料奨励費支給制度については、中学生には、年2回までの受験料の2分の1を補助し、英検Jr及び英検5級を受験する小学生には、年1回の受験料の2分の1を補助し、英語に親しむ環境づくり、継続して英検に取り組み、国際的に活躍できる人材育成を目指す。 ③コロナ禍により中学生のアメリカ派遣研修の実施は難しいが、国内にある英語づけの体験型研修の実施を目指す。 ④新型コロナウイルス感染症の状況を鑑みながら、国立能登青少年交流の家と連携して、市内全小学校の中・高学年を対象とした、イングリッシュキャンプを実施する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①外国語指導助手(ALT)を配置し、全小中学校と連携した外国語教育の推進した。 ②小学生や中学生の英検受験費用を助成。(実績　597件、1001千円) ③コロナ禍等により3年連続中止となっている中学生のアメリカ派遣研修の代替として、市と連携協定をしている企業を活用した「JALイングリッシュキャンプ」を大阪市で実施(応募者56名　応募者多数のため、参加対象者は中3の22名とする) ④国立能登青少年交流の家と連携した英語教育を実施した。(全小学校で2日間にわたり実施　児童260名参加)
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①外国語助手を4名配置し、引き続き小学校からの外国語教育の充実、能力アップを図る。 ②英語検定料の1/2補助を来年度から小学生も中学生と同じ年2回に拡大し、更に英語に親しむ環境づくり、継続して英検に取り組み、国際的に活躍できる人材育成を目指す。 ③R5年度も、中学生のアメリカ派遣研修の代替となる国内研修を実施する。 ④国立能登青少年交流の家と連携して、市内全小学校の中・高学年を対象とした、イングリッシュキャンプを実施する。

有識者会議による検証評価

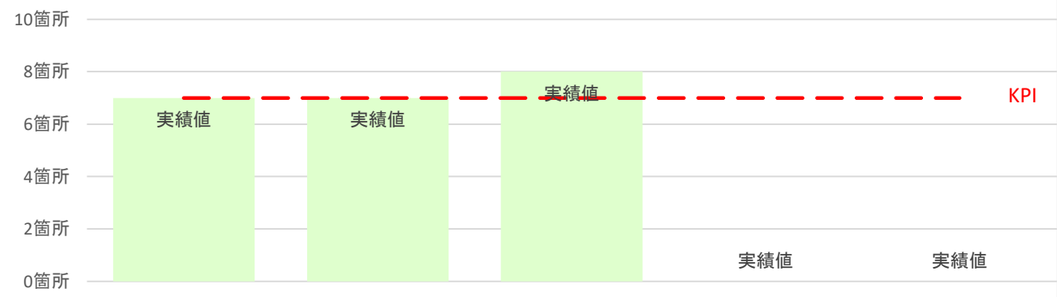
評価	総数	意見
◎	2	
○	18	①小学生や中学生の英検受験費用を助成。→これはよいと思う。 ②費用を助成しながら今後も英検取得率を上げていってほしい。 ③長期的な視点での人材育成に貢献している。より実践的な外国語能力の向上が図れることを期待したい。 ④小学生の表彰者を拡大したのはいいことだと思います。 ⑤よい取り組み。 ⑥英語活用力を身につけさせるための継続したいい取り組みになっている。学びと活用の場を頻繁に設定できればいいですね。 ⑦英語を学びたい子は、どんどんスキルを高めていけるように支援すればよい。グローバルな人材を育成するために英語教育に力を入れることはよいと思うが、過度な英語教育で英語嫌いがを増やしてはいないか。英語に対する児童・生徒のアンケートなどの結果はどうなっているか。「好きかどうか」「役に立つ思うか」などのアンケートの結果などあれば、教えていただきたい。
△	0	
×	1	①AIにより英語教育はなくなる。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

47	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(2)グローバル社会に対応した英語教育の推進	こども課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②英語に親しむ活動を導入した市内保育所、認定子ども園の数	7箇所	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	7箇所	7箇所	7箇所	7箇所	7箇所
実績値	7箇所	7箇所	8箇所	－	－
事業費予算額	420千円	180千円	255千円	－	－
事業費決算額	240千円	360千円	255千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	100.0%	114.3%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	◎	◎	○		
評価の理由	目標値を達成しているとともに、利用者からの反応も良い。				

PLAN R4年度の 取組内容	市内保育所等で英語を交えて、関心をもって積極的に接する活動を実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	公設公営保育所には日本人英語講師、公設民営保育所には楽人英語講師を月1回招いて、英語活動を実施している。5月から実施する。対象者は、年長児とする。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	公設公営保育所3か所、公設民営保育所4か所の計7か所、認定こども園で1箇所実施している。それぞれの保育所に月1回ずつ実施した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き事業を実施する。

有識者会議による検証評価

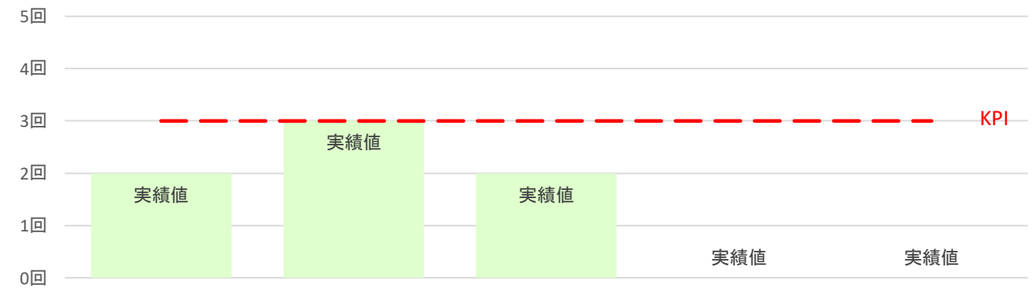
評価	総数	意見
◎	1	①幼児からの英語へ慣れ親しむ機会を充実させることが小学校からの外国語活動や外国語教育へのハードルを下げることにつながると思うので、可能であれば月に一回から回数を増やすことはできないのか。未就学児対象で、コスモアイルや子育てサロンなどでの外国語活動のイベントを行うのはどうか。
○	18	①長期的な視点での人材育成に貢献している。より実践的な外国語能力の向上が図れることを期待したい。 ②保育所の段階は楽しんで英語に親しむのがよいと思う。 ③私立への助成も希望があれば検討して下さい。 ④英語嫌いにならないよう活動の工夫が必要。
△	1	①月１回のみで、英語教育を推進しているとは言い難いと思うので、頻度や対象者を拡充するべき。
×	1	①AIになる。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

48	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(3)次代に対応するための学習能力の向上	学校教育課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①国立能登青少年交流の家と連携した学習会の実施回数	3回	1回



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	2回	2回	2回	3回	3回
実績値	2回	3回	2回	－	－
事業費予算額	－	200千円	200千円	－	－
事業費決算額	－	200千円	200千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	150.0%	100.0%	－	－
基準値に対する増減率	100.0%	200.0%	100.0%	－	－
担当課評価	○	◎	○		
評価の理由	事業内容を改善しながら、継続。				

PLAN R4年度の 取組内容	「国立能登青少年交流の家」と連携した事業を通して、団体生活や体験活動を通じて、青少年の健全育成を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①9月に「HAKUI　キッズイングリッシュキャンプ」を全小学校で2日間にわたり実施予定。 ②プログラミング教育(初級編、中級編2回)を日帰りまたは1泊2日で実施予定。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	引き続き、「国立能登青少年交流の家」と連携した事業を通じて、団体生活や体験活動を通して、青少年の健全育成を図った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえ ての今後の方 向性)	①習熟度別の「HAKUI　キッズイングリッシュキャンプ」を学年別で実施予定。②プログラミング教育(初級編、中級編2回)を日帰りまたは1泊2日で実施予定。

有識者会議による検証評価

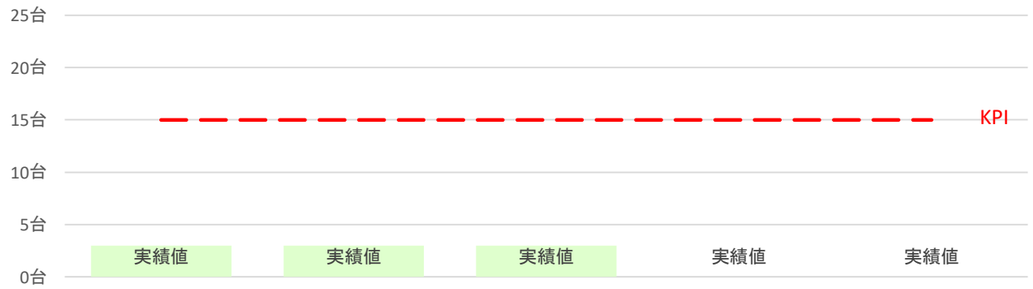
評価	総数	意見
◎	2	①英語やプログラミングなどの学習会はよいと思う。他にもコロナも落ち着いてきたので、青少年交流の家を活用し、異学年交流や他校の児童生徒との交流の場になればよいと思う。そのために、参加したくなるような様々なイベントを企画してほしい。例えば、「犬とふれあおう！」「DIYしてみよう！」「みんなで流しそうめんをしよう！」等　イベントを行う羽咋市内の関連団体も盛り上がると思う。
○	19	①長期的な視点での人材育成に貢献している。より実践的な外国語能力の向上が図れることを期待したい。 ②学校以外の場で他校の子どもたちと交流しながら学習するのは互いの刺激にもなる。 ③英語とプログラミング以外でもできることを増やせないか。 ④せっかく羽咋市にある青少年交流の家を利用しない手はない。どんどん連携事業を実施してほしい。 ⑤青少年交流の家などの施設を活用した学習や体験は効果的な学びにつながる。取り組みの継続を！！
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

49	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	4 新時代に活躍できる人材を育てる教育を推進	担当課
	(3)次代に対応するための学習能力の向上	学校教育課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②市内小中学校のプログラミング学習教材導入台数	各校15台以上	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3台	6台	9台	12台	15台
実績値	3台	3台	3台	0台	－
事業費予算額	1,109千円	1,441千円	1,441千円	－	－
事業費決算額	1,366千円	0千円	1,441千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	50.0%	33.3%	0.0%	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	◎	△	△		
評価の理由	プログラミング学習教材を見直したため。				

PLAN R4年度の 取組内容	小中学校のプログラミング教育を推進する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①組立式ロボット型プログラミング教材は、現台数で足りていることから、この教材の新たな購入はしない。 ②よりよいプログラミング教材やプログラミングソフトの購入を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①1人1台パソコンを使って、無料のプログラミングソフトを活用したプログラミング教育が可能となったため、新たな学習教材の購入はしなかった。なお、これまでに購入した20台のプログラミング教材については、クラブ活動で有効に活用されている。また、プログラミング教材の予算については、パソコンで行うプログラミング教育に補助的に必要な電子黒板や1人1台パソコンのコンセントの購入費とした。 ②「国立能登青少年交流の家」と連携して、プログラミング教育を1泊2日で実施した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①無料のプログラミングソフトを有効に活用したプログラミング教育の実施。このため、来年度からプログラミング学習教材の購入費の予算措置はしない。 ②「国立能登青少年交流の家」と連携したプログラミング教育の実施。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	3	①無料のプログラミングソフトの活用は素晴らしい。
△	16	①長期的な視点での人材育成で必要。新たな方法に期待したい。 ②必要ならすぐすべきであろう。 ③教員は指導できているのか。 ④指揮を変えたほうがよい。 ⑤交流の家でのプログラミング教育はよいと思う。
×	1	①AIがプログラミングする。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

50	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	5 安心できる教育環境の充実	担当課
	(1)きめ細やかな教育・学習機会の充実	学校教育課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①学校図書の年間平均貸出数	120冊	105冊

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	105冊	108冊	113冊	116冊	120冊
実績値	81冊	93冊	96冊	－	－
事業費予算額	2,200千円	2,200千円	2,203千円	－	－
事業費決算額	2,186千円	2,189千円	2,160千円	－	－
年度目標に対する達成率	77.1%	86.1%	85.0%	－	－
基準値に対する増減率	−22.9%	−11.4%	−8.6%	－	－
担当課評価	△	△	○		

評価の理由	紙媒体の図書貸し出しに加え、R4年度から電子図書を導入し活用しているため。
PLAN R4年度の 取組内容	学校図書の充実を図ると同時に、読書習慣を備えるための活動を実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①新刊図書を購入し、図書の充実を図ると同時に、読書パズルや読書ビンゴなどのイベントを企画、開催し、児童、生徒の読書習慣の定着を図る。 ②新たに導入したEライブラリーを有効に活用する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①新刊図書を購入し、図書の充実を図ると同時に、各学校で読書パズルや読書ビンゴ、読書マラソンなどのイベントを企画し、開催し、児童、生徒の読書習慣の定着に努めた。 ②今年度から、中学校ではこれまでの予算を、1/2ずつ書籍購入費と電子図書利用料に配分し、新規に電子図書を導入。また、平昭七記念財団から、小学校1～3年生には児童向け図書と、小学校4～6年生にはR4～6年度までの3年間の電子図書ライセンスの寄付を頂き、読書環境の充実に努めた。この結果、電子図書の年間平均利用数は、小学生は104冊、中学生は 66.8冊となり、特に、部活や塾などでなかなか図書室にいくことできない中学生は、前年度の書籍平均貸出数の15.4冊から大幅に改善された。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①更に図書館司書を1名増員するほか、新刊図書を購入し、図書の充実を図ると同時に、読書パズルや読書ビンゴなどのイベントを企画し、開催し、児童、生徒の読書習慣の定着を図る。 ②Eライブラリーをより有効に活用する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	20	①ビブリオバウムとの連携もPRしては？ ②図書館アンケート等を実施しながら現状を把握して取組を進めてほしい。 ③長期的視点に立ち、図書の充実を図ってもらいたい。 ④学校図書室の充実。(図書司書等の配置) ⑤電子図書の取り組みはよいと思うが、紙の本もよいと思うので、紙の本の貸し出しも増える取り組もして下さい。 ⑥リアル書籍の良さ、電子図書の良さはそれぞれある。中学生の読書数が大幅に増加したなら、電子図書のメリットを十分に活かせた結果と言えよう。 ⑦読書習慣が身につく取り組みが必要。短い時間でいいので毎日本を開く時間を設置する。 ⑧電子図書を本当に児童・生徒は読んでいるのか。どういう状態で1冊とカウントされるのか。1ページ目でも読み込んだら1冊、最後のページまでいって1冊なのか。各校で行われている学校図書館でのイベントを羽咋市内のどの学校でも共有できるような連絡会を行っていってほしい。 ⑨本は読みたいと思ったときが読みどきなので、思いついたときにすぐ読めるEライブラリーは、読書へのハードルを下げるのにとてもいいツールだと思う。冊数をもっと増やせば、読書数は増えると思います。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

51	Ⅲ 若者の生活、子育てを切れ目なく支援	
	5 安心できる教育環境の充実	担当課
	(2)開かれた学校運営体制の実現	学校教育課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①学校給食の地元農産物の使用割合	25.0%	23.3%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	23.5%	24.0%	24.5%	25.0%	25.0%
実績値	21.7%	23.5%	17.9%	－	－
事業費予算額	86,882千円	150,589千円	75,692千円	－	－
事業費決算額	81,298千円	142,350千円	72,397千円	－	－
年度目標に対する達成率	92.3%	97.9%	73.1%	－	－
基準値に対する増減率	−6.9%	0.9%	−23.2%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	地元野菜の生産が少なかったため。
PLAN R4年度の 取組内容	学校給食食材の地産地消の拡大、自然栽培米・野菜の使用及び、学校給食におけるアレルギー対応食の提供。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①今年度からJAはくいが差額を負担することにより、より高品質の羽咋産1等米を提供できることとなった。地場産の野菜については、市学校給食地元農産物利活用協議会と協議し、旬の野菜や通年野菜を可能な限り使用する。 ②自然栽培米は、給食費に見合う単価で使用する。 ③アレルギー対応食については、食物アレルギーの児童生徒が他の児童生徒と同じように給食を楽しめることを目指す。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①食材費が高騰する中で、価格変動の大きい生鮮食品の利用や、特に地場産の安価で安心な旬の野菜や通年野菜を使用したメニューの工夫などで、給食費の不足ができるだけ少なくなるように努めた。JAはくいの協力により、年間を通して羽咋産1等米を提供した ②自然栽培米は、農林水産課からの提供で、学期ごとに2回、年6回使用した。 ③食物アレルギーの児童生徒が他の児童生徒と同じように給食を楽しめるよう工夫しながら、おいしくて安全なアレルギー対応を提供した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①今後も食材費の高騰が相次ぐが、給食費の値上げをせずに不足分を市で補助していく方針であり、地場産の安価で安心な旬の野菜や通年野菜を使用したメニューに積極的に取り組む。 ②自然栽培米は、これまで同様に、農林水産課から、学期ごとに2回、年6回提供をうける予定。 ③アレルギー対応食については、保護者との面談を通して、食物アレルギーの児童生徒が他の児童生徒と同じように給食を楽しめるように工夫する。

有識者会議による検証評価

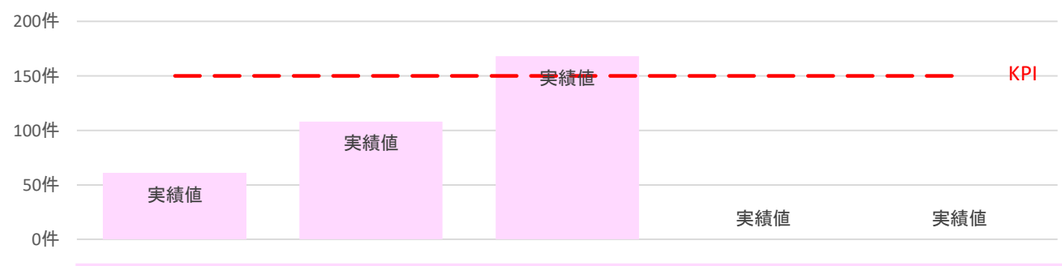
評価	総数	意見
◎	3	①項目⑦にも関連性があるので、回数頻度も可能な限り実施していただきたい。 ②地元の食材を知る機会としてよいと思う。使用割合はコントロールできるような気がするが、なぜKPIが達成できなかったのか。
○	18	①地元の食材を使うことで子どもたちは地元を知ることになると同時に新鮮で安心な物を食べられることにもなる。 ②子供たちの記憶に残るので食育は重要。食材価格も高騰している中、大変かと思うが継続して欲しい。 ③R3からR4年になぜ実績値が減少したのか。 ④アレルギー対応も含めて羽咋らしい自然栽培の米、野菜の利用を(1クラス1学年ずつとかでもできないか) ⑤子どもたちに詳しい解説もセットで地元野菜や羽咋産1等米を提供するとより良いと思う。食育として、子どもたちの心に、記憶に残りより味わい深く感じられるのでないか。 ⑥地元野菜生産減少の理由を調査し、少しでも多くの野菜を子供達に提供してほしい。 ⑦地域の産物を知るためにも取り組みを継続して欲しい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

52	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	1 住環境の整備推進	担当課
	(1)住宅取得の支援制度の拡充	地域整備課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①住まいづくり奨励金の交付件数	150件(R2～R6年度累計)	58件



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30件	60件(累計)	90件(累計)	120件(累計)	150件(累計)
実績値	61件	108件(累計)	168件(累計)	－	－
事業費予算額	15,900千円	39,000千円	39,500千円	－	－
事業費決算額	60,075千円	45,380千円	68,510千円	－	－
年度目標に対する達成率	203.3%	180.0%	186.7%	－	－
基準値に対する増減率	5.2%	86.2%	189.7%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	実績値が目標値を上回っているため。				

PLAN R4年度の 取組内容	移住定住を促進するため、転入者・子育て・若者・女性に対して手厚い助成支援を実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	移住相談窓口と連携しながら、移住を検討している方や窓口に来られる住宅建設業者に対して、制度の周知を図り、金融機関である住宅金融支援機構との協定の範囲内での連携を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	3月末時点で102件の申請があり78人(転入者)の移住定住につながった。(昨年:38人移住定住) また、第1期千里浜ヒルズ分譲地24区画を整備し、現在、10世帯からの申し込みがあり、分譲地整備は移住定住の促進に効果があると考えている。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和5年度中に第2期千里浜ヒルズ分譲地を整備し、切れ目のない移住定住を促進する。

有識者会議による検証評価

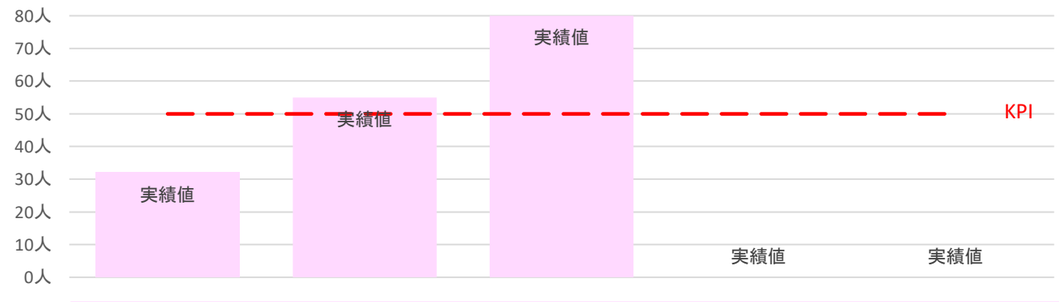
評価	総数	意見
◎	20	①引き続き分譲地の整備を図り積極的な移住促進を図ってほしい。 ②のと里山に近く通勤に便利な為か千里浜地区の分譲地は人気が高いように思う。千里浜以外でも整備を進め羽咋市の活性化につなげてほしい。 ③定住者が増えるよう今後も引き続きPRしていってほしい。 ④いい取り組み。他市町との定住争奪戦に負けるな。 ⑤柴垣に「来たい」「住みたい」を目指す為、サーフィン、釣り、遊歩道等、リラックス、気分転換出来る環境整備に力を入れてほしい。 ⑥移住が定住につながるように一市民としても応援しているし、切れ目のない支援制度のPRは引き続き行ってほしい。 ⑦定住を進めるための支援制度は是非今後も継続して欲しい。 ⑧分譲地整備を積極的に進めてほしい。
○	1	①分譲地以外でも利用者はいるのか。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

53	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	1 住環境の整備推進	担当課
	(1)住宅取得の支援制度の拡充	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②定住促進分譲地への定住者数	50人(R2～R6年度累計)	19人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	10人	20人(累計)	30人(累計)	40人(累計)	50人(累計)
実績値	32人	55人(累計)	80人(累計)	－	－
事業費予算額	29,890千円	16,400千円	9,454千円	－	－
事業費決算額	29,890千円	19,190千円	20,600千円	－	－
年度目標に対する達成率	320.0%	275.0%	266.7%	－	－
基準値に対する増減率	68.4%	189.5%	321.1%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	実績値が目標値を上回っているため。				

PLAN R4年度の 取組内容	令和3年度に整備した第2期夕日ヶ丘分譲地10区画中8区画の申し込みがあり、残り2区画を完売する。 また、千里浜インターチェンジ周辺の分譲地を整備し、新たな分譲地整備の候補地を検討する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	第2期夕日ヶ丘分譲地の残り2区画については、チラシによる広報や住宅関連事業者へのPR等により、令和4年度中に完売する。 また、千里浜インターチェンジ周辺の分譲地については、造成工事の実施設計完了後、早期の完売を目指すため分譲地の募集を開始する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	10区画を整備した第2期夕日ヶ丘分譲地は、9区画が購入され9世帯25人の移住定住につながった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和4年度中に千里浜インターチェンジ周辺の分譲地を整備した千里浜ヒルズ分譲地24区画を令和5年の春頃から分譲を開始する。 また、切れ目のない移住定住の促進を図るため、第2期千里浜ヒルズの分譲地整備に着手し、そのほかの新たな分譲地整備の候補地を検討する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	20	①移住定住者へのアンケートを実施して今後の分譲地整備につなげてほしい。 ②分譲地整備といった基盤の整備も重要。近隣市町向けのPRも有効ではないか。 ③旧市街地をどうするのか。 ④今後も移住定住につながる分譲地整備に継続して取り組んでほしい。 ⑤新たな分譲地整備を進めてほしい。
○	1	
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

54	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	1 住環境の整備推進	担当課
	(2)安価な住居の提供	地域整備課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①島出定住促進住宅の改修戸数	60戸(R2～R6年度累計)	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	0戸	30戸(累計)	60戸(累計)	60戸(累計)	60戸(累計)
実績値	0戸	0戸(累計)	23戸(累計)	－	－
事業費予算額	－	11,500千円	51,750千円	－	－
事業費決算額	0千円	11,220千円	4,345千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	0.0%	38.3%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	◎	△	◎		
評価の理由	工期とおり完了したため。				

PLAN R4年度の 取組内容	令和4年度以降に大規模改修を予定していたが、方針変更により民間活用を視野に入れた整備方針を検討する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	令和4年度中にサウンディング型市場調査を実施し、今後の具体的な整備方針を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	サウンディング調査の結果、指定管理や民間への譲渡を視野に官民連携を検討することとなり、必要最小限の空き住戸23戸の改修が終了した。 キッチン、トイレ、浴槽、フローリングがリフォームされ、移住定住向けの魅力ある住戸となった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	4月からリフォーム内容を周知し、移住者の増加を図る。

有識者会議による検証評価

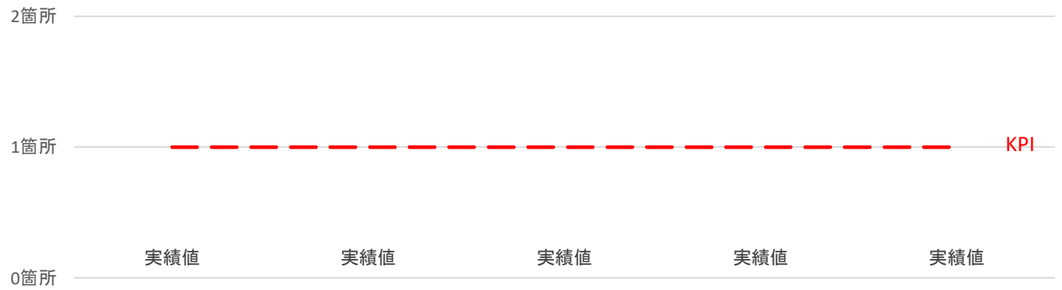
評価	総数	意見
◎	17	①リノベーションして安価であれば魅力的だと思う。 ②昨年度の「取組内容の見直し」結果が上手くいった事例。不断の見直し、検討は重要。 ③必要ならすぐすべきであろう。 ④具体的な画が見えないが、移住者が住みたくなるような、住み続けたくなるような住戸になっているならいいと思います。
○	3	①改修した23戸には、人が入りそうなのか。
△	1	①指標をかえるべきでは。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

55	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	1 住環境の整備推進	担当課
	(2)安価な住居の提供	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②新規公営住宅の整備箇所数	1箇所	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	－	－	－	1箇所
実績値	0箇所	0箇所	0箇所	－	－
事業費予算額	2,500千円	0千円	0千円	－	－
事業費決算額	2,387千円	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	△	△	○		

評価の理由	新規住宅設備の必要性について再検討することなったため。
PLAN R4年度の 取組内容	新規の移住定住向け住宅の整備については、民間賃貸住宅の需要が高いことから、実施時期について再度検討を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	令和2年度に策定した市営住宅整備基本計画の見直しを行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	移住定住用である島出・御坊山の定住促進住宅の今後の民間活用について、サウンディング型市場調査を実施し指定管理や民間譲渡等の検討を行う事となり、併せて、今後、市として、新規の移住定住用の住宅の必要性について検討する事となった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	新規の住宅の必要性については、人口減少等に対応したまちづくりに対応出来るよう整理する。

有識者会議による検証評価

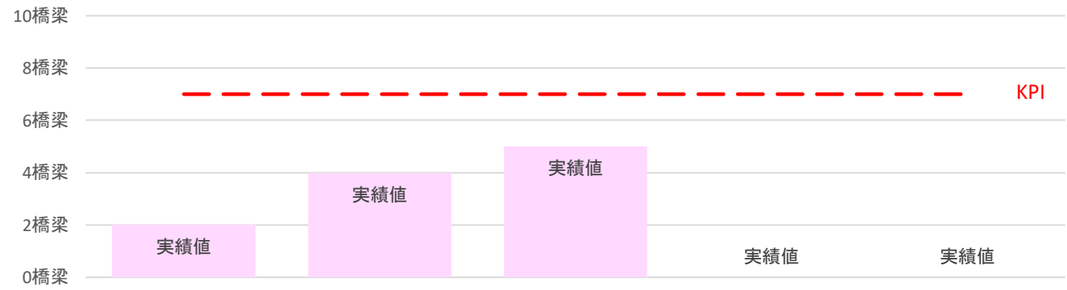
評価	総数	意見
◎	1	
○	16	①現状の入居状況要望等を把握して次の手だてに着手することを望む。 ②継続するにしても、№54のように見直すことも必要ではないか。
△	3	①指標をかえるべきでは。 ②どんな人が公営住宅を利用するのかの対象などを想定しているか。新しい賃貸アパートや新築の分譲地が増えている中で公営住宅であるメリットがあるのか。
×	1	①R2年から目標値も実績値もないのにどうするのか。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

56	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	2 既存施設などの効果的な維持管理の推進	担当課
	(1)公共施設の長寿命化と計画的整備	地域整備課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①橋りょう長寿命化の補修件数	7橋梁(R2～R6年度累計)	2橋梁



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1橋梁	3橋梁(累計)	4橋梁(累計)	5橋梁(累計)	7橋梁(累計)
実績値	2橋梁	4橋梁(累計)	5橋梁(累計)	－	－
事業費予算額	132,663千円	158,950千円	199,312千円	－	－
事業費決算額	81,713千円	101,732千円	37,466千円	－	－
年度目標に対する達成率	200.0%	133.3%	125.0%	－	－
基準値に対する増減率	0.0%	100.0%	150.0%	－	－
担当課評価	◎	◎	○		

評価の理由	実績値が目標値を上回っているため。
PLAN R4年度の 取組内容	橋梁の法定点検に基づき、橋梁の延命化を図るため、予防保全型の維持管理を実施しており、5年ごとに橋梁長寿命化計画を更新し、計画的に修繕を実施する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①危険橋梁の宇土野橋については、令和2年度から工事に着手しており令和4年度完了に向けて架け替え工事を行う。 ②麻の尻橋については、令和4年度から工事に着手し解体及び基礎工、下部工事を行う。 ③橋梁法定点検要領にのっとって羽咋市全橋梁166橋の点検を継続して行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①宇土野橋については、令和4年12月に工事が完了した。 ②麻の尻橋については、令和4年度から工事に着手し解体工事及び護岸下部工事を実施中(継続事業) ③令和4年度については、橋梁法定点検20橋点検した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	橋梁の長寿命化により、維持管理費の縮減及び道路ネットワークとしての安全な道路環境を高めるため、計画的に点検、補修を継続していく。

有識者会議による検証評価

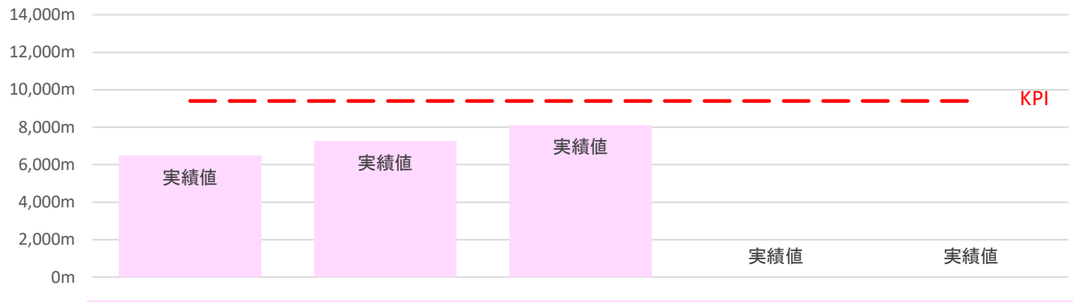
評価	総数	意見
◎	1	
○	20	①生活にとって大事なことであり定期的に点検をしながら安心安全につながるように進めてほしい。 ②自然災害も増えていると感じているので、スピード感を持って取り組まれることを期待。 ③どれだけ改修するべき橋梁があるのか。必要性のあるのであれば、実行すべきである。 ④目標値を超えても引き続き進めてほしい。 ⑤安全安心な生活のため計画的に進めて欲しい。 ⑥安心安全な暮らしのために必要なところはできるだけ早く補修をしていってほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

57	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	2 既存施設などの効果的な維持管理の推進	担当課
	(2)上下水道設備などの機能維持と更新	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①老朽管更新の延長距離	9,400m(R6年度まで累計)	5,950m(R元年度まで累計)



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	6,430m	6,950m(累計)	8,050m(累計)	8,870m(累計)	9,400m(累計)
実績値	6,476m	7,266m(累計)	8,117m(累計)	－	－
事業費予算額	44,407千円	86,700千円	61,550千円	－	－
事業費決算額	44,407千円	87,670千円	64,361千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.7%	104.5%	100.8%	－	－
基準値に対する増減率	8.8%	22.1%	36.4%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	実績値が目標値を上回っているため。				

PLAN R4年度の取組内容	布設40年以上経過した水道老朽管の更新を行う。
DO 事業スケジュール 課題など (具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	粟ノ保地区、神子原地区の上水道の送水管、配水管の布設替えを行う。 粟ノ保地区(配水管　φ150HPPE　L=640m) 神子原地区(送水管　φ100HPPE　L＝200m、配水管　φ75HPPE　L＝200m)
CHECK 3月末時点 (1年間の振り返り及び効果検証)	粟ノ保地区(配水管　φ150HPPE　L＝421m、φ100HPPE　L＝12m) 神子原地区(送水管　φ100HPPE　L＝202m、配水管　φ75HPPE　L＝216m) 予定路線実施済み
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	今後も、上水道老朽管の送水管、配水管の布設を実施していく。

有識者会議による検証評価

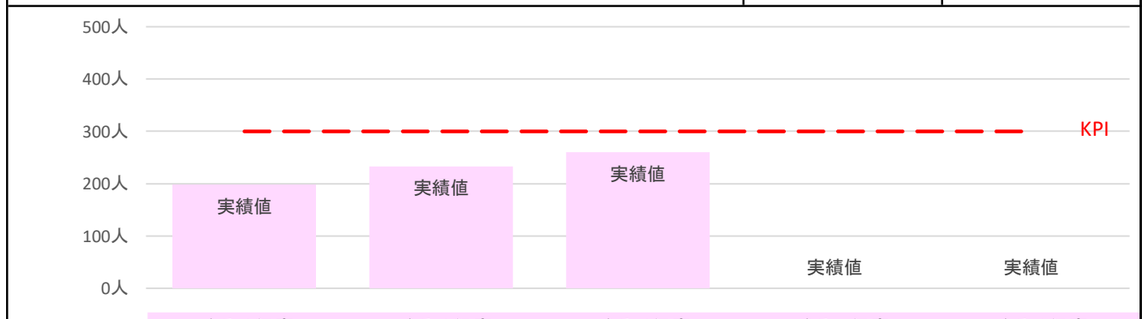
評価	総数	意見
◎	18	①順次取りかかっていくとよいと思う。 ②生活にとって欠かせない「水」のことなので計画的に迅速に行ってほしい。 ③気温低下に伴う凍結被害に備え、スピード感を持って取り組まれることを期待。
○	3	①40年を超えた管はなるべく早く交換を。 ②計画通りに進めていてよいと思う。今後もお願いします。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

58	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	（1）地域における減災・防災対策の充実	環境安全課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標（KPI）	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市内の防災士登録人数	300人	152人



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	180人	210人	240人	270人	300人
実績値	198人	233人	260人	－	－
事業費予算額	765千円	1,225千円	1,225千円	－	－
事業費決算額	541千円	1,096千円	870千円	－	－
年度目標に対する達成率	110.0%	111.0%	108.3%	－	－
基準値に対する増減率	30.3%	53.3%	71.1%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	目標を達成することができた。				

PLAN R4年度の 取組内容	自主防災組織等の要となる防災士の資格認証取得等を支援することで、防災士の育成を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など （具体例： いつ、誰が、 どこで、何を …）	住民への防災意識の浸透や自主防災組織等が行う避難訓練やそのノウハウの蓄積に非常に大きな役割を占める防災士の育成を行うために、下記の支援等を実施する。 ・防災士の資格認証取得研修費の支援 ・防災士の資格取得試験費及び認定登録料の支援 ・自主防災組織への助成
CHECK 3月末時点 （1年間の 振り返り及び 効果検証）	現在、羽咋市の人口が20,768人(R2国勢調査)であり、100人に1人の市民が防災士の資格を持っている。適正な割合というものは難しいと思うが、目標とする300人を達成するように工夫する。
ACTION 対応方向 （上記を踏まえての今後の方向性）	防災士の研修の充実を県とともに考えていく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	18	①防災士の必要性を機会ととらえて住民に知らせていく工夫をする。（各町の総会等で知らせる） ②自然災害も増えていると感じているので、事前の備えは重要。更なる取組に期待。 ③羽咋は比較的おだやかでありがたいが県内でも大きな災害が頻発している。明日は我が身で防災意識を高めることが必要に思う。（自分も取得しようかな・・・）
○	3	①資格取得後の活動支援もお願いします。 ②市内の防災士が増えている中で、任意の防災士の講習などのアフターサポートも行っていってほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

59	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	(1)地域における減災・防災対策の充実	環境安全課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②市内の女性防災士登録人数	50人	33人

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	36人	39人	42人	46人	50人
実績値	42人	60人	69人	－	－
事業費予算額	765千円	1,225千円	1,225千円	－	－
事業費決算額	54千円	345千円	291千円	－	－
年度目標に対する達成率	116.7%	153.8%	164.3%	－	－
基準値に対する増減率	27.3%	81.8%	109.1%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	目標値を達成することができた。				

PLAN R4年度の 取組内容	自主防災組織等の要となる防災士の資格認証取得等を支援することで、女性防災士の育成を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	住民への防災意識の浸透や自主防災組織等が行う避難訓練やそのノウハウの蓄積に非常に大きな役割を占める防災士の育成を行うために、下記の支援等を実施する。 ・防災士の資格認証取得研修費の支援 ・防災士の資格取得試験費及び認定登録料の支援 ・自主防災組織への助成
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	防災士260名の内、69名(約26%)が女性である。女性の考え方や習慣等も防災には必要であり、今後も増えるように工夫する。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	防災士の研修の充実を県とともに考えていく。

有識者会議による検証評価

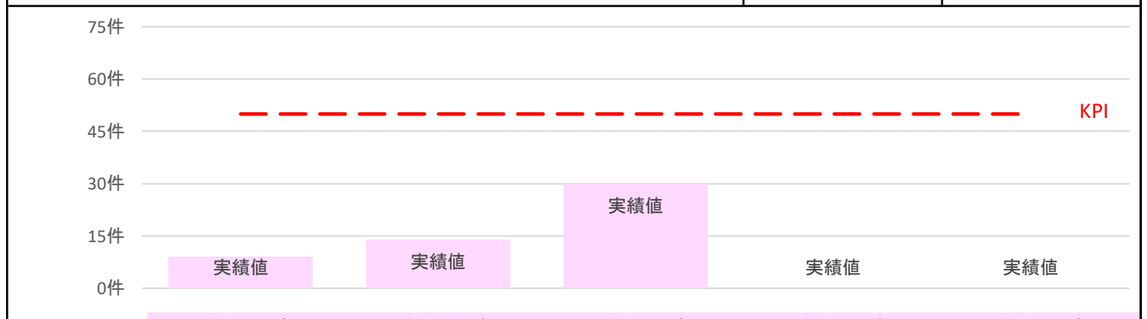
評価	総数	意見
◎	16	①自然災害も増えていると感じているので、女性目線での事前の備えは重要と理解。 ②目標は達成しているが、女性が活躍する場として今後も取り組みの継続を！！
○	4	①各町の女性の会を活用してPRしていく。 ②増やすだけでなく登録後、女性防災士との意見を取り入れる場をつくってほしい。 ③どんな立場の女性が今まで防災士になっているのか。女性の防災士がなぜ必要であるか周知が必要だと思う。
△	1	①女性にこだわりすぎ。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

60	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	(2)住宅の安全強化の推進	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①老朽空き家の応急処置等による改善件数	50件(R2～R6年度累計)	7件



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	10件	20件(累計)	30件(累計)	40件(累計)	50件(累計)
実績値	9件	14件(累計)	30件(累計)	－	－
事業費予算額	600千円	600千円	300千円	－	－
事業費決算額	0千円	91千円	189千円	－	－
年度目標に対する達成率	90.0%	70.0%	100.0%	－	－
基準値に対する増減率	28.6%	100.0%	328.6%	－	－
担当課評価	○	○	◎		
評価の理由	取り組むことにより老朽空家が改善されるため。				

PLAN R4年度の 取組内容	人口減少が進行する中で老朽空家が増加することが見込まれることから、空家除却や応急処置等による、危険空家の減少により、市民が安全・安心に暮らせる地域づくりを行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	定期的な巡回等により、老朽化が進んでいる空家については、助言、指導等による適正管理を実施する。 また、町会との連携により、老朽空家の実態把握に努める。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	助言・指導等により1戸の空家が利活用、3戸の空家が解体された。 また、老朽空家12戸に対して、助言・指導等を行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	助言・指導等については一定の効果があることから、今後も引き続き実施し、安全安心に暮らせるまちづくりを推進する。

有識者会議による検証評価

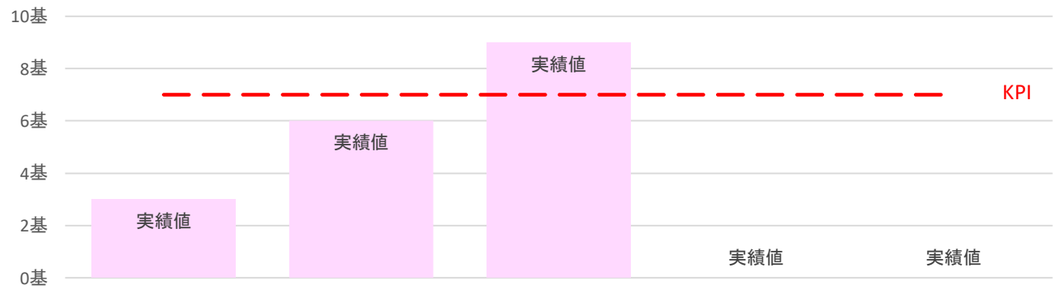
評価	総数	意見
◎	16	①荒廃した空き家を放置したままというのはよくないと思う。これから増えるのは、間違いないので、安全な町づくりの為にも対策が必要。 ②今後も空き家は増加していくので各町と協力して空き家の活用法について話し合う場を設定してはどうか。 ③老朽化した空き家対策は、社会問題化しているので、早急な対応を望む。 ④今現在、応急処置の必要な家庭はどれだけあるのか。 ⑤解体の代執行をする場合、事前に第3者から意見を聞く会議体が設置されているのでしょうか。 ⑥老朽空家の解体は、状況によっては市の予算で解体してほしい。又、空家の利用はせず、草刈りだけをしているのが一番だと思います。 ⑦着実に実績を上げているのはとても良い。なぜ予算額が半減したのか。 ⑧各町会の困りごとに老朽空家問題が常に上位を占める。今後も助言・指導に積極的に取り組んでほしい。 ⑨実態を把握し、緊急性の高いところから対処してほしい。空き家バンクの登録を町ごとに進めていってほしい。
○	4	①抜本的に空き家をつくらない仕組み、制度を検討してほしい。 ②危険空家については、安全安心の確保のためにも継続した取り組みが必要。
△	0	
×	1	①撤去する。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

61	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	(3)次代に対応した防災機能の充実	地域整備課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①河川監視システム整備完了	整備完了	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3基	5基(累計)	7基(累計)	－	－
実績値	3基	6基(累計)	9基(累計)	－	－
事業費予算額	10,000千円	5,000千円	5,000千円	－	－
事業費決算額	6,991千円	3,795千円	4,290千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	120.0%	128.6%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	○	○		
評価の理由	実績値が目標値を上回ったため。				

PLAN R4年度の 取組内容	豪雨による災害の未然防止と被害の軽減を図るために、河川監視カメラを設置し、地域住民へ豪雨時の河川状況の情報提供を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	令和2年度から3ヶ年で、河川監視カメラを8基(令和2年度　3基、令和3年度　3基、令和4年度　2基)設置する。 第2四半期に河川監視カメラの発注を行い、工事着工後に河川量水標設置工事の発注を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	3基の河川監視カメラを設置し、累計で9基のカメラを設置することができた。それにより、市のホームページから河川水位画像の閲覧ができるようになり、誰でもパソコンやスマートフォンから5分間隔の河川の状況画像を確認することができ、豪雨時の避難準備や避難行動を促すことにつながった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	今後もデーター連携基盤システムと連携しながら、必要箇所を見極めながら設置を検討していきたい。

有識者会議による検証評価

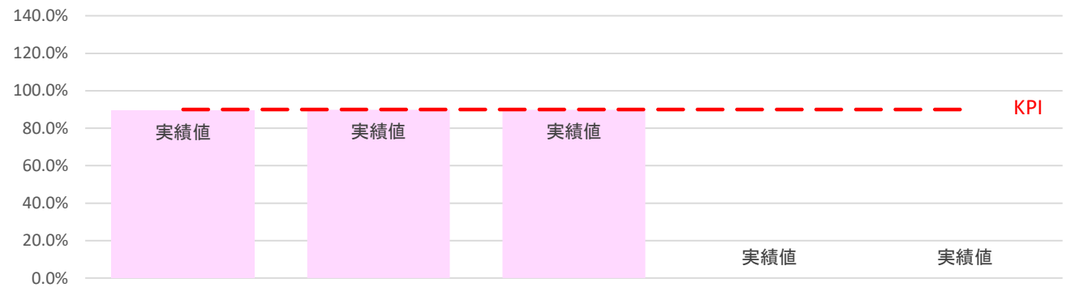
評価	総数	意見
◎	1	
○	20	①昨年と同じ。 ②豪雨災害のニュースが毎年のように流れるにつけ未然防止対策の必要性を強く感じる。継続的設置をお願いする。 ③自然災害も増えていると感じているので、事前の備えは重要。更なる取組に期待。 ④本当に9基で足りているんでしょうか。 ⑤HPから水位画像の確認ができるのは便利だと思います。HPで確認できるカメラは、設置された9基のうち一部のみのようです。全ての箇所を見る方法はあるのでしょうか。 ⑥良い取り組み、必要な取り組みであったと思う。 ⑦ひんぱんに起きる豪雨時の避難準備や避難する上で大切です。 ⑧必要なところに、必要な対策を講じてください。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

62	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	3 地域で安全・安心に暮らせるまちづくりの推進	担当課
	(4)安全で暮らしを支える道路環境の整備	環境安全課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市内街頭のLED照明整備率	90.0%	86.6%



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	87.0%	88.0%	89.0%	89.5%	90.0%
実績値	89.4%	90.0%	90.0%	－	－
事業費予算額	1,595千円	2,420千円	3,025千円	－	－
事業費決算額	1,539千円	集計中	540千円	－	－
年度目標に対する達成率	102.8%	102.3%	101.1%	－	－
基準値に対する増減率	3.2%	3.9%	3.9%	－	－
担当課評価	○	◎	○		

評価の理由	微増の為実績値に変化はないが、町会が管理する防犯灯について更新が進んでいる。
PLAN R4年度の 取組内容	市及び町会が管理する道路照明(防犯灯)の非LED灯器具をLED灯に更新し、防犯や電気料の抑制を図る。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	市及び町会が管理している3,902灯の内、まだLED灯に更新されていない388灯をLED灯に更新する。今年度は重点的に事業を行い、市環境安全課管理分については、今年度中に全てのLED化を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	環境安全課分の防犯灯の更新は終了した。町会管理の防犯灯についても順次更新が進んでいる。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き、適切な維持管理、更新を進める。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	
○	19	①LED灯に更新するのは良いが、LED灯は広がりが無い為、逆に暗く感じるので数量を増やしてはどうか。町の明るさは大事！ ②防犯のためにも整備率100%を目指してほしい。 ③物騒な世の中なので、更なる取組に期待。 ④100%にならないのか。 ⑤安全安心のために継続して取り組みを進めて欲しい。 ⑥必要な箇所は更新を進めてほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

63	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	4 都市機能の集積化と再編	担当課
	(1)JR羽咋駅周辺の整備	都市づくり推進室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①旧マルシェ跡地の整備完了(R6年度まで)	整備完了	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	－	－	－	整備完了
実績値	―	―	－	－	－
事業費予算額	379,000千円	720,970千円	2,208,286千円	－	－
事業費決算額	336,822千円	291,366千円	831,692千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	予定を前倒して事業が進んでいる。
PLAN R4年度の 取組内容	①(仮称)羽咋駅周辺賑わい交流拠点の整備 ②都市計画道路川原町線の整備 ③二級河川長者川の整備 ④市道羽咋101号線の拡幅整備
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①実施設計や造成工事を進め、年内に施設本体工事に着手する。 ②未契約の箇所について用地交渉を進め、土地開発基金による先行取得を実施。先行取得後、R3年度中に基金から用地の買戻しを行う。 ③R4年度中に事業主体である石川県が実施する長者川右岸側の整備(八幡橋上流の旧国道415号までの区間)及び今後の継続的な事業実施に向けた協議を行う。 ④引き続き用地買収を行うとともに、基金から用地の買戻しを実施する。また、道路設計及び橋梁設計業務を進め、県の河川工事と一体的に橋梁工事(右岸下部工事、条件護岸工事)を実施する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①実施設計を進め、造成工事後、施設本体工事に着手した。 ②用地取得率は3月末時点で100%である。 ③長者川右岸側(八幡橋上流の旧国道415号までの区間)は石川県工事は完了した。左岸側(紺屋橋上流の八幡橋までの区間)の整備は前倒して着手した。 ④必要な用地は契約済みである。また、設計業務を進め、道路排水設備工事(稲荷橋から旧国道415号までの区間)を完了した。橋梁については、右岸側の下部工事、条件護岸工事及び上部工事に着手した。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①引き続き施設建設工事を進め、外構工事に着手する。 ②長者川整備終了後、道路工事に着手する。 ③未整備区間の継続的な事業実施に向けた協議を行う。 ④引き続き橋梁工事を進め、平行して交流拠点施設と一体的に道路工事を実施する。

有識者会議による検証評価

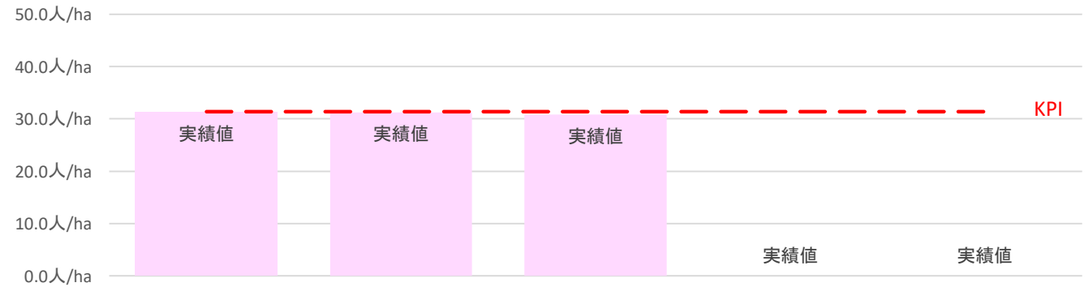
評価	総数	意見
◎	19	①駅前が賑わうことで市民だけでなく電車を利用した観光客にも好印象を与える。(活気ある羽咋) ②整備完了後の姿(活用イメージ等)のPRも必要ではないか。 ③旧市街地との一体となった整備を。 ④引き続き進捗を見守っている。市のLINEでの工事の進捗報告は見ていて期待感が高まってとてもよい。 ⑤期待しています。屋内の子どもの遊び場で市外からも人を呼び込んでほしい。
○	2	①駐車場から道路への出入りに伴う安全対策も考えてほしい。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

64	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	4 都市機能の集積化と再編	担当課
	(2)まちなかの再生促進	地域整備課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①居住誘導区域の人口密度	31.4人/ha	31.0人/ha



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	30.8人/ha	30.9人/ha	31.1人/ha	31.3人/ha	31.4人/ha
実績値	31.3人/ha	31.3人/ha	30.8人/ha	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	－	－	－	－	－
年度目標に対する達成率	101.6%	101.1%	99.0%	－	－
基準値に対する増減率	1.0%	0.8%	−0.6%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	居住誘導を促進し人口密度を高める必要があるため。
PLAN R4年度の 取組内容	居住誘導及び都市機能誘導によりネットワーク型コンパクトシティ(立地適性化)を推進する。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	都市機能を誘導するための施策として、令和4年度中に羽咋駅周辺賑わい交流拠点施設整備のための実施設計を行う。 また、居住を誘導するための施策として、令和4年度中に第2期夕日ヶ丘分譲地10区画を完売する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	都市機能誘導施策である賑わい交流拠点施設については、実施設計が完了し整備に着手した。 また、居住誘導施策の夕日ヶ丘分譲地については、10区画中9区画が購入されまちなかの居住誘導が図られている。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	都市機能誘導施策である賑わい交流拠点施設については、令和6年の夏を目途に完成しにぎわいの創出を目指す。 また、居住誘導施策については、今後、千里浜ヒルズ分譲地周辺を居住誘導区域に拡大し、人口密度を高める。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	2	①計画通りに進めてほしい。
○	18	①引き続き推進して欲しい。 ②「ネットワーク型コンパクトシティ」なるものがやはりよくわかりません。説明求む。
△	1	①無理に人の密度を高めるようとすると、周辺部の過疎化をすすめるのではないか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

65	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	4 都市機能の集積化と再編	担当課
	(3)まちなかと地域を結ぶ交通環境整備	地域包括ケア推進室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①人口に対する地域循環バス等の年間利用者の割合	140.0%	125.8%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	130.0%	133.0%	135.0%	138.0%	140.0%
実績値	93.0%	95.0%	109.0%	－	－
事業費予算額	32,835千円	32,835千円	37,352千円	－	－
事業費決算額	32,835千円	32,663千円	33,530千円	－	－
年度目標に対する達成率	71.5%	71.4%	80.7%	－	－
基準値に対する増減率	−26.1%	−24.5%	−13.4%	－	－
担当課評価	△	△	△		

評価の理由	目標値に達していないため。
PLAN R4年度の 取組内容	高齢者や障がい者等の交通弱者の生活利便性の向上のため、地域循環バス「るんるんバス」の運行形態の見直しを行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	利用者ニーズ、公共交通運行事業者ニーズを把握し、AIタクシーを活用した実証実験結果や利用者アンケートの検証を踏まえ、羽咋市地域公共交通協議会において既存の運行形態の見直し等を実施し、他公共交通と役割分担を明確にし、るんるんバスのより効率的なルート案を作成する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	庁内の地域公共交通検討委員会を8回開催し、るんるんバスを含めた公共交通について検討を行った。 12月 第7回協議会の開催(実証実験の検証結果報告、羽咋市地域公共交通再編実施計画の素案について) 上記の協議会を経て、3月に各公民館で地域公共交通に関する説明会を開催。るんるんバスのルート再編やデマンド交通の実施、各助成等について説明を行った。 利用者についてコロナによる外出自粛が緩和した影響もあり、前年度比112%と増加した。(利用者数:R1 27,126人　R2　19,725人、R3　19,736人　R4　22,202人)
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	粟ノ保、西北台、中邑知・富永の3コースについてはデマンド交通等に移行予定。車輌についても、ワゴンタイプに更新予定であるが、引続き協議会を開催し、他の公共交通との役割分担を明確にし、地域公共交通全体としての利用者の利便性がより向上するよう更なる検証を行う。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	4	①るんるんバスよりAIタクシーで代用した方がよい。 ②利用者がより活用できるようルートの再編が必要であり、取り組みの継続を願う。 ③誰もが安心して社会生活を送れるように、交通インフラの整備は必要。検証したことを、活かしていってほしい。
△	16	①高齢化が進む社会の中でよりよい交通手段になることで生活も充実していく。交通弱者のことを考えた取組にしてほしい。 ②地元にとっては切実な問題と考える。実態を踏まえ、より適切な取組となることを期待。 ③実数報告がいいのでは。 ④観光客の移動手段が少なすぎる。デマンドタクシーの有効活用はできないか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

66	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	4 都市機能の集積化と再編	担当課
	(3)まちなかと地域を結ぶ交通環境整備	企画財政課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②地域公共交通網形成計画の策定	策定	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	策定	－	－	－
実績値	－	策定	－	－	－
事業費予算額	2,531千円	20,125千円	200千円	－	－
事業費決算額	2,531千円	18,629千円	92千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	－	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	地域公共交通の再編に向けて、課題の整理を行い、「地域公共交通再編実施計画」の素案を作成することができた。
PLAN R4年度の 取組内容	昨年度末に策定した「地域公共交通計画」を基に、既存の地域循環バス等の再編も含めた検討を実施し、市民のニーズに合った利用しやすい公共交通を目指す。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①地域公共交通検討委員会にて、令和3年10月～令和4年3月まで実施したAIデマンド交通の実証実験の検証、分析を行う。 ②地域公共交通の再編に向けて、検討委員会にて既存の地域公共交通の課題の整理や地域公共交通の利用促進策を検討し、「地域公共交通再編実施計画」の素案を作成する。 ③地域公共交通協議会にて地域公共交通の再編に向けた協議を行い、「地域公共交通再編実施計画」の素案の修正を行う。 ④「地域公共交通再編実施計画」の意見を募るため、住民説明会の実施やパブリックコメントの募集を行う。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	地域公共交通の再編に向けた協議を行い、「コミュニティバスのルートやダイヤ等の見直し」、「AIデマンド交通の導入」、「路線バスの利用助成の導入」、「交通空白地へのタクシー利用助成の導入」、「地域でのバス待ち環境向上への取り組み支援」、「地域住民団体が行う外出支援活動への支援」を令和6年度から実施していくこととする「地域公共交通再編実施計画」の素案を作成した。地域公共交通に関する住民説明会を開催し、今後の地域公共交通の再編計画を説明するとともに、意見を募った。また、地域公共交通の再編計画に関するパブリックコメントの募集も行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	地域公共交通再編実施計画を策定するとともに、令和6年度からの新たな地域公共交通の構築に向けて、令和5年度はAIデマンド交通の運営事業者の選定、コミュニティバス再編業者の選定、利用促進施策の策定等を実施する。

有識者会議による検証評価

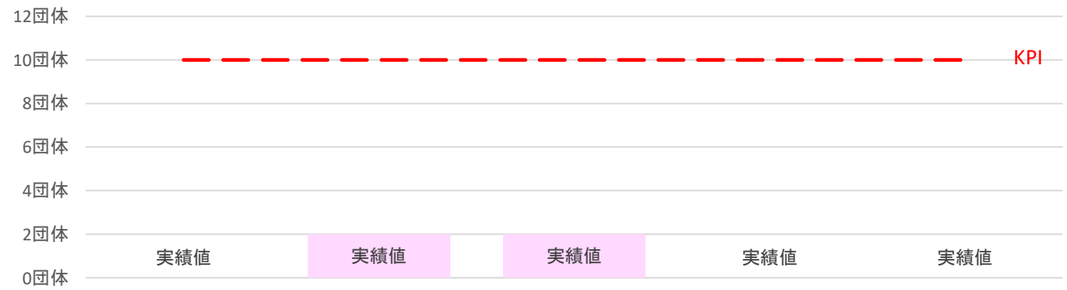
評価	総数	意見
◎	1	
○	19	①利用状況(買い物、病院その他等)を把握して計画を進めてほしい。 ②地元にとっては切実な問題と考える。実態を踏まえ、より適切な取組となることを期待。 ③なるべく早く計画を実施に移してほしい。 ④目標値と実績値が示されていないので評価ができません。 ⑤利用者にとって不便があるようです。実態の把握と改善策の検討が必要。 ⑥田舎の公共交通機関の成功例を違う自治体から学んで、活かしてほしい。
△	1	①予算決算が極端に少ないが、前年度の違いは何だったのか？
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

67	Ⅳ 安全・安心・快適な環境の整備	
	5 感染症対策の充実と地域経済の支援・強化	担当課
	(1)安全・安心な暮らしと地域経済安定化の両立	商工観光課 地域振興室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市内サテライトオフィスの利用企業・団体数	10団体	－



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	－	－	3団体	6団体	10団体
実績値	－	2団体	2団体	－	－
事業費予算額	－	21,750千円	3,000千円	－	－
事業費決算額	－	21,558千円	2,959千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	－	66.7%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	－	◎	○		

評価の理由	新たな利用団体獲得にはつながらなかったものの、テレワークを生かした関係人口に係る重要な取り組みであるため。
PLAN R4年度の 取組内容	令和3年度にサテライトオフィスとして整備した「能登千里浜レストハウス」2階部分「コワーキングベース千里浜」をはじめとするテレワーク施設の利用企業・団体の誘致を図り、関係人口・移住推進につなげる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①能登千里浜レストハウスと連携した、企業や団体向けPRイベントの開催。 ②能登千里浜レストハウスの発展のために受け入れた課題解決型インターンシップ生発案のイベントの開催。 ③首都圏向けの継続的な情報発信。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①令和5年3月、能登千里浜レストハウスの運営管理者である「能登風土㈱」主催の異業種交流会を開催。首都圏の事業者へサテライトオフィスの利用を促すPRを行った。 ②独自イベントのカキ祭りの開催や「コワーキングベース千里浜」のPRを行う専用LINEを開設。今後、継続的なつながりを築くことができるように、LINE登録者数は増やし、テレワーク施設の利用につなげる。 ③本市、七尾市、中能登町の3市町で構成する能登地域移住交流協議会における、テレワーク施設としても重要であることから、ワーケーションモニターツアーの経由地としての活用や、専用HPにおいて継続的なPRを行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	コロナ禍であったことや、企業向けのサテライトオフィスとしての認知度が低いことから、能登千里浜レストハウスについては、テレワーク施設としての利用者は少ないのが課題となっている。コロナ禍が終息する令和5年度からは、市としてもサテライトオフィスを検討する首都圏の企業向けに積極的なPRを行う。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	18	①コロナの5類への移行により利用状況が変化することが考えられるのでPRをしながらもう少し様子を見定めるのがよい。 ②コロナ禍を経て、テレワークも浸透。引き続き積極的なPRを望む。 ③サテライトオフィスに対するニーズがどれだけあるのか気になるところです。 ④今後も積極的なPRが必要。 ⑤コワーキングスペースなどを個人事業主はどれほど利用しているのか。
△	2	①ワーケーションお試し移住での活用を探った方がよいのではないか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

68	V 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(1)健康でアクティブな生活の実現	健康福祉課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①特定健診受診率	60.0%	54.1%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	54.0%	55.5%	57.0%	58.5%	60.0%
実績値	47.0%	40.0%	－	－	－
事業費予算額	24,363千円	24,669千円	22,875千円	－	－
事業費決算額	18,371千円	18,511千円	18,069千円	－	－
年度目標に対する達成率	87.0%	72.1%	－	－	－
基準値に対する増減率	−13.1%	−26.1%	－	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	感染症の影響で健診受診率が一時的に下がっていると予測し、今後も感染症対策を講じながら継続する必要がある。
PLAN R4年度の 取組内容	・特定健診及び特定保健指導により、市民の生活習慣の改善を図る。 ・市民が健康を意識し自ら受診行動をとることができるよう、健診の重要性等についての周知・啓発を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	・特定健診 集団健診:6～9月に羽咋すこやかセンターで16回実施(受診者数:524人) 個別検診:6月～8月に市内協力医療機関11か所で実施(受診者数:639人) ・未受診者健診 集団健診:10～12月に羽咋すこやかセンターで5回実施(受診者数:264人) 個別健診:10～11月に市内協力医療機関10か所で実施(受診者数:178人) ・特定保健指導 7～3月に健診結果説明会等で特定保健指導対象者・糖尿病重症化予防対象者に個別保健指導を実施(実施者数:367人) ・未受診者勧奨及び健診結果情報提供依頼の案内発送 特定健診未受診者へ電話勧奨を746件実施し、医療機関で管理中の方や、職場等で健診を受けた方から検査結果の提供は152件あった。 ・感染症対策を講じて健診を実施したが、感染を懸念して健診控えする方が多く実績値が下がった。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・特定健診 集団健診:6～9月に羽咋すこやかセンターで13回実施(受診者数:499人) 個別検診:6月～8月に市内協力医療機関10か所で実施(受診者数:652人) ・未受診者健診 集団健診:10～12月に羽咋すこやかセンターで6回実施(受診者数:256人) 個別健診:10～11月に市内協力医療機関9か所で実施(受診者数:124人) ・特定保健指導 7～3月に健診結果説明会等で特定保健指導対象者・糖尿病重症化予防対象者に個別保健指導を実施(実施者数:588人) ・未受診者勧奨及び健診結果情報提供依頼の案内発送
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	感染症対策を徹底した健診体制と受診しやすい環境の整備。 健診の必要性についての発信。 未受診者勧奨を継続し、受診率向上につなげる。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	20	①受診率の低下は感染症の影響のみではないと思う。幅広のヒアリングが必要なのでは。 ②未受診者への勧奨を行いながら努力していってほしい。 ③周知徹底を図り、未受診者勧奨の継続に期待。 ④実績値が下がったといいながら数字が入っておらず評価でもない。 ⑤健診をきっかけに自身の健康状態を把握することはよいことだと思います。ただ、健診結果の一部については、郵送による本人への交付を認めず、指定された日時にすこやかセンターまで取りに行かなければならない取扱いは、現役世代の仕事の関係上むずかしいと思います。改善を求めます。 ⑥健康に対する意識づけや健診場所への送迎の手段の確保の工夫も必要。 ⑦情報発信を継続してください。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

69	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(1)健康でアクティブな生活の実現	地域包括ケア推進室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②高齢者筋力トレーニング教室参加率	7.0%	4.6%

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5.0%	5.5%	6.0%	6.5%	7.0%
実績値	4.4%	5.1%	5.1%	－	－
事業費予算額	1,266千円	2,400千円	1,834千円	－	－
事業費決算額	963千円	1,097千円	1,175千円	－	－
年度目標に対する達成率	88.0%	92.7%	85.0%	－	－
基準値に対する増減率	−4.3%	10.9%	10.9%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	延べ開催回数及び延べ参加者数の増加。
PLAN R4年度の取組内容	高齢者(65歳以上)が要支援、要介護状態になることを出来る限り防ぎ、健康寿命を延伸するよう体力の維持や増進に努める。高齢者自らが主体的に介護予防活動に取り組めるよう、教室参加によるインセンティブや介護予防手帳の活用・周知を図る。
DO 事業スケジュール 課題など (具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	【実施場所】羽咋すこやかセンター(週2回)、各地区18カ所19教室(1回/週から2回/月) 【実施方法】市が健康づくり指導員を派遣し、各地域の自主グループが主体となり実施 【内容】ストレッチ、筋トレ、頭の体操、健康ワンポイントアドバイス等 【健康づくり指導員の育成】研修会、連絡会の開催。指導員の知識の習得と指導スキルの向上を図る。各地区での取り組みを情報交換し、介護予防の充実を目指す。 【インセンティブの付与について検討】参加者自らが主体的に介護予防活動に取り組めるようインセンティブの付与について検討する 【介護予防手帳の活用】参加者自らの介護予防活動を見える化し、継続的に取り組めるよう介護予防手帳の活用の周知を図る 【介護予防活動の広報活動】筋トレの取り組み内容や効果について広報に掲載し、普及啓発に努める
CHECK 3月末時点 (1年間の振り返り及び効果検証)	・コロナによる影響が少なくなりつつあり、各地区の開催も通常にもどりつつある。延べ開催回数及び延べ参加者数は増加している。 ・介護予防ポイント事業を登録制とした。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	・羽咋すこやかセンターについて、他の地区会場同様に参加者が主体的に参加できるよう、筋トレ運営事業を委託する。 ・介護予防ポイント事業の対象となる活動の拡大。 ・毎月広報に筋トレの紹介記事掲載中。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	20	①筋トレ、ストレッチ以外にも楽しみながら団体で取り組めるスポーツやレクリエーションで効果があると参加率も上がるのでは。 ②高齢化が進む社会にあって大事な取組なので継続して進めてほしい。 ③筋トレの大切さをPRしもっと広まればいいなと思う。 ④フレイル予防のためにも情報発信と啓蒙活動を望む。 ⑤男性にもおすすめしてほしい。 ⑥健康寿命を伸ばすためによい取り組み。運動不足を感じている若者やミドル世代にも間口を広げてもいいのではないか。 ⑦時間にゆとりのある人で健康意識の高い人の参加は期待できる。参加したい気持ちはあっても仕事と開催日がブッキングして参加できない人もいるのでは。継続した取り組みが必要。 ⑧公民館などを活用して、地元の人が集まれる機会にもなればよい。筋力をつけることはもちろん、人とのコミュニケーションの機会になればよい。 ⑨要支援、要介護を除いた人の何%にあたる人が参加しているのか？
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

70	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(2)地域活力の維持と協働のまちづくりの推進	生涯学習課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①市民憲章実践活動団体助成団体数	15団体(R2～R6年度累計)	0団体

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3団体	6団体(累計)	9団体(累計)	12団体(累計)	15団体(累計)
実績値	3団体	5団体(累計)	7団体(累計)	－	－
事業費予算額	600千円	600千円	600千円	－	－
事業費決算額	320千円	260千円	290千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	83.3%	77.8%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	○	○		
評価の理由	募集期間の見直しを行い、応募機会の増加を図った。				

PLAN R4年度の 取組内容	市民憲章推進基金(らぶ❤はくい基金)制度の周知徹底、及び実践活動団体等への支援
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①9月・1月の年2回募集を行い、市民憲章の啓発と自主的・自発的な実践活動の推進を図っていく。 ②ホームページを編集する等、携帯電話から手軽にアクセスできるよう広報・啓発方法を工夫することで、広く周知を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①3団体の応募があり、うち2団体に対して助成を行った。 ②通念を通して応募を受け付けることとし、応募機会の増加を図った。 ③選考委員会の委員数を減員し、業務のスリム化を行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き制度の周知について、方法の改善・露出頻度の増加を図る。

有識者会議による検証評価

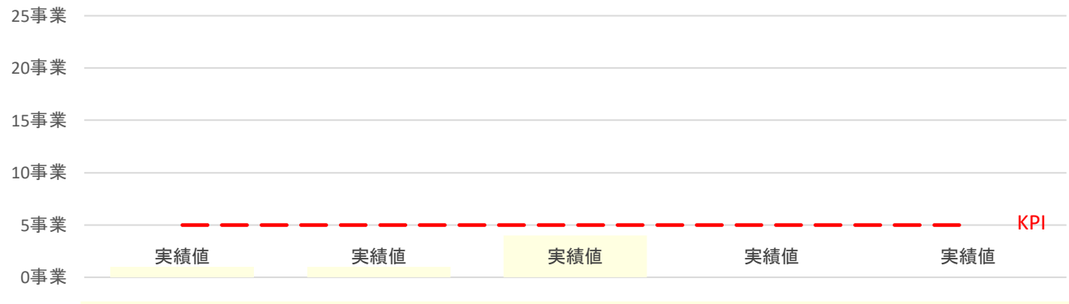
評価	総数	意見
◎	1	
○	15	①広報やマスコミに紹介してもらい広く市民に周知してほしい。 ②市民憲章推進基金制度の周知、理解促進から始めるべきではないか。 ③どれだけの団体を想定しているのか。できる事はすぐにやった方がいいと思う。 ④手続きの煩雑さが抵抗になっている面もあるのでは？その面での支援が必要。 ⑤必要なことなら情報を発信してほしい。どういうものなのかの説明がもっと必要なのかもしれない。
△	5	①市民憲章推進基金制度の内容の周知が必要である。(知っている人は少ない) ②何の事業か全く分からない。助成って何？ ③助成の広報も必要だが、やりたいことのある人に具体的にどうするか、指南することが必要。 ④広く市民に周知されているとは思えない。助成金の額も原則5万円(限度額20万円)では、応募少ないと思う。選考委員会まで設けているのであれば、申請内容についてある程度厳正に対応するであろうから、助成金額をアップしても良いのではないでしょうか。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

71	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(2)地域活力の維持と協働のまちづくりの推進	地域振興室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②若者、小中校生による羽咋創生事業の提案数	5事業(R2～R6年度累計)	2事業



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1事業	2事業(累計)	3事業(累計)	4事業(累計)	5事業(累計)
実績値	1事業	1事業(累計)	4事業(累計)	－	－
事業費予算額	20千円	200千円	4,470千円	－	－
事業費決算額	20千円	672千円	4,242千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	50.0%	133.3%	－	－
基準値に対する増減率	−50.0%	−50.0%	100.0%	－	－
担当課評価	◎	○	◎		

評価の理由	住民自治報告会で羽咋中・邑知中生徒のそれぞれからまちづくりの活性化につながる提案があり、外部デジタル人材による具体な実装事業が発案されたため。
PLAN R4年度の 取組内容	・地方創生推進人材や団体等の育成、支援、確保 ・市民が参画した地方創生主要事業の検討・立案 ・RESAS、ビッグデータ等の客観的データに基づく市政策立案の支援
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①住民自治活動報告会を開催し、市内において住民主体の取り組みを行っている町会や市民団体の報告会を開催し、協働の地域づくりの横展開を図る。 ②外部からデジタル人材を活用し、スマートシティの推進やビッグデータに基づく有効な施策の企画・立案につなげる。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①昨年10月に住民自治活動報告会を開催し、有償ボランティアによる地域の支えあいに取り組む寺家町の事例や、交流の拡大から移住につなげる菅池町の事例を紹介。 　市内中学生や、地域おこし協力隊からの発表などもあり、さまざまな視点から本市の地域づくりに対する報告が行われ、約70人の市民がこれからの地域のあり方を模索した。小規模多機能自治の先進的取り組みを行っている南砺市の事例にも触れる機会となった。 ②昨年10月から6カ月間、金沢大学等と連携してデジタル人材1名を委嘱。スマートシティの推進やデータの利活用などのテーマに沿って市職員との協業を図った。本市スマートシティの現状や課題を外部の目線で整理し本市にとってどのような取り組みが有効か提案。提案内容については、令和5年度策定予定の総合戦略に反映する予定である。また、データ分析し市内の「通いの場」の利用者の健康度が高いことを裏付ける分析も行った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和5年度も引き続き、協働の地域づくりにつながる、住民向け報告会やアンケートの実施し、住民主体の地域づくりにつなげる。デジタル人材についても新たに登用し、外部からの知見も取り入れて、本市のデジタル化やスマートシティ推進を積極的に図っていく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	16	①小中学生が市の職員から市の情報を聞いたりアドバイスをしてもらったりして自分たちの活動につなげているニュースを新聞等で目にするがよいことだと思う。 ②直接、市中の小学校に積極的に足を運び、市の施策や取組等を紹介する機会を増やしていってほしい。 ③長期的な視点での人材育成に寄与している。更なる取組の深化に期待したい。 ④よい取り組み。子どもの頃から前向きに地域課題と向き合う経験は郷土愛を深める。 ⑤小中学生が地域の事を学ぶことは将来のためにも良いことだと思う。小中学校と連携した取り組みも必要。 ⑥市内の学校に周知し、現場でもできる範囲で総合的な学習の時間や探求の時間などの学びのゴールとして、市に提案できるような機会を作ればよいと思う。課題を限定し、市民からの意見を広報誌などでQRコード形式で意見を募るなどすれば、より多様な意見が得られると思う。
○	5	①4事業は何を数えているのか不明。 ②外部デジタル人材の委嘱が予算、決算額に反映されているのでしょうか。そうであれば、本来のKPIから外れてしまうのではないかと感じました。本来の趣旨である「若者、小中学生」による提案を中心とした事業に期待します。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

72−1	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(3)住民主体の支えあいのまちづくりを推進	地域包括ケア推進室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①生活支援協議体の設置数	11箇所	3箇所

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	6箇所	8箇所	9箇所	10箇所	11箇所
実績値	5箇所	7箇所	8箇所	−	−
事業費予算額	9,056千円	6,356千円	7,200千円	−	−
事業費決算額	5,133千円	5,211千円	6,347千円	−	−
年度目標に対する達成率	83.3%	87.5%	88.9%	−	−
基準値に対する増減率	66.7%	133.3%	166.7%	−	−
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	継続的な取り組みが必要であるから。
PLAN R4年度の 取組内容	市民が主体的に、身近な地域の課題を解決するための取り組みや担い手の掘り起こしなどを行うための地区ごとの検討組織である第2層生活支援協議体の立ち上げと活動支援を行う。 また、地域での支えあいの取り組みに関する周知を行い、担い手の掘り起こしにつなげる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	新型コロナウイルス感染予防を図りながら、生活支援コーディネーターの委託先である社会福祉協議会の後方支援を行いながら、下記の取り組みを実施する。 ①地域住民の理解を深めるため、「地域で支えあうまちづくり」を考える懇談会を富永地区、羽咋地区、邑知地区に対して行う。 ②「地域で支えあうまちづくり」を考える懇談会実施後、第2層生活支援協議体設立に向けた支援を行う。 ③既設の第2層生活支援協議体に対する活動支援を継続する。 ④地域での支え合いの取り組みに関して、市民に周知する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①「地域で支えあうまちづくり」を考える懇談会を羽咋地区で4回開催。(7/23、9/5、10/12、11/9) ②準備会を経て、1月20日に羽咋地区第2層生活支援協議体を発足した。 ③第2層生活支援協議体(一ノ宮地区、柴垣町、千里浜地区、越路野地区、鹿島路地区、粟ノ保地区、余喜地区)の定例会に参加し、地域の課題の抽出及び課題に対する解決策の検討等を実施。1町会、2地区で、訪問型生活支援サービスを開始。 ④第2層生活支援協議体の取り組みに対して、市及び社協の広報で周知。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き第2層生活支援協議体の立ち上げと活動支援を行うとともに、現在行っている活動について、広く市民に周知し、担い手の掘り起こしを行いたい。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	20	①各町でどのような活動をしているのかの情報交流が少ないように思う。もっと互いに交流し刺激し合うことが必要。 ②共助の仕組みは重要。更なる活動の深化に期待。 ③発足後の活動が今後の課題。 ④何をしていて、どんなことを取り組んでいくのかをもっと発信してほしい。自分の住む町、地区を良くしたいと考えている若者もいるはず。
△	1	①設置することで活動が見えない地区もある。鹿島路のような活動が広がればいい。発足式で名前を付けることに時間をかけすぎ。設置段階でも住民が事業内容を理解していない。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

72−2	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(3)住民主体の支えあいのまちづくりを推進	地域振興室 農林水産課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①「地域運営組織」及び「小さな拠点」設置数	3箇所	−

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	0箇所	1箇所	2箇所	2箇所	3箇所
実績値	1箇所	1箇所	1箇所	−	−
事業費予算額	58,800千円	5,000千円	5,332千円	−	−
事業費決算額	48,871千円	4,598千円	5,127千円	−	−
年度目標に対する達成率	−	100.0%	50.0%	−	−
基準値に対する増減率	−	−	−	−	−
担当課評価	○	◎	◎		

評価の理由	住民主体の組織体制が築くには至っていないが、鹿島路、神子原地区において住民主導の取り組みが着実に進んでいるため。
PLAN R4年度の 取組内容	再整備した神子原農林水産物直売所を「小さな拠点」として、中山間地域における持続可能な拠点づくりを支援していく。また、鹿島路地区のコミュニティビジネスを生かした協働の地域づくりをフォローアップする。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	【神子原地区について】 ①配食サービスなどの利用者拡大に向けた取組支援。 ②地域住民のたまり場スペースの設置に向けた取組を支援。 ③地域農業の継続的発展を目的とした集落営農「あぐりみこはら」の組織化に向けた取組の指導・助言。 ④事業の進捗状況は2半期毎に検証し、相互の協議の上、適切な支援を実施。 【鹿島路地区について】 新たに市が地域おこし協力隊を募集して、鹿島路地区の地域づくり尽力してもらえるよう支援する。市からの市民提案型まちづくり支援事業となっているコミュニティビジネスについても、持続可能な取り組みとしての深化・発展できるようにフォローアップを図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	【神子原地区について】 地域拠点としての集落営農組織構築の推進を図るため、神子の里において農業担当職員を雇用し、農業部門の強化を図った。また、里山と伝統産業の保全を目的とした地域おこし協力隊を新たに募集し、夏季は神子原米や酒米の栽培、冬季は、御祖酒造で蔵人として伝統芸能を習得する。 【鹿島路地区について】 令和4年10月から鹿島路地区において地域おこし協力隊を1名登用し、鹿島路地区の特産品のブランド化や情報発信に従事。地域のインスタ開設や道の駅での試験的販売などにトライし、鹿島路地区の地域づくりにつながるような活動を展開している。協力隊としての成果はこれからになるが、町会、協力隊、行政が連携し本市における住民主体の地域づくりのモデルとして先進的に取り組んでいる。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	【神子原地区】 神子の里を中心とした農地集積や集落営農構築の推進、農村環境の保全の取組を支援。新たに任用した地域おこし協力隊により、地域資源の掘り起こし、情報発信・特産化活動を実施。 【両地区共有】 鹿島路、神子原地区のいずれにおいても全住民アンケート調査結果に基づき、地域住民のニーズを踏まえた取り組みとして実証から実装につながるよう努めている。令和5年度は、両地域のフォローアップを行うとともに、他の地域でもアンケート調査を実施し、地域住民が求める取り組みの実装につながるよう推進していく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	16	①神子原地区は、水稲種子の産地であり、集落営農化による存続を期待しているが、農家全体で意思統一が必要だと思う。 ②アンケート等を実施して取組を進めていっているのはよい。今後は地域を広げていってほしい。 ③モデル事例としては成功していると思うので、他地区での広がりに期待したい。 ④アンケートなどで地域住民のニーズからはじまるのがよいと思う。地域に中心となる人物が必要に感じる。
○	5	①1か所はどこをさしているのか、わかりません。 ②地域おこし協力隊の個人的手腕のみならず行政としてのバックアップが重要と考えます。小さな拠点新規設置の具体策は行政として持ち合わせているのでしょうか。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

73	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(3)住民主体の支えあいのまちづくりを推進	農林水産課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②「小さな拠点」による提供サービス延べ利用者数	5,000人	－

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	0人	700人	2,100人	3,800人	5,000人
実績値	0人	296人	866人	－	－
事業費予算額	－	5,000千円	5,000千円	－	－
事業費決算額	－	4,598千円	4,795千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	42.3%	41.2%	－	－
基準値に対する増減率	－	－	－	－	－
担当課評価	○	△	△		
評価の理由	配食及び日用品配達の基盤は整ったが、利用者数がまだ少ない。農業部門の強化に向けて、人材を確保した。				

PLAN R4年度の 取組内容	施設運営の安定化及び中山間地域の高齢者が安心して暮らすことができる「小さな拠点」づくりを行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①配食サービスなどの利用者拡大に向けた取組支援 ②配食・配達サービスや見守り活動の運用体制の構築 ③地域住民のたまり場スペースの設置に向けた取組を支援 ④地域農業の継続的発展を目的とした集落営農「あぐりみこはら」の組織化に向けた取組の指導・助言。 ⑤ウィズコロナを見越したイベントの企画を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・毎月発行の「みこさとだより」で、当月のイベント、商品、各種サービスの案内、また配食車の各地区の立寄日を掲載し、利用者へサービスの周知、浸透を図っている。併せて見守り活動を実施。 ・地域農業の継続的発展を目的とした集落営農「あぐりみこはら」の組織化については、農業部門の人材を新たに増員し、体制強化を図った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方	・配食サービス等の基盤は概ね整い、サービスは認知されているが、利用者がまだ少ないため、今後も利用者増に向けての取組を支援する。 ・地域農業の継続的発展にむけて、地域が求める集落営農の組織化を支援する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	4	①目標値は適正でしょうか？実績値は着実に伸びているし、よいと思います。 ②「サービスは認知されているが、利用者がまだ少ない」ということは、それを必要としている人がそれだけだということではないか。だとしたらこの取組内容を見直す必要があると思うし、一方で、目標5,000人が多すぎるという意見があるが、市が調査して5,000人必要としているという結果があるのならば5,000人を目指すべきだと思う。
△	17	①利用者の数のみに着目するのではなく、随時サービス内容の見直しが必要ではないか。 ②景観維持や災害防止の観点で農地を守ることは重要。新たな取組みに期待したい。 ③よく分からない事業。神子原だけの事業？ ④延べ利用者数と農業は関係あるのか。 ⑤神子原地区以外に具体的な動きがあるのでしょうか。 ⑥KPIを見直しても良いのでは。ニーズがなければ利用者も増えないと思う。利用者数も重複していると思うので、実際にはどれくらいの世帯で利用されているものなのか。希望する世帯があるなら、自宅まで届けるサービスも検討してみては。
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

74	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(3)住民主体の支えあいのまちづくりを推進	地域包括ケア推進室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
③住民主体の「通いの場」(月2回以上)の箇所数	30箇所	22箇所

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	26箇所	27箇所	28箇所	29箇所	30箇所
実績値	26箇所	26箇所	24事業	－	－
事業費予算額	3,876千円	7,406千円	6,600千円	－	－
事業費決算額	3,619千円	2,992千円	3,089千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	96.3%	85.7%	－	－
基準値に対する増減率	18.2%	18.2%	9.1%	－	－
担当課評価	○	○	○		

評価の理由	通いの場が2か所減少したが、ウィズコロナの中、活動を工夫した24箇所の運営は維持出来た。
PLAN R4年度の 取組内容	ウィズコロナでの活動を支援していく。 自らが自立した生活を続けるという意識をもってもらうために、主任ケアマネジャーが地域に出向き講話を行う。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	・コロナ禍においても感染対策を行った上で活動が継続できるよう、支援する。 ・住民主体の通いの場等活動補助金交付について、補助金の活用や補助金交付申請及び実績報告等の事務処理に関する支援を行う。 ・主任ケアマネジャーと連携し、高齢者が自立した生活を維持するための普及啓発活動を行う。5月～3月の期間に各通いの場を月に1～2か所訪問する。 ・各団体の情報共有や意見交換などを行うための連絡会や研修会を年2～3回開催する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	・コロナ禍で活動規模を縮小していた団体もあるが、フレイルや認知症の予防を目的に、訪問や電話等で活動形態を工夫して継続していた。感染対策を徹底した上での活動を支援するため、市から消毒液の補充や体温計の貸し出しを継続した。コロナ禍により活動休止していた団体のうち、世話人の体調不良・開催場所等の都合等を理由に再開できていない通いの場が2か所ある。 ・住民主体の通いの場等補助金交付について、説明会を開催した。 ・通いの場7箇所に出向き、主任ケアマネ、包括職員が自助についての講話を行った。 ・通いの場の連絡会を開催し、特色ある通いの場の活動発表、情報交換会を行い、通いの場の運営の工夫を共有し合った。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	コロナが感染症法5類に移行後もウィズコロナでの活動を支援していく。また、高齢者自らが自立した生活を続けるという意識を持ってもらうために、引き続き主任ケアマネ等が通いの場に出向き講話を行う。 地域住民、居宅介護事業所、医療機関等へ通いの場の周知を行い、参加者数が増えるよう普及啓発を行う。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	1	
○	19	①高齢化社会の現代において大事な取組であり今後も継続してほしい。 ②フレイル予防のためにも重要な取組み。継続を望む。 ③増やすことも大事だが、各町内にあること、継続が大事。 ④運営する人達への手厚い支援が必要。 ⑤心と体の健康を維持できる活動になってほしい。他の地区での活動などを共有して、良いものは広げていけばよいと思う。
△	0	
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

75	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(4)産学官連携による健康寿命の延伸や地域づくりの展開	地域振興室

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①産学官連携によるデータ分析を活用した各種計画事業数	5事業(R2～R6年度累計)	1事業

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1事業	2事業(累計)	3事業(累計)	4事業(累計)	5事業(累計)
実績値	2事業	4事業(累計)	5事業(累計)	－	－
事業費予算額	1,100千円	2,000千円	3,970千円	－	－
事業費決算額	700千円	2,000千円	3,970千円	－	－
年度目標に対する達成率	200.0%	200.0%	166.7%	－	－
基準値に対する増減率	100.0%	300.0%	400.0%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		

評価の理由	大学、民間企業、外部デジタル人材からの協力を得てEBPMにつながる分析結果を導き出したため。
PLAN R4年度の 取組内容	産学官連携による健康寿命延伸を目的とする調査・分析から施策立案。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①過年度実施した市、金沢大学、あいおいニッセイ同和損保ジャパン㈱、市交通安全協会、羽咋警察署の5者で連携し、高齢者を主とした市民の市内における運転状況を調査結果を踏まえ、市内の交通安全に係る危険箇所を特定し、交通安全の見える化を図る。 ②大学や民間企業と連携を図りながら、外部のデジタル人材を登用し、庁内ビッグデータを活用して健康寿命の延伸に関するEBPMを図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①大学、民間企業と連携したデータに基づく事業実装の新たな切り口として、8月に金沢大学の協力を得て開催した共同研究報告会で成果還元がされた。市の交通安全対策の方向性を裏付ける貴重な分析結果として、市の施策に反映していく。 ②健康寿命の延伸をテーマとし、外部デジタル人材の協力を得て市内「通いの場」の健康に資する効果について、データに基づく分析を行い、通いの場に一定回数(10回以上)通う人々は、良好な健康状態をキープする傾向があることが裏付けられた。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①今後は、産学官のデータ分析結果について、官民連携で令和4年度に構築したデータ連携基盤に取り込み、他のビッグデータと組み合わせることができるかということや、市民に公開情報として還元できるか検討していく。 ②データに基づく施策立案はスマートシティ推進の観点からも重要であり、引き続き、外部人材、大学、民間企業からの協力を得ながら新たなEBPM事業の実装につなげていく。

有識者会議による検証評価

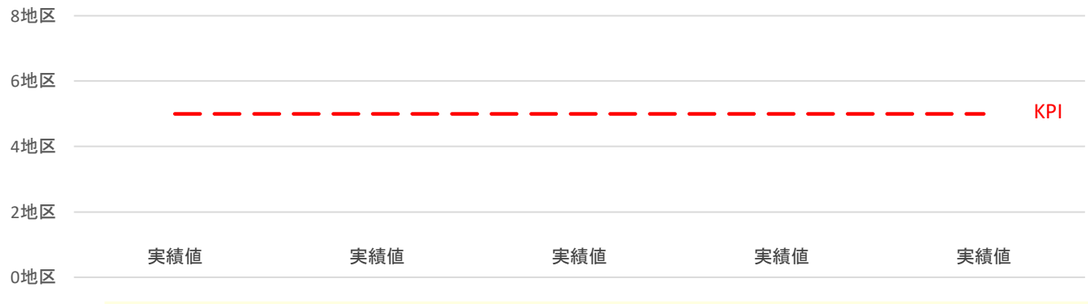
評価	総数	意見
◎	13	①結果の早期還元に期待します。 ②分析結果を活かしてほしい。今後の展開も発信してほしい。
○	7	①データ化は基盤として大事であるが、データを基にどのようなことを実践していくのかが更に難しいことなので実施につなげてほしい。 ②健康のデータを公表してほしい。 ③各種の計画事業の実践と成果に期待する。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

76	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	1 誰もが生涯活躍できるまちの構築	担当課
	(4)産学官連携による健康寿命の延伸や地域づくりの展開	地域包括ケア推進室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
②買い物支援マルシェ開催地区数	5地区(R2～R6年度累計)	1地区



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1地区	2地区(累計)	3地区(累計)	4地区(累計)	5地区(累計)
実績値	0地区	0地区(累計)	0地区(累計)	－	－
事業費予算額	－	－	－	－	－
事業費決算額	－	－	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	0.0%	0.0%	0.0%	－	－
基準値に対する増減率	−100.0%	−100.0%	−100.0%	－	－
担当課評価	△	△	△		
評価の理由	目標値の変更が必要であるから。				

PLAN R4年度の取組内容	地域の買い物支援をはじめとした生活課題について、住民、地域商店、関係機関と共に解決方法を検討しながら、必要な生活支援の拡大創出に繋げる。
DO 事業スケジュール課題など (具体例:いつ、誰が、どこで、何を…)	・地域の社会資源について整理し、見える化を行う。 ・地域の買い物支援をはじめ、生活課題については、第2層生活支援協議体と共に具体策を企画、立案する。 ・市全体として検討すべき生活課題については、第1層生活支援協議体及び関係機関と解決方法を検討する。
CHECK 3月末時点 (1年間の振り返り及び効果検証)	・第2層生活支援協議体を中心に地域の社会資源について情報収集し、一部の地区に対して、地域資源一覧を作成した。 ・新型コロナウイルス感染拡大によりR2年3月から「買い物支援マルシェ」を中断。 ・計画当初にはなかった移動スーパー「とくし丸」がR2年9月16日から、「コポ丸便」がR4年5月から開始し、買い物支援の課題の一部が解消した。 ・移動スーパーで対応できない買い物について第2層生活支援協議体で検討中。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	地域の社会資源について活用できるように市内全域の一覧表を作成する。 買い物支援をはじめ、どのような生活課題があるか第2層生活支援協議体で整理しながら、課題解決の立案・実施を行う。 また、第2層生活支援協議体で挙げられた生活課題を、第1層生活支援協議体や関係機関とも共有しながら解決方法を検討する。

有識者会議による検証評価

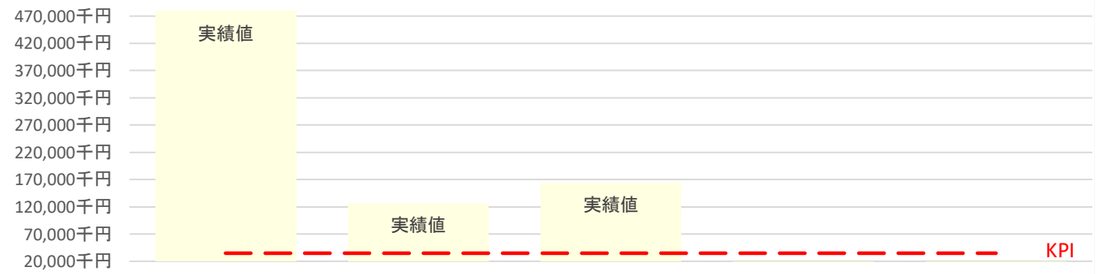
評価	総数	意見
◎	0	
○	3	①交通手段のない高齢者にとってありがたい取組である。
△	17	①買い物支援を必要としている人は一定数存在しているため、計画的な運行が望ましい。 ②買い物難民を救うための施策について、実態を踏まえ、より適切な取組となることを期待。 ③予算、決算がない事業については、評価することは困難です。 ④民間の「とくし丸」や「ユポ丸便」である程度補えるならそれがよい。 ⑤買い物に出れない人にとっては良い取り組みである。月に1回、2回でもその時その場は社交の場となり人との交わりをもつことができる。 ⑥KPIの見直しが必要なのでは。マルシェは必要とされているのか。「とくし丸」や「コポ丸便」の利用状況、利用人数をKPIにしてはどうか。
×	1	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

77	V 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	2 地域の賑わい創出	担当課
	(1)市内商店街の活性化	商工観光課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①地域商品券販売額(行政分)	35,000千円	22,000千円



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	22,000千円	22,000千円	33,000千円	33,000千円	35,000千円
実績値	478,717千円	126,329千円	164,217千円	－	－
事業費予算額	2,000千円	184,147千円	81,400千円	－	－
事業費決算額	223,227千円	133,829千円	173,617千円	－	－
年度目標に対する達成率	2176.0%	574.2%	497.6%	－	－
基準値に対する増減率	2076.0%	474.2%	646.4%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	目標値を大幅に超える実績となり消費喚起につながった。				

PLAN R4年度の 取組内容	地元商工会、商店会連合会、青年会議所の実施する事業への支援と、地域商品券や行政ポイント等の発行支援により、地域経済の活性化と賑わい創出につなげる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	羽咋市商店会連合会の運営活動を支援し、商店街づくりに係る支援を実施する。 今年度は、コロナ禍対策の商品券及びプレミアムUFOポイントを予算に計上。市民の消費喚起と地域商業の活性化を図る。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度には、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中での市民の消費喚起策として前期(6月～11月)、後期(9月～3月)の2度商品券を発行し、また、7月、8月、12月の3回プレミアムUFOポイント付加事業を実施し、切れ目ない対策を行った。 【UFO商品券発行事業】 前期発行額:451,332千円(回収率99.8%) 後期発行額:475,836千円(回収率99.8%) 【UFOポイント付加事業】 7月:2,886千円 8月:1,428千円 12月:4,443千円
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	令和5年度については、新型コロナウイルスの影響は縮小していくものの物価高騰の影響が続くため、引き続き市民の消費喚起と地域経済の活性化のため商品券を発行及びプレミアムポイント付加を実施する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	15	①確実に地域経済の活性化に貢献している。 ②効果もあり、必要な事業と考えられるので継続を望む。 ③域経済の活性化に役立った。 ④購買意欲を高めるためにも有効。 ⑤物価上昇もあるので、プレミアム商品券はとてもありがたい。市民の消費喚起の効果はあると思う。
○	6	①プレミアム商品券は市民の購買意欲につながるよい取組である。継続を。移動スーパーは高齢者にはうれしい取組であり品物を工夫して継続してほしい。 ②小型店が潤う方法を検討してほしい。 ③KPIは達成していますが、決算額が予算額を大きく上回っています。適正な数値なのでしょうか。また、商品券がどの業態で使用されることが多いのか気になるところです。
△	0	
×	0	

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

78	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	3 再生可能エネルギーなどを利活用した環境保全の推進	担当課
	(1)再生可能エネルギー利活用による脱炭素社会の推進	環境安全課

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①二酸化炭素排出量	5,000トン	5,346トン

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	5,400トン	5,300トン	5,200トン	5,100トン	5,000トン
実績値	4,647トン	4,818トン	4,440トン	－	－
事業費予算額	－	－	0千円	－	－
事業費決算額	－	0千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	86.1%	90.9%	85.4%	－	－
基準値に対する増減率	−13.1%	−9.9%	−16.9%	－	－
担当課評価	◎	◎	◎		
評価の理由	目標値を達成しているため。				

PLAN R4年度の 取組内容	地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出を抑えるため、エコライフの推進や自然エネルギーの利活用の推進、未利用エネルギーの利活用の支援に取り組む。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	引き続き、市施設の設備更新や今後建設する施設設備において、再生可能エネルギー・省エネルギー技術の導入を推進する。 市民に対し、太陽光発電システムに付帯するリチウムイオン蓄電池の設置費補助の制度を周知する。学校や地域を通じ、県が実施する「省エネ・節電アクションプラン」を周知し、家庭でのエコライフへの取り組みを推進する。
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	二酸化炭素排出量は基準年度より16.9%減少している。 主な理由としては、再生可能エネルギーの増加等で、電力を生み出す際に発生する二酸化炭素排出量が削減されており、そのため市管理施設等での電気使用量は増加しているが、二酸化炭素排出量が減少していると考えられる。また、二酸化炭素排出量が多いLPGの使用量が設備更新などにより減少したことも挙げられる。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	引き続き、市施設の設備更新や今後建設する施設設備において、最新の省エネルギー・再エネルギー技術(特に電気使用量を削減できるもの)の導入を推進していくとともに、省エネ効果の高い製品等の積極的利用を推進する。 市民に対しても、市の補助制度や県の取組みを周知し、環境意識の向上を図る。

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

有識者会議による検証評価

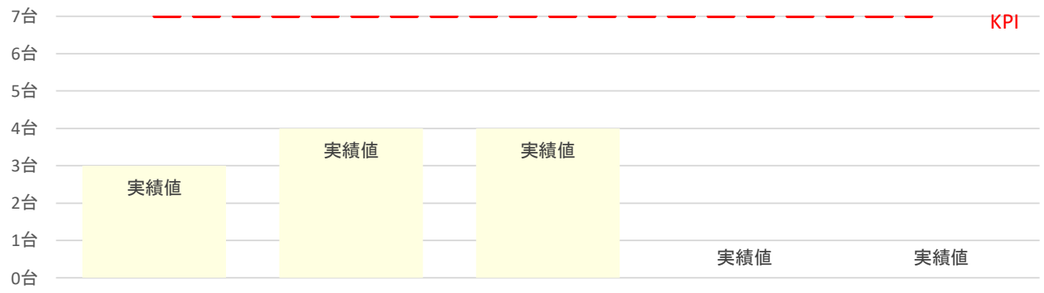
評価	総数	意見
◎	17	①未来に向けて強く推進していってもらいたい。実績値の根拠が明確になれば実感でき理解度が上がる。 ②行政が率先して取組んでほしい。 ③カーボンニュートラルは、世界的な流れ。地道な取り組みに期待。 ④予算額、決算額がない事業について評価することは困難に感じられます。 ⑤公共施設から率先して節電を進めていきましょう。
○	3	①電気使用量が増しているのはどうなのか。
△	0	
×	1	①日本において必要ない。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

79	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	3 再生可能エネルギーなどを利活用した環境保全の推進	担当課
	(2)省エネルギー化の推進による環境負荷の軽減	総務課

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①庁用車の電気自動車等導入台数	7台	4台



	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	3台	4台	5台	6台	7台
実績値	3台	4台	4台	－	－
事業費予算額	－	－	4,500千円	－	－
事業費決算額	0千円	3,190千円	0千円	－	－
年度目標に対する達成率	100.0%	100.0%	80.0%	－	－
基準値に対する増減率	−25.0%	0.0%	0.0%	－	－
担当課評価	○	○	△		
評価の理由	計画通り進んでいないため、運用方針の見直しを検討。				

PLAN R4年度の 取組内容	公用車更新の際に電気自動車や、ハイブリッド車等の低公害車での更新として導入台数を増加させる。
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	現在の低公害車の台数3台(令和元年度当初4台から1台減) 総務課　3台　e－NV200(電気自動車)、リーフ(電気自動車)、プリウス(HV) ※ 税務課　1台 ⇒ 0台　プリウス(HV) 令和元年度に軽自動車に更新し廃車済 更新予定公用車　(3台の更新により目標台数7台の達成を計画する) 総務課　ハイエース(普通乗用・ﾃﾞｨｰｾﾞﾙ)　※H12年 6月 登録(20年経過) 生涯学習課　ｶﾛｰﾗﾌｨｰﾙﾀﾞｰ(小型乗用・ガソリン)　※H13年 6月 登録(19年経過) 市民窓口課　ムーブ(軽乗用・ガソリン)　※H15年 5月 登録(17年経過)
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	令和4年度、低公害車の購入実績なし。各課所有の公用車の一部について、CESSによる共有化が進んだため、公用車を更新する必要がなくなった。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	運用方針の見直し(公用車の一括管理、リース等)を検討する。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	0	
○	4	①究極の低公害車は、水素自動車です。水素自動車の導入と水素ステーションの市内設置を検討していただきたいです。民間では費用対効果の面で難しいので行政が行うものと考えます。 ②計画通り取り組みの継続を！！
△	16	①実態に即した運用の見直しは賛成。 ②すぐ実行する事。 ③使う台数を減らしたのならなおいいのではないか。 ④電気自動車は世界的なブームですが、実際は無公害車ではないので、あまり率先して導入しない方が良いと思います。 ⑤効果的な電気自動車の運用を行ってください。
×	1	①日本において必要ない。

第2期　羽咋創生事業　進捗管理シート

80	Ⅴ 人口減少時代に対応した持続可能なまちづくり	
	4 産学官連携による次代に対応した新事業の創出	担当課
	(1)地域づくりに貢献する民間企業等との連携による企画の実現、共同研究の実施	地域振興室

評　価　項　目
◎　取組内容の深化・発展
○　取組内容の継続
△　取組内容の見直し
×　取組の中止・終了

重要業績評価指標(KPI)	最終目標値 令和6年度	基準値 令和元年度
①地域づくりに貢献する民間企業等と連携した新事業数	3件(R2～R6年度累計)	1件

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
目標値	1件	1件(累計)	2件(累計)	2件(累計)	3件(累計)
実績値	－	2件(累計)	3件(累計)	－	－
事業費予算額	1,100千円	2,000千円	3,970千円	－	－
事業費決算額	700千円	2,000千円	3,970千円	－	－
年度目標に対する達成率	－	200.0%	150.0%	－	－
基準値に対する増減率	－	100.0%	200.0%	－	－
担当課評価	○	◎	◎		

評価の理由	企業版ふるさと納税(人材派遣型)を活用した官民連携体制の構築につながったため。
PLAN R4年度の 取組内容	・「羽咋創生」をともに推進するパートナー企業との連携 ・ICT、IoT等を活用した地域活性化とスマートシティの具体的な推進
DO 事業 スケジュール 課題など (具体例: いつ、誰が、 どこで、何を …)	①企業版ふるさと納税を活用した新たな事業の企画・立案(令和5年度中に1事業の企画・立案目標) ②金沢大学等と連携し共創型企業・人材展開プログラムに基づきデジタル人材を登用して、デジタル化・スマートシティ化に向けて外部の専門的知見を得ながら有効な施策立案を図る。(令和4年10月～予定)
CHECK 3月末時点 (1年間の 振り返り及び 効果検証)	①第一生命保険㈱から企業版ふるさと納税(人材派遣タイプ)を活用し、企業版ふるさと納税の寄付を財源とし、民間人材1名を受入れ。令和5年度から移住・定住業務を中心に従事してもらうこととなった。市としては、人件費をかけずに、民間の優秀な人材と連携することができ、企業側も人材育成の観点で行政事務を学ぶ機会の創出につながる。 ②健康寿命の延伸をテーマとし、外部デジタル人材の協力を得て市内「通いの場」の健康に資する効果について、データに基づく分析を行い、通いの場に一定回数(10回以上)通う人々は、良好な健康状態をキープする傾向があることが裏付けられた。
ACTION 対応方向 (上記を踏まえての今後の方向性)	①令和5年度も民間企業との連携に係る新たな切り口として、企業版ふるさと納税を活用した事業構想の展開を図る。 ②データに基づく施策立案はスマートシティ推進の観点からも重要であり、引き続き、外部人材、大学、民間企業からの協力を得ながら新たなEBPM事業の実装につなげていく。

有識者会議による検証評価

評価	総数	意見
◎	18	①外部の専門的意見を活用しながら羽咋の活性化につながる施策を立案してほしい。 ②長期的視点に立った取組は重要。更なる取組に期待。 ③いい取り組み。 ④柴垣を高級リゾートとして企業を呼び込む為、長手島の遊歩道からの岩場越しの絶景を整備して恋人達の聖地作りをお願いします。 ⑤デジタル人材の登用、期待をもって見守りたい。 ⑥産学との連携は大いに進めるべき。互いに得る所は大きい。 ⑦民間企業との連携をはかったより効果的な事業の展開を期待する。 ⑧データを活用して、市民が恩恵を感じられるような取組に期待しています。
○	3	①3件の中身は何か。
△	0	
×	0	